日本医療大学年報

第　2　号

2016年

日本医療大学

目　　次

1　使命・目的等 …… 1
　1－1　沿革 …… 1
　1－2　本学の使命と目的 …… 2
　1－3　機構組織図 …… 4
2　学修と教授 …… 5
　(1)　学生の受入れ …… 5
　(2)　教育課程および教授方法 …… 9
　(3)　学修および授業の支援 …… 10
　(4)　単位認定、卒業・修了認定等 …… 11
　(5)　キャリアガイダンス …… 11
　(6)　教育目的の達成状況の評価とフィードバック …… 12
　(7)　学生支援 …… 12
　(8)　教員の配置・職能開発 …… 16
3　経営・管理と財務 …… 63
　3－1　経営の規律と誠実性 …… 63
　3－2　理事会の機能 …… 67
　3－3　大学の意思決定の仕組みおよび学長のリーダーシップ …… 67
　3－4　コミュニケーションとガバナンス …… 68
　3－5　業務執行体制の機能性 …… 68
　3－6　財務基盤と収支 …… 69
4　自己点検・評価 …… 79
　4－1　自己点検・評価の適切性 …… 79
　4－2　自己点検・評価の誠実性 …… 79
　4－3　自己点検・評価の有効性 …… 87
5　使命・目的に基づく大学独自の基準設定と自己点検・評価 …… 87
　5－1　日本医療大学認知症研究所 …… 87
6　社会貢献 …… 88
7　顕彰 …… 91
8　委員会活動報告 …… 91

1　使命・目的等

1－1　沿革

建学の精神及び教育理念

学校法人日本医療大学（以下「本法人」という。）は、平成元年に社会福祉法人札幌栄寿会が設置した日本福祉学院を起源とし、平成５年、医療と福祉の人材育成にさらに注力するため、社会福祉法人から分離独立して設立された。以来、専門学校３校に７学科を擁し、29年間にわたり5,805人の有為な人材を輩出している。本法人は、実践的な知識と技術及び専門職業人としての態度の修得を目指した職業人教育を通じて、地域社会に貢献してきた。

平成26年４月に、専門学校日本福祉看護・診療放射線学院の看護学科を発展継承する形で日本医療大学（以下「本学」という。）保健医療学部看護学科（入学定員80人）を開学し、平成27年４月には専門学校日本福祉リハビリテーション学院の理学療法学科及び作業療法学科を発展継承する形で保健医療学部にリハビリテーション学科（入学定員80人：理学療法学専攻40人・作業療法学専攻40人）を開設した。さらに、平成28年４月、専門学校日本福祉看護・診療放射線学院の診療放射線学科を発展継承する形で保健医療学部に診療放射線学科（入学定員50人）を開設した。

学校法人の沿革

平成元年４月　日本福祉学院（厚生省指定介護福祉士養成施設）設置
　　総合福祉科を開設（２年課程）
　　入学定員100人（現：介護福祉学科入学定員50人）
平成２年４月　日本福祉学院を専門学校日本福祉学院に名称変更（専修学校認可）
平成５年３月　学校法人つしま記念学園［現：学校法人日本医療大学］設立（社会福祉法人札幌栄寿会から分離独立）
平成６年４月　専門学校日本福祉学院
　　社会福祉士一般通信課程を開設　入学定員300人（現在400人）
平成７年４月　専門学校日本福祉リハビリテーション学院　設置
　　理学療法士学科を開設（４年課程）入学定員40人
　　作業療法士学科を開設（４年課程）入学定員40人
平成８年４月　専門学校日本福祉看護学院　設置
　　看護学科を開設（４年課程）入学定員50人
平成12年４月　専門学校日本福祉看護学院
　　人間総合科学大学人間科学部人間科学科（通信課程）と併修開始
平成15年４月　専門学校日本福祉学院
　　精神保健福祉士短期通信課程を開設　入学定員200人（現在300人）
平成16年４月　専門学校日本福祉リハビリテーション学院
　　診療放射線学科を開設（４年課程）　入学定員50人

平成18年４月　専門学校日本福祉リハビリテーション学院
言語聴覚学科を開設（４年課程）　入学定員40人
平成21年４月　専門学校日本福祉学院
精神保健福祉士一般通信課程を開設　入学定員100人
平成21年４月　専門学校日本福祉看護学院の校名を専門学校日本福祉看護・診療放射線学院に変更し、看護学科及び診療放射線学科の２学科を開設
平成24年４月　専門学校日本福祉学院
福祉士短期通信課程を開設　入学定員100人（現在200人）
平成25年10月　法人名を「学校法人つしま記念学園」から「学校法人日本医療大学」に変更
平成26年４月　日本医療大学　開学
保健医療学部看護学科を開設　入学定員80人
平成26年４月　専門学校日本福祉看護・診療放射線学院
看護学科（入学定員50人）の学生募集停止
平成26年４月　専門学校日本福祉学院
社会福祉士科（入学定員40人）の学生募集停止
精神保健福祉士一般通信科（入学定員100人）の学生募集停止
平成27年４月　日本医療大学　保健医療学部にリハビリテーション学科を開設
入学定員80人（理学療法学専攻40人、作業療法学専攻40人）
平成27年４月　専門学校日本福祉リハビリテーション学院
理学療法学科（入学定員40人）、作業療法学科（同40人）、言語聴覚学科（同40人）の学生募集停止
平成28年４月　日本医療大学 保健医療学部に診療放射線学科を開設 入学定員50人
平成28年４月　専門学校日本福祉看護・診療放射線学院
診療放射線学科（入学定員50人）の学生募集停止
平成28年４月　専門学校日本福祉学院
介護福祉学科（入学定員50人）の学生募集停止

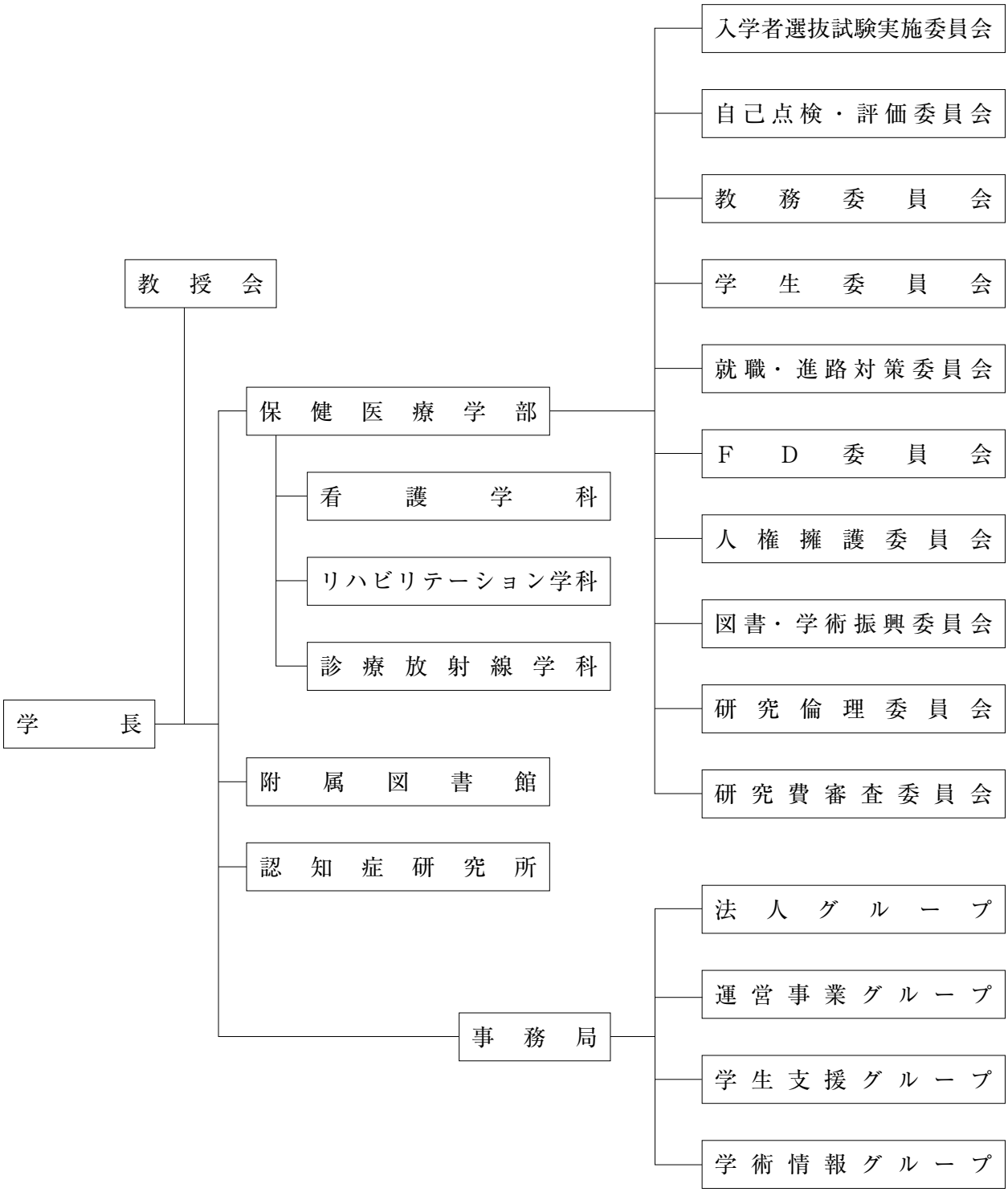
１－２　本学の使命と目的

本学の沿革を遡れば、1983年（昭和58年）に開設された当時としては先駆的な都市型特別養護老人ホーム「幸栄の里」に辿り着く。現在のように高齢者福祉が社会の耳目を集める以前の時代に、理想とする高齢者福祉を実現するためには、その担い手すなわち介護士や看護師、診療放射線技師、リハビリテーションセラピスト、社会福祉士、精神保健福祉士などの医療や福祉従事者の育成が望まれ、次々と専門学校を開設してきた。しかしながら、日々発展高度化する医療や福祉に対応する人材を輩出するには、幅広い教養と高度な医療福祉の知識と技術を修得し問題解決能力に長ける教育を行う必要性から、専門学校教育から大学教育へと変換した。本学の使命は、すなわち「幅広い教養と高度な医療福祉の知識技術を修得し問題解決能力に長けた医療人の育成」である。また、本

学の歴史が高齢者福祉の現場から始まっていることから、「ヒューマニティ（人間尊重・人間愛）に育まれる『人間力』」を建学の精神に、「人間尊重を基盤とした『人間力』を備えた医療人の育成」を本学の教育理念とした。

本学設置の目的は、学則の第１条に謳われているように、「日本医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授及び研究し、人間尊重を基盤とした医療人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康及び生活の向上へ貢献することを目的とする」である。また、同第６条２項に学部及び学科の教育上の目的が謳われており、「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的及び論理的な実践力で地域医療に貢献する医療人を育成する」ことである。

１－３　機構組織図


学長
教授会
保健医療学部
看護学科
リハビリテーション学科
診療放射線学科
附属図書館
認知症研究所
事務局
入学者選抜試験実施委員会
自己点検・評価委員会
教務委員会
学生委員会
就職・進路対策委員会
ＦＤ委員会
人権擁護委員会
図書・学術振興委員会
研究倫理委員会
研究費審査委員会
法人グループ
運営事業グループ
学生支援グループ
学術情報グループ

２　学修と教授

(1)　学生の受入れ

２－１－①　入学者受入れの方針の明確化と周知

本学の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していける学生を求めている。養成する人材が卒業後に札幌地域のみに貢献するのではなく、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めている。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できる逞しい人材を募集します」である。すなわち、将来医療や福祉の現場で実践者となり、地域医療やへき地医療に貢献する気概のある学生を求めている。看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科の入学者受け入れ方針については、各学科の概要の項（看護学科p.16、リハビリテーション学科p.39、診療放射線学科p.52）に記載しており、ホームページや大学案内、学生募集要項にて、周知を図っている。

２－１－②　入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

本学の入学者受入れ方針については、前述の方法のほか、本学が開催するオープンキャンパス、キャンパスツアー、一日体験入学、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、時間を設け説明している。

２－１－③　入学定員に沿った適切な学生受入数の維持

看護学科の入学定員は80人であり、入試は推薦入試（定員30人）、一般入試前期（同40人）、同後期（同10人）の３区分で行われた。平成29年度入学試験においては、志願倍率、受験倍率、実質倍率ともに前年度より減少し、81人の入学予定者となった。（表2－3－1）。

リハビリテーション学科の入学定員は、理学療法学専攻、作業療法学専攻ともに40人である。平成29年度入学試験は、推薦入試（定員10人）、一般入試前期（同20人）、同後期（同２人）に加え、AO入試Ⅰ期（６人）、同Ⅱ期（同２人）の５区分で実施した。両専攻ともに志願倍率、受験倍率、実質倍率は前年度を若干下回り、理学療法学専攻では33人、作業療法学専攻では13人の入学予定者となった（表2－3－2，3）。

診療放射線学科の定員は50人であり、入試区分は推薦入試（定員25人）、一般入試前期（同20人）、同後期（同５人）の３区分である。平成29年度入試においては、志願者数、受験者数、合格者数は前年度とほぼ同数で、53人の入学予定者となった（表2－3－4）。

平成28年４月１日時点での在籍学生数は、表2－1の通りである。

表2－1　学生数

学科・専攻		年次	入学定員（人）	平成28年度			
				総定員（人）	男（人）	女（人）	計（人）
看護学科		1年	80	80	9	82	91
		2年	80	80	14	72	86
		3年	80	80	11	69	80
計			240	240	34	223	257
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	1年	40	40	31	13	44
		2年	40	40	23	14	37
	作業療法学専攻	1年	40	40	20	6	26
		2年	40	40	5	10	15
計			160	160	79	43	122
診療放射線学科		1年	50	50	36	16	52
計			50	50	36	16	52
学部計			450	450	149	282	431

平成29年度　入試区分別（志願者・受験者・入学者）状況

表2－3－1　看護学科

学　　科	看　護　学　科			
入　試　区　分	推薦入試	一般入試		合計
		前期	後期	
定　　員（人）	30	40	10	80
志 願 者（人）	40	151	25	216
受 験 者（人）	40	142	22	204
合 格 者（人）	31	85	19	135
入学者数（人）	31	33	17	81
志願倍率（倍）	1.3	3.8	2.5	2.7
受験倍率（倍）	1.3	3.6	2.2	2.6
実質倍率（倍）	1.3	1.7	1.2	1.5

表2－3－2　リハビリテーション学科　作業療法学専攻

学　　科	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）					
入　試　区　分	AO入試		推薦入試	一般入試		合計
	Ⅰ期	Ⅱ期		前期	後期	
定　　員（人）	6	2	10	20	2	40
志 願 者（人）	4	2	4	20	1	31
受 験 者（人）	4	2	4	20	1	31
合 格 者（人）	4	1	3	19	1	28
入学者数（人）	4	2	3	5	0	13
志願倍率（倍）	0.7	1.0	0.4	1.0	0.5	0.8
受験倍率（倍）	0.7	1.0	0.4	1.0	0.5	0.8
実質倍率（倍）	1.0	2.0	1.3	1.1	1.0	1.1

表2－3－3　リハビリテーション学科　理学療法学専攻

学　　科	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）					
入試区分	AO入試		推薦入試	一般入試		合計
	Ⅰ期	Ⅱ期		前期	後期	
定　員（人）	6	2	10	20	2	40
志願者（人）	14	7	7	54	4	86
受験者（人）	14	7	7	53	4	85
合格者（人）	7	3	7	40	4	61
入学者数（人）	7	3	7	15	1	33
志願倍率（倍）	2.3	3.5	0.7	2.7	2.0	2.2
受験倍率（倍）	2.3	3.5	0.7	2.7	2.0	2.1
実質倍率（倍）	2.0	2.3	1.0	1.3	1.0	1.4

表2－3－4　診療放射線学科

学　　科	診療放射線学科			
入試区分	推薦入試	一般入試		合計
		前期	後期	
定　員（人）	25	20	5	50
志願者（人）	32	55	15	102
受験者（人）	32	53	15	100
合格者（人）	25	34	5	64
入学者数（人）	25	24	4	53
志願倍率（倍）	1.3	2.8	3.0	2.0
受験倍率（倍）	1.3	2.7	3.0	2.0
実質倍率（倍）	1.3	1.6	3.0	1.6

(2)　教育課程および教授方法

２－２－①　教育課程編成方針の明確化

本学は、本法人の伝統的な「人間尊重」の基本理念をふまえて、ヒューマニティ（人間尊重、人間愛）に育まれる「人間力」を建学の精神としている。さらに、高い倫理性と豊かな人間性で人間を統合的に理解する「人間力」を培う教育を根幹に、保健医療福祉に関わる人材を育成することから、「人間尊重を基盤とした人間力を備えた医療人の育成」を教育上の理念としている。

看護学科のカリキュラムの基本概念は、『人間』『環境』『健康』『看護』の４つである。看護学は、『人間と健康』という人間存在の本質に深く取り組む学問であり、看護を実践の科学と位置付けている。本学における看護学教育は、人間が生きること、人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人々の健康の保持や増進と、健康障害をもつ人々への生活を支援する専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、看護師に必要な教育科目を配置している。

リハビリテーション学科のカリキュラムの基本概念は、本学の教育理念に基づき、幅広い知性と豊かな感受性のもとで『人間を尊重する態度と高い倫理観』を修得し、『他者への共感的理解と人間関係形成能力』や『多様なチームとの連携・協働力』そして『科学的思考と問題解決能力』を育むとともに専門分野の基礎・基本となる知識および技術と専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、理学療法士・作業療法士に必要な教育科目を配置している。

平成28年度開設した診療放射線学科のカリキュラムの基本概念は、本学の教育理念の『人間尊重を基盤とした人間力を備えた医療人の育成』に基づき、放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技術の習得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。また、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけ、専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、必要な教育科目を配置している。

それぞれの学科の教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）については、学科の概要の項に記載されているのでこの項では、割愛する。各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針はシラバスに掲載し学生に周知している。

２－２－②　教育課程編成・実施方針に沿った教育課程の体系的編成および教授法の工夫と開発

各学科の教育課程については、シラバスに記載があり、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進度表（楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修）について述べられている。

教育科目は、各学科ともに基礎教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目に大別した構成にしている。看護学科では、基礎教育科目を５領域（33教科目）に、専門基礎教育科目を２領域（26教科目）に、専門教育科目を４領域（55教科目）に区分し、教科目を配置している。

リハビリテーション学科では、基礎教育科目を３領域（32教科目）に、専門基礎教育科目を３領域（25教科目）に、専門教育科目を６領域（理学療法学専攻46教科目、作業療法学専攻43教科目）に区分し、

教科目を配置している。

診療放射線学科では、基礎教育科目を３領域（27教科目）に、専門基礎教育科目を３領域（33教科目）に、専門教育科目を10領域（44教科目）に区分し、教科目を配置している。

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち、専門性が高くなる前に基礎科目の単位を修得することが必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学修意欲の高揚をはかっている。

教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、総じてディベートを行い、自主的、問題解決型授業の展開や映像などを利用し、視覚への強調を行うなどの教員が多い。また、FD研修会を通じて教授法の向上を図る試みがなされている。

本学においての履修では、日々の学修の積み重ねが重要であるとしている。それぞれの学科で履修の上限単位（CAP制）を設け、１年間に履修できる授業単位を制限することで、１単位に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と効率化をはかっている。本件は、履修規程第３章第４条第２項やシラバスに記載されている。

(3)　学修および授業の支援

学内の各種委員会の構成員には、教員とともに事務職員を加え、学生の持つ学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る･起こり得た問題事項に関して、解決に向けた方策を講じている。

学修支援の一環として、推薦入試合格者に対して本学教員による入学前教育を行っている。課題は、推薦図書についてのブックレポートであった。

新入生オリエンテーションについて、平成28年度は入学式後２日間、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会･学生委員会からのオリエンテーション（履修登録･大学生の学修に関すること、大学生活に関すること、図書室や相談室などの利用方法など）を実施している。さらに、学生担当教員（以下、「学担」という。）は、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、日本医療大学生として必要な情報を伝え、新しい環境に早期に適応するよう努めている。また、新入生オリエンテーションでは教務委員会が作成した『学修ハンドブック』を配付し、アカデミック・スキルについて導入を図っている。

在学生については、在校生ガイダンスを前期始業日に実施し、新学年での心構えと注意事項を指導している。

各学科や専攻に学担を複数人配置し、学生の教学上および生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている（表2－4)。リハビリテーション学科では、さらにチューター制度を導入し、教員と学生、クラスメイト、先輩と後輩との絆を強化し、有意義な学生生活の実現に努めている。教務委員会では､各教員のオフィスアワーを学生に周知している。学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」「学生委員会」「図書・学術振興委員会」「就職・進路対策委員会」であり、年度活動状況については、各委員会報告に記載する。

平成28年度の異動の実態について、各学科において退学者、休学者は数人であった。退学理由に

ついては、教務委員会において学担や学科長からの説明を受け、教務委員会で承認後、教授会で報告し、最終的に承認されている。休学者については、定期的に学担に現況を連絡することが課され、休学中の支援を行っている。

表2－4　学生担任教員

平成28年度		
看護学科	１年Ａ	○森口眞衣、藤長すが子
	１年Ｂ	○畑瀬智恵美、大村郁子
	２年Ａ	○佐々木由紀子、岡田尚美
	２年Ｂ	○山田敦士、伊藤廣美
	３年	○小山満子、高儀郁美
リハビリテーション学科	１年理学療法学専攻	○向井康詞、清田直恵
	１年作業療法学専攻	○八田達夫、合田央志
	２年理学療法学専攻	○高橋光彦、石橋晃仁
	２年作業療法学専攻	○大堀具視
診療放射線学科	１年	○杉本芳則、小山和也

(4)　単位認定、卒業・修了認定等

単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用について、単位認定や成績評価は、学則第27条（単位数の計算方法)、第28条（試験)、第29条（成績の評価）に規定されている。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第30条、第31条に規定されている。卒業や学位の授与についても同第32条、第33条に示されている。また、学則第26条、第28条第２項、第30条および第31条において履修規定を別に定め、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA（Grade Point Average、総合平均点)、単位授与、進級要件、臨地･臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等における履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修等について規定している。

(5)　キャリアガイダンス

教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制整備を整えており、キャリアガイダンスについては、就職・進路対策委員会が担ってきた。

看護学科２年生に就職・国家試験対策ガイダンスを実施し、３年生に就職ガイドブックの説明、就職・国家試験対策ガイダンスを実施した。２年生に「社会人教育（自己分析)」を実施した。３年生に「接遇・面接マナー研修」、「履歴書の書き方講座」を実施した。進路希望調査を２回実施した。２年生、３年生に国家試験模試を２回実施した。看護学科２年生に「専門職としての活動を知る」と題したキャリアプラン講習会を実施した。

リハビリテーション学科ではリハビリテーション学科１年生、２年生に「キャリア教育研修」及び「コミュニケーションのしくみと作法」を実施した。２年生に学科内の国試対策委員会と連携して国家試験模試を実施した。

診療放射線学科においては、平成28年度は企画がなかったが、来年度に向けてキャリア教育研修や放射線取扱主任者試験受験対策を検討している。リハビリテーション学科と診療放射線学科の４学年分の年間スケジュールを作成した。詳細については、平成28年度就職・進路対策委員会報告書に記載する（p.113）。

(6)　教育目的の達成状況の評価とフィードバック

２－６－①　教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

本学の教育に対する社会的評価は、開学３年目で卒業生を輩出しておらず、不明である。その評価は、国家試験の合格率や職種関連資格取得状況、専門領域への就職率等が客観的評価の指標となり、今後はそれぞれの客観的評価を高める方策を整備する予定である。

２－６－②　教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

学生による授業評価アンケート案を教授会に諮り、承認された授業評価アンケートを各科目の最終授業時間内で実施した。集計した結果は、図書館に掲示し学生に周知するとともに、授業担当者に自由記載を含めて通知した（FD委員会報告書p.114）。

(7)　学生支援

２－７－①　学生生活の安定のための支援

本学における学生生活の支援窓口は、主に学生委員会が担っている。学生委員会では、(1) 通常業務としてキャンパスの安心・安全に関する事項、環境整備や学生生活に関する種々の情報提供と情報発信、学生の健康、メンタル・ヘルスの保全等がある。また、(2) 学生委員会主催事業（学生の生活指導や人間力の向上）の実施、(3) 学友会及び学内団体の支援、(4) 学生の賞罰に関する事項、奨学金に関する事項を実施している。以下に平成28年度の詳細を説明する。

1:通常業務

1）キャンパスにおける安心・安全に関する事項:キャンパス内外で学生が事故等にあった場合、保険適用の可否や、適用される場合の手続きなどを指導する。また遺失物対応や犯罪の発生に関しても、対応を練り、再発生等を防ぐための注意喚起を実施する。防災訓練に関しては５月末に行われた。

2）環境整備:学生の学修環境と学生の居場所作り（ガーデニングや自由文庫、イス・テーブル等の設置改善）を、年間を通して整備している。学生ボランティアとともに、年度最初のオープンキャンパスに向けて、真栄キャンパスの玄関前に花のプランターによるWELCOMEの文字を作成した。また、学生が自由に学外に持ち出すことができ、貸出期限もない自由文庫を各キャンパスの共有スペースに設置、管理した。バスの利便性を高めるためのバス会社との交渉や国道までの循環式のマ

イクロバスの運行を支援するとともに、より適切な運行時間に関する学生のニーズ調査を行った。

3）学生生活に関する種々の情報提供と情報発信:学生委員会からのニュースレター『あずまし』10号から14号を発刊した。「学生委員からのお知らせ」の配付、学生相談室の運営と学生への広報、「学生相談室だより」の配付をした。生活指導に関しては適宜ポスターの掲示や、メッセージの張り出しで行うが、長期休暇前にはその過ごし方に関して配付物と口頭で注意喚起を行った。また５月には全学生を対象とした「学生生活に関する満足度調査」を実施、６月の教授会でその結果を報告するとともに学生には『あずまし』を通じて結果を報告した。

4）学生の健康、メンタル・ヘルスの保全等:学生の健康を管理する保健室は、平成26年９月から真栄キャンパスに常勤の専任職員が配置されており、学生の普段の身体的健康に関する相談や対応、管理を実施している。平成28年度の保健室来室状況は、応急処置が175人、相談等（健康診断結果の基づく健康相談含む）が435人。来室項目別人数は以下の表2－5－1のとおりで、１日平均2.85人の来室があった。

表2－5－1　保健室利用状況、平成28年度保健室来室状況（保健室）

		平成28年度
来室延べ人数		610
内訳	A　内科系	99
	B　外科系	61
	C　その他	15
	D　相談	258
	E　その他	177

単位：人

表2－5－2　来室の主な理由

A・B：傷病理由の来室
C：眼科・耳鼻科・歯科・皮膚科・心因性の症状出現
D：呼出し面談、精密検査報告、予防接種の報告、健康面について
E：物品の配付（マスク、綿棒、生理用品、救急絆創膏）

恵み野キャンパスに関しては、専用の保健室はなく、また専任職員も配置していない。

学生のメンタルヘルスに関しては、各学科、各学年に配置されている学担が個人面談等を年２回実施して、学生のリスクをいち早く把握し学科で共有するように努めている。また、入学式のオリエンテーションで、学生相談室のパンフレットを配付し、開室日時を知らせるとともに学生相談室の役割を周知している。学生相談室には非常勤の臨床心理士が開室日に常駐し、電話による予約を受けて相談に応じている。平成28年度の利用者数は以下の表2－5－3の通りである。

表2－5－3　相談室の利用状況

	平成28年度		
	開室日数（日）	利用者数（実数:人）	相談件数(延べ数:人)
真栄キャンパス	55	7	39
恵み野キャンパス	10	4	7
計	65	11	46

2:学生委員会主催事業（学生の生活指導や人間力の向上）の実施

平成28年度は表2－6－1の日程で学生委員会主催事業を実施した。「今年20歳になる学生のための年金セミナー」は両キャンパスに、日本年金機構地域年金推進員の村瀬真氏を講師として招聘し、年金制度の説明や学生の特例措置等について学習した。安心･安全週間には､護身術講座を真栄キャンパスは北海道警察「ASEDEL（汗出る)」チームから、恵み野キャンパスは千歳警察署生活安全課から現職警察官が派遣され、ワーク形式で行った。デートDV講座は札幌市の講師派遣制度を利用して北海道シェルターネットワーク理事　山崎菊乃氏、恵み野キャンパスでは札幌市人権擁護委員会　三國勝美氏による講演を聞くことができた。10月から12月にかけては「命」を学ぶイベントを毎年実施しているが、今年度は10月の第２週に真栄キャンパスで、第３週には恵み野キャンパスで各一週間にわたる「いのちのパネル展」を実施した。交通事故被害者遺族の会の協力による、交通事故死者である被害者たちのパネル展であり、今年度は協会のスタッフが驚くほど多くの学生から展示を見た感想が寄せられた。第３回となる「命」の講演会は、在宅医療で高名な方波見医院理事長　方波見康雄医師による「涙にいのちあり　いのちに愛あり」の講演会を開催し、年間を通して最も多くの参加者が傾聴した。例年､学友会の臨時総会とともに実施する学生委員会セミナーは、今年は恵み野キャンパスで実施した。本学に赴任した銭本隆行氏は長くデンマークで教育や福祉に携わっていたため、デンマークの暮らしに関するご講演をいただいた。

表2－6－1　学生委員会行事

年	日程	学生委員会主催行事
平成28年	4/4	「今年20歳になる学生のための年金セミナー」
	5/11・18	安心・安全週間　警察による護身術講座
	5/25・31	デートDV講座
	10/17～31	命を学ぶイベント　第３回「いのちのパネル展」
	11/26	第3回講演会「命」「涙にいのちあり　いのちに愛あり」 方波見康雄氏（方波見医院　理事長）
平成29年	1/26	学生委員会セミナー　「安心して暮らせる幸せの国デンマーク」 本学運営事業グループ銭本隆行氏

3:学友会および学内団体の支援

本学の全学生は入学とともに学友会会員となる。学友会は学生が納める年間3,000円の学友会費と大学からの補助金で賄われている。学友会の運営は本部会員が担うが、その組織は毎年２月まで

に選挙によって選ばれる会長１人、会長が指名した各学科１人の副会長、総務、会計、監査役員、各クラス代表、有志の本部会員らによって担われている。学友会の名誉顧問は本学学長、運営顧問は学生委員長、監査は学生委員が担当している。

平成28年度の学友会主催行事は以下の通りである。第３回を迎える種々の行事は、両キャンパスの学生がいずれかのキャンパスや学外施設に集まって協働で実施している。また第２回となるナーシングセレモニーのように各学科で実施される行事は、その学科に所属する学友会本部会員が実施する（表2－6－2)。

学内におけるサークル活動等、団体の設立、活動、解散については、「日本医療大学学内団体規程」に定められている。団体の設立・解散は、学生委員会で審査され学長の許可を受けなければならない。学生のサークル活動は、専門教育科目の教育課程時間数が増える上級学年については、参加が非常に厳しいこと、また、臨地・臨床実習があることから、時間的にゆとりがある１・２年生を中心に行われている。学内団体設立の申請は５月末、９月末の年２回締め切りがあり、平成28年度には継続、新規を含め23団体が活動した。登録学生数は372人である。大学の前身である専門学校時に結成された学内団体の継承がほぼ今年度で終了した。

具体的な活動に関して、バスケットボールサークルは両キャンパスで親善試合を実施、ボランテイアサークルは熊本地震の災害時にはいち早く募金活動を行い、茶道サークルは隣接する福祉施設で月一回入所者やその家族のためのお茶会を実施している。また、第３回日医祭では演劇サークルの劇団アンデルセンが昨年に引き続き第２回の舞台発表を行い、多くの学内団体が模擬店を開店した。

表2－6－2　主な学友会行事

年	日程	学友会主催行事
平成28年	4/16	第３回新入生歓迎会
		第３回学友会定時総会
	6/8	第３回体育大会
	7/5	看護学科　第２回ナーシングセレモニー
	9/30・10/1	第３回日医祭
平成29年	1/26	第４代会長選挙　第３回学友会臨時総会

表2－6－3　学内団体一覧

サークル名	登録学生数	サークル名	登録学生数
ボランティア部	5	音楽サークル	14
茶道サークル	15	Let's YOGA	10
スポンティアサークル	37	ボディ・コンディショニング　サークル	8
劇団アンデルセン	6	スポーツサークル	17
バトミントンサークル	39	バレーボール部	10
バレーボールサークル	53	卓球サークル	20
スケボーサークル	8	SubRe：（さぶれ）	6

バスケットボールサークル	26	軟式野球部	15
サッカー部	16	日本医療大学CBRサークル	7
アウトドアサークル	11	真栄バスケサークル	24
スポーツ＆レージャーサークル	11	テニポン	6
ボルダリングサークル	8	23団体	372

単位：人

4:学生の賞罰に関する事項、奨学金に関する事項

本学の学生が利用している奨学金は、日本学生支援機構奨学金、高等職業訓練促進給付金事業、北海道看護職員養成修学資金（看護学科のみ）、各市町村奨学金などの公的奨学金制度であるが、経済的支援としては一般入学試験において合格した者の中から、優秀な成績をもって本学に入学する者に与えられる日本医療大学特待生制度、学校法人日本医療大学後援会奨学金制度などが本学独自の奨学金制度として設けられている。平成28年度の日本学生支援機構および他の奨学金貸与者は以下の表2－7－1の通りである。

表2－7－1　各種奨学金貸与者数

		平成28年度					
		日本学生支援機構			北海道看護職員修学資金	その他	計
		1種	2種	併用			
看護学科	1年	8	24	17	8	0	57
	2年	7	26	14	3	1	51
	3年	9	29	9	7	2	56
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	1年	5	29	2	－	0	36
	2年	7	17	2	－	1	27
診療放射線学科	1年	5	21	10	－	0	36
計		41	146	54	18	4	263

単位：人

賞罰（表彰）として、日本医療大学年度別学生顕彰を実施している。学科学年別にそれぞれの学科から年間の成績をもとに成績優秀学生の推薦を受けて行う成績優秀賞と、全学科の教員の推薦を受けて行う社会貢献賞の２つからなっている。平成27年度の成績をもとに15人が成績優秀賞に選ばれ、４月16日に顕彰状授与式が実施された。社会貢献賞は該当者なしであった。

(8)　教員の配置・職能開発

２－８－①　教育目的及び教育課程に則した教員の確保と配置

[看護学科の概要]

日本医療大学保健医療学部看護学科（以下､｢看護学科」という）は､平成26年４月に開設された。看護学科の入学者定員は80人である。

看護学科の教育目的は、本学の建学の精神「ヒューマニティ（人間尊重、人間愛）に育まれる人間力」、教育理念「人間尊重を基盤とした人間力を備えた医療人の育成」に基づき、「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修の能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を教授する」を掲げている。

また、看護専門職として、将来にわたり、永続的に自己成長、自己研鑽を続けていくための資質や能力を養うことができるような教育を展開し、看護学学士課程としての学修成果を得た看護師を育成することを目指している。

建学の精神、教育理念、教育目的を具現化するために、以下のような教育目標を定め育成する人材像を描いている。

1. 生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意見を尊重できる
2. 全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる
3. 科学的に裏付けされた専門的知識と技術で看護実践ができる
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働できる
5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力で自己成長できる

看護学科の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、以下のとおりである。

1. 学修の基礎的な能力を持ち、本学での学修に意欲を持つ人
2. 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
3. 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
4. 人に関心を持ち、豊かな人間性とあたたかい心で人とコミュニケーションができる人
5. 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、「入学者受入れ方針」に従い入学した学生に対し、看護学科の教育目的・教育目標に基づき、以下の方針で教育を展開する。

1. 人命、人権、多様な価値観を尊重できる人間性の育成
2. 全人的理解を基盤とした援助的人間関係の形成能力の育成
3. 科学的思考を基盤とした看護実践能力の育成
4. 保健医療福祉チームの一員として他職種と連携、協働できる能力の育成
5. 科学的思考と問題解決能力、主体的学修能力の育成

看護学科における卒業認定･学位授与に関する方針（ディプロマ･ポリシー）は以下の通りである。

1. 人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
2. 多様な価値観、個性を尊重する能力
3. 看護の対象となる人を全人的に理解する能力
4. コミュニケーションを通して、援助的人間関係に発展させる能力
5. 科学的思考に基づき、看護を実践する能力
6. エビデンスに基づいた看護ケアを安全に提供する能力

7. 保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働できる能力
8. 問題解決に向けて、科学的思考で主体的に学修できる能力

[看護学科の現状]

平成28年４月入学者は89人であった。学修が円滑に進み、充実した学生生活となるための支援として、学生担当教員（以下、学担）を１年次４人、２年次４人、３年次２人、計10人配置し、学担間、および学担と他の教員間で連絡を密にし、細やかな学習・生活支援を行っている。また、オフィスアワー制度を導入しており、全ての教員がオフィスアワーを学生に提示し、学生の訪問・相談を受けている。

平成28年度は真栄キャンパスに診療放射線学科が設置され、学友会活動等においてリハビリテーション学科に加え、診療放射線学科の学生とも協同・交流する姿が見られ、医療専門職としての素養を培っている。

看護学科学生１期生～３期生計257人に対し、教員は29人（基礎科目４人、専門基礎科目４人、看護学21人）であった。教員は、学年進行に伴い増員されることが決定しており、今後若干名が増員される予定である。職階は、平成29年３月時点で教授10人（基礎科目１人、専門基礎科目４人、看護学５人）、准教授７人（基礎科目３人、看護学４人）、講師７人（看護学７人）、助教２人（看護学２人）、助手３人（看護学３人）であり、年齢構成は、70歳代３人（教授３人）、60歳代６人（教授５人、講師１人）、50歳代14人（教授２人、准教授５人、講師５人、助手２人）、40歳代４人（准教授２人、講師１人、助教１人）、30歳代２人（助教１人、助手１人）であった。平成29年度末に准教授１人、助教１人の退職が承認され、後任の人事を進めているところである。

研究活動については、本学着任前からの研究テーマを継続して行っている教員が多く、学外および学部資金獲得教員も多く認められ、成果を上げている。日本医療大学保健医療学部開設年度から紀要を発刊し、第３巻（平成29年３月発刊）には総説１本、論文２本が掲載された。また、本学附属の認知症研究所には教授が１人参画しており、他大学と共同研究を行っている教員も認められる。

看護学科の社会貢献としては、北海道看護協会をはじめとした看護系団体の委員や研修講師、市中病院の看護部研修における看護師の研究指導等に教員を派遣している。また、個人的な社会貢献や、専門職育成に尽力している教員も多く認められる。

表2－8－1　平成28年度　看護学科教員数

教授	准教授	講師	助教・助手	計	非常勤講師
10（4）	7（1）	7	5	29（4）	31（17）

単位：人、（　　）内は男性

表2－8－2　平成28年度　専任教員の年齢構成

	66歳～	61～65歳	56～60歳	51～55歳	46～50歳	41～45歳	36～40歳	31～35歳	26～30歳	計
教授	6	1	2	1						10
准教授			2	2	1	1	1			7
講師		1	2	3		1				7
助教・助手				2			2	1		5
計	6	2	6	8	1	2	3	1		29

単位：人

[看護学科教員の教育・研究・社会活動]

氏名　島本　和明　職階　総長、教授

専門分野：高血圧、生活習慣病、メタボリックシンドローム

教育活動：

責任科目：総合医療論（１年次前期、１単位15時間、15時間)、形態機能学Ⅲ（１年次前期、１単位30時間、30時間)、疾病論Ⅰ（２年次前期、１単位30時間、30時間)、保健医療論（２年次後期、１単位15時間、15時間）

担当科目：なし

非常勤講師：専門学校日本福祉リハビリテーション学院（内科学）

学内委員会・学科内業務等：大学院設置ワーキンググループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、国際高血圧学会、日本循環器学会、日本老年医学会、日本循環器病予防学会、日本心臓病学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本老年医学会（理事)、日本高血圧協会（専務理事兼庶務理事)、北海道心臓協会（副理事長)、日露医学医療交流財団（評議員)、日本臨床研究フォーラム J-ARF（副理事長)、社会福祉法人　恩賜財団済生会北海道済生会支部（会長)、一般財団法人つくし奨学・研究基金（評議員)、一般社団法人日本医学教育評価機構（評価委員)、公益財団法人かなえ医療振興財団（評議員)、国土交通省社会資本整備審議会（専門委員)、厚生労働省国民健康・栄養調査企画解析検討会（構成員)、北海道指定難病審議会高安動脈炎専門委員会委員長、北海道指定難病審議会家族制高コレステロール血症（ホモ接合体）専門委員会委員長、士別市健康づくりアドバイザー、日本医療大学主催生涯学習講座（４月23日､12月17日)､世界高血圧の日市民公開講座（５月22日)、白糠町健康増進計画（第２期)『すこやか白糠21』企画市民公開講座（６月４日)、第39日本高血圧学会総会市民公開講座(10月２日)､士別市いきいきセンターオープン関連企画市民公開講座(10月３日)、日本医療大学公開講座（10月30日）

顕彰：なし

氏名　傳野　隆一　職階：　学長、教授、認知症研究所長

専門分野：医学

教育活動：

責任科目：形態機能学Ⅰ（１年次前期、１単位30時間、30時間）、形態機能学Ⅱ（１年次通年、２単位60時間、60時間）

担当科目：チーム医療論（３年次前期、１単位30時間、２時間）

非常勤講師：札幌医科大学（社会と健康史、外科学）、日本福祉学院（認知症介護実践研修）

学内委員会：学校法人日本医療大学評議員・理事、学校執行役員会、教授会、認知症研究所、研究費審査委員会（委員長）

学術活動：

所属学会・研究会：日本外科学会、日本臨床外科学会、北海道外科学会、北海道臨床外科学会

科学研究費（研究資金）の取得：ニッセイ財団「認知症介護者支援への小規模な介護事業の新たな展開に関する研究」代表者

社会活動：生命科学振興会北海道支部役員、日本尊厳死協会北海道支部理事、札幌地方裁判所専門調停員・民事調停員、認知症サポーター養成講座（５月28日、７月27日、10月14日、２月21日、２月22日、２月23日）、日本医療大学生涯学習講座（１月28日）

顕彰：なし

氏名　門間　正子　職階　看護学科長、教授

専門分野：成人看護学、周術期看護学、クリティカルケア看護学

教育活動：

責任科目：成人看護学概論（２年次前期、２単位30時間）、成人看護援助論Ⅱ（３年次前期、２単位30時間）、成人看護援助論Ⅲ（３年次前期、２単位30時間）、健康教育論（３年次前期、１単位15時間）、成人看護学実習Ⅰ（３年次後期、４単位180時間）

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（２年次後期、２単位30時間、12時間）、成人看護学特論（２年次後期、２単位30時間、16時間）

非常勤講師：北海道医療センター附属札幌看護専門学校（看護研究）

学内委員会・学科内業務等：教授会、学校連絡会議、運営協議会、学生募集対策委員会、教務委員会、入学者選抜試験実施委員会（副委員長）、自己点検評価委員会、人権擁護委員会、不正調査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本救急看護学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護学教育学会、日本手術看護学会、日本看護歴史学会、札幌医科大学クリティカルケア看護研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本クリティカルケア看護学会評議員、札幌山の上病院看護部研修において同病院看護

師の研究指導、苫小牧市立病院看護部研修において同病院看護師の研究指導、北海道整形外科記念病院看護部研修において同病院看護師の研究指導、平成28年度北海道専任教員養成講習会において講義（研究方法６時間）、平成28年度保健師助産師看護師実習指導者習会において講義（看護教育課程-成人看護学３時間））、日本医療大学生涯学習講座（「こんな時どうする？高齢者の救急救命」）、ノテ福祉会職員研修（「脳卒中の早期発見と対応」）

顕彰：なし

氏名　岡田　洋子　職階　教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護学

担当科目：小児看護概論、小児看護援助論

非常勤講師：旭川医科大学大学院（看護理論特論）

学内委員会・学科内業務等：教授会、倫理委員会、ハラスメント委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会（学会誌専任査読委員）、日本小児看護学会（学会誌専任査読委員、評議員）、日本看護学教育学会、日本家族看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道看護教員養成講習会講師、日本学術振興会科学研究費助成事業科研費・研究計画書第一次審査委員

顕彰：なし

氏名　賀来　　亨　職階　教授

専門分野：病理学、コンピュータ教育

教育活動：

責任科目：生命科学、病態病理学、疾病論Ⅱ、疾病論Ⅳ、小児の健康障害、小児科学

担当科目：

非常勤講師：札幌医科大学（病理学）、北海道メディカル・スポーツ専門学校（臨床医学）

学内委員会・学科内業務等：教授会、FD委員会

学術活動：

所属学会:日本病理学会、日本骨代謝学会、日本唾液腺学会、コンピュータ利用教育学会（CIEC）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本唾液腺学会評議員

顕彰：なし

氏名　小山　満子　職階　教授

専門分野：母性看護学、助産学、看護教育学
教育活動：
　責任科目：看護を知る、母性看護学概論
　担当科目：看護ゼミナールⅠ、看護ゼミナールⅡ、看護ゼミナールⅢ、看護研究
　非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会（委員長)、研究費審査委員会、学生担当教員（3学年主担任)、カリキュラム検討会（責任者)、スケボーサークル顧問
学術活動：
　所属学会・研究会等：日本母性衛生学会、日本助産師学会、日本看護学教育学会、日本フォレンジック看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、北海道母性衛生学会、北海道思春期学会等
　科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学教育向上研究費
社会活動：日本看護教育協議会会員、北海道看護教育協議委員
顕彰：

氏名　瀧　　断子　職階　教授
専門分野：老年看護学
教育活動：
　責任科目：老年看護援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ
　担当科目：
　非常勤講師：日本医療大学（老年看護学援助論Ⅱ）
学内委員会・学科内業務等：教授会、実習ローテーション係
学術活動：
　所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本老年看護学学会
　科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　畑瀬智恵美　職階　教授
専門分野：基礎看護学
教育活動：
　責任科目：看護学概論（１年次前期、２単位30時間)、看護の基本技術論（１年次前期、１単位30時間)、生活援助技術Ⅱ（１年次後期、１単位30時間)、フィジカルアセスメント（２年次前期、１単位30時間)、診療過程の援助技術（２年次前期、１単位30時間)、基礎看護学実習Ⅰ（２年次前期、１単位45時間)、基礎看護学実習Ⅱ（２年次後期、２単位90時間）
　担当科目:生活援助技術Ⅰ（１年次前期、１単位30時間、15時間)、生活援助技術Ⅲ（１年次後期、

１単位30時間、15時間)、看護ゼミナールⅡ（２年次通年、１単位30時間)、看護ゼミナールⅢ（３年次後期、１単位30時間)、看護研究（３年次前期、１単位30時間）

学内委員会：教授会、教務委員会

学術活動：

所属学会：日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会

社会活動：旭川厚生病院（看護院内研修「看護研究」の指導）

顕彰：なし

氏名　林　美枝子　職階　教授

専門分野：医療人類学、性人類学、社会医学

教育活動：

専任科目：文化人類学（看護学科１年次後期、１単位15時間、15時間)、家族論（看護学科２年次前期、１単位15時間、15時間)、文化人類学（リハビリテーション学科１年次後期、１単位15時間、15時間)、社会学（リハビリテーション学科１年次後期、１単位15時間、15時間)、文化人類学（診療放射線学科１年次後期、１単位15時間、15時間)、社会学（診療放射線学科１年次前期、１単位15時間、15時間）

担当科目：なし

非常勤講師：北海道情報大学（文化人類学Ⅰ、文化人類学Ⅱ)、札幌国際大学（地域社会と健康、ライフスタイル論）

学内委員会、学科内業務等：教授会、学生委員会（委員長)、学友会（運営顧問)、人権擁護委員会（委員長)、研究費審査委員会、ボランティアサークル（顧問）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本文化人類学会、日本民俗学会、日本公衆衛生学会、日本認知症ケア学会、日本フォレンジック看護学会、北海道民族学会、日本死と臨床研究会、日本母性衛生学会

科学研究費の取得：科研費（基盤Ｃ）「高齢者生活支援のための地域産学官ネットワーク構築に関する研究」研究分担者（平成28年度～平成30年度）

社会活動：北海道看護教員養成講座（「文化人類学」、「家族論」を担当)、北海道看護師・助産師・保健師実習指導者養成講座（特別講演を担当)、公益財団法人市町村振興協会評議員、一般財団法人道民活動振興センター評議員、札幌市男女共同参画審議会会長、北海道民族学会　運営委員・学会誌編集委員、北海道社会功労賞推薦委員、北海道文化審議会委員、株式会社マックスバリュ北海道社外取締役、公益財団法人北海道女性協会理事、北海道生産性本部理事、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会評議員

顕彰：なし

氏名　村松　　宰　職階　教授

専門分野：衛生学、公衆衛生学、医療統計学、疫学

教育活動：

責任科目：公衆衛生学、保健医療統計、統計学、情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱ、衛生学

担当科目：

非常勤講師：九州歯科大学（食生活と歯）

学内委員会・学科内業務等：図書館長、教授会、図書・学術振興委員長、研究費審査委員会研究審査委員、市民公開講座準備委員長、紀要編集責任者

学術活動：

所属学会・研究会等：日本衛生学会（評議員）、日本健康学会（評議員）、日本疫学会、日本公衆衛生学会、日本栄養・食糧学会（終身会員）、計量生物学会

科学研究費（研究資金）等の取得：科研費（基盤Ｃ）「世帯および地域の社会経済的要因が食生活や健康状況に与える影響 - 栄養疫学的検討」研究分担者（平成27年度～平成29年度）

社会活動：

顕彰：なし

氏名　草薙　美穂　職階　准教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護学概論（２単位30時間）、小児看護援助論（１単位30時間）

担当科目：看護を知る（１単位30時間）、看護研究（１単位30時間）、看護ゼミナールⅢ（１単位30時間）

非常勤講師：

学内委員会：教授会、就職・進路対策委員会、カリキュラム検討会、実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児看護学会、日本小児保健協会、乳幼児保健学会、乳幼児医学・心理学研究、北海道母性衛生学会

科学研究費（研究資金）等の取得：（基盤研究B）「小児外来でのファミリーパートナーシップモデルに基づく他職種による育児支援の有効性」研究分担者（平成26～29年）

社会活動：乳幼児保健学会評議員

顕彰：なし

氏名　佐々木由紀子　職階　准教授

専門分野：成人看護学、看護管理学

教育活動：

責任科目：チーム医療、成人看護援助論Ⅰ、看護管理、感染管理、看護倫理、医療安全

担当科目：看護を知る、看護ゼミナールⅠ、成人看護学特論、看護ゼミナールⅡ、成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ、看護研究、看護ゼミナール

Ⅲ

非常勤講師：社会医療法人ノテ福祉会（感染予防研修）

学内・学科内業務等：教授会、入学者選抜試験実施委員会、実習検討会、実習ローテーション担当、統合実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護協会、北海道看護協会、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護学教育学会、日本環境感染学会、日本老年看護学会、日本看護歴史学会、医療の質・安全学会、医療事故・紛争対応研究会

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：第48回日本看護学会―看護管理―学術集会準備委員会委員

顕彰：なし

氏名　並川　聖子　職階　准教授

専門分野：基礎看護学、看護教育学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：生活援助技術Ⅰ（１年次前期、１単位30時間、16時間）、生活援助技術Ⅱ（１年次後期、１単位30時間、14時間）、生活援助技術Ⅲ（１年次後期、１単位30時間、12時間）、フィジカルアセスメント（２年次前期、１単位30時間、20時間）、診療過程の援助技術（２年次前期、１単位30時間、18時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次通年、１単位30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（２年次前期、１単位45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（２年次後期、２単位90時間）、看護ゼミナールⅡ（２年次通年、１単位30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　松本真由美　職階　准教授

専門分野：精神保健学　社会福祉学　発達心理学

教育活動：

責任科目：心理学（看護学科１年次前期・診療放射線学科１年次前期、１単位15時間、15時間）、人間関係論（看護学科１年次前期・診療放射線学科１年次前期、１単位15時間、15時間）、発達心理学（看護学科１年次後期、１単位15時間、15時間）、臨床心理（看護学科２年次後期、

１単位15時間、15時間)、カウンセリング論（看護学科３年次前期、１単位15時間、15時間)、心理学（リハビリテーション学科１年次前期、１単位15時間、15時間)、発達心理学（リハビリテーション学科１年次後期、１単位15時間、15時間）

担当科目：なし

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、兼担教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科)、入学者選抜試験実施委員会、ハラスメント相談委員（委員長)、オープンキャンパス看護学科ワーキンググループ（責任者)、見学会（中学・高校対象）担当、入学前学習課題担当（責任者)、進学相談会担当（札幌、八雲、函館)、茶道サークル顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本精神障害者リハビリテーション学会、日本精神保健福祉学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本公衆衛生学会、日本学生相談学会、北海道社会福祉学会(理事)、北海道地域福祉学会

科学研究費（研究資金）の取得：科学研究費基盤研究（Ｃ）「地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参画に関する調査研究」研究代表者（平成27年度～平成29年度）

社会活動：北海道社会福祉学会理事、精神障害者回復者クラブすみれ会理事、青森県言語聴覚士会特別講演(「子どもの発達に適した関わり方､遊び方と専門職種の連携について」2016年６月26日)、日本医療大学生涯学習講座（「先細る年金、負担増の医療費、されど、豊かな高齢期を目指して」11月28日）

顕彰：なし

氏名　森口　眞衣　職階　准教授

専門分野：文献学、宗教学、アジア思想・医療史

教育活動：

責任科目：倫理学（看護学科１年次前期・診療放射線学科１年次前期、１単位15時間、15時間)、生命倫理（看護学科１年次後期・診療放射線学科１年次後期、１単位15時間、15時間)、宗教と思想（看護学科２年次前期・診療放射線学科１年次前期、１単位15時間、15時間)、倫理学（リハビリテーション学科１年次前期、１単位15時間、15時間)、生命倫理（リハビリテーション学科１年次後期、１単位15時間、15時間）

担当科目：なし

非常勤講師：北海道薬科大学（文学と人間)、札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学)、苫小牧看護専門学校（哲学、生命倫理)、北星学園大学（現代と宗教）

学内委員会・学科内業務等：教授会、兼担教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科)、学生委員会､FD委員会､学生担当教員（１年生)､入学前学習課題担当､進学相談会担当（札幌２件）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本宗教学会、日本精神病理学会、日本印度学仏教学会、日本医学哲学・

倫理学会、日本生命倫理学会、日本精神医学史学会（評議員）、日本森田療法学会、仏教思想史学会、インド思想史学会、日本佛教学会、北海道大学文学研究科宗教学研究会、北海道生命倫理研究会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究Ｃ）「インド精神医学史における疾病概念の変遷と精神療法の関連」研究代表者（平成24年度～平成28年度）

社会活動：北海道生命倫理研究会夏季セミナー座長（７月30日）、北海道生命倫理研究会冬季セミナー座長（２月４日）

顕彰：なし

氏名　山田　敦士　職階　准教授

専門分野：言語人類学、言語教育、東南アジア地域研究

教育活動：

責任科目：日本語表現（看護学科１年次前期、１単位30時間、60時間（30時間×２クラス））、中国語（看護学科２年次前期、１単位30時間、30時間）、日本語表現（リハビリテーション学科１年次前期、１単位30時間、60時間（30時間×２クラス））、中国語（リハビリテーション学科１年次後期、１単位30時間、60時間（30時間×２クラス））、日本語表現（診療放射線学科１年次前期、１単位30時間、30時間）

担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間、2時間）

非常勤講師：北海道大学（教科教育法）、北星学園大学（中国語）、札幌国際大学（社会意識論）、日本福祉リハビリテーション学院（言語障害評価学特論）

学内委員会・学科内業務等：教授会、兼担教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科）、自己点検・評価委員会、研究倫理委員会、学生担当教員、カリキュラム検討会、入学前課題担当、オープンキャンパス模擬講義担当（真栄キャンパス）、オープンキャンパス小論文特別講座担当（恵み野キャンパス）、進学相談会担当（旭川、北見、函館、札幌）、出前講義（静内高校）、バドミントン部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本言語学会、日本中国語学会、中国人文学会、日本ヘルスコミュニケーション学会、北海道民族学会、社会言語科学会、家畜資源研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト（代表）

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（若手Ｂ）「ワ族の文字表記と書承文化に関する調査研究」研究代表者（平成28年度～平成31年度）、科研費（基盤Ｂ）「言語・文化調査に基づくタイ文化圏の少数民族の歴史の解明」研究分担者（平成27年度～平成29年度）、科研費（基盤Ｃ）「漢語語彙史における複音節化現象の総合的研究」研究分担者（平成25年度～平成28年度）、日本医療大学教育向上研究費「医療系大学における外国語教育と教授法の検討」研究代表者

社会活動：日本中国語検定協会札幌会場運営補佐、IAY日本語教師養成講座

顕彰：なし

氏名　伊藤　廣美　職階　講師

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：看護ゼミナールⅠ（１年次通年、１単位30時間）、老年看護学実習Ⅰ（３年次後期、２単位90時間）

担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間、30時間）、看護管理（３年次前期、１単位15時間、７時間）、看護倫理（３年次前期、１単位15時間、7時間）、医療安全（３年次前期、１単位15時間、７時間）、チーム医療（３年次後期、１単位15時間、7時間）、看護研究（３年次前期、１単位30時間、30時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次通年、１単位30時間、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：人権擁護委員会、2学年担任、実習検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護診断学会、日本遠隔医療学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本看護診断学会評議員

顕彰：なし

氏名　岡田　尚美　職階　講師

専門分野：在宅看護、地域看護、公衆衛生看護

教育活動：

責任科目：在宅看護援助論Ⅰ（３年次前期、１単位30時間、30時間）、在宅看護援助論Ⅱ（３年次後期、１単位30時間、28時間）

担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間、28時間）、看護研究（３年次前期、１単位30時間、22時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次後期、１単位30時間、24時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：就職・進路対策委員、学生担任、カリキュラム検討会、庶務、看護ゼミナールⅣ担当グループ、看護研究・看護研究演習担当グループ、臨床看護技術演習担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本子ども虐待防止学会、北海道公衆衛生学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤Ｃ）「継続的な支援が必要な家族のための助産師と保健師の連携指針の開発」研究代表者（平成27年度～平成29年度）、科研費（基盤Ｃ）「子ど

も虐待予防を重視した妊娠期に必要な父親のコンピテンシー構造化と支援プログラム」研究分担者（平成27年度～平成30年度）

社会活動：北海道看護協会札幌第３支部教育委員、北海道看護協会主催　指導者のための看護研究－研究をクリティークしてみよう－研修会演習ファシリテーター

顕彰：なし

氏名　大村　郁子　職階　講師

専門分野：母性看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間、30時間）、看護ゼミナールⅠ（１年次後期、１単位30時間、30時間）、看護研究（３年次前期、１単位30時間、20時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次通年、１単位30時間、24時間）、母性看護援助論（３年次後期、１単位30時間、22時間）、

非常勤講師：なし

学内委員会･学科内業務等:学生委員会、FD委員会、学生担当教員（１年生）、実習検討会、実習ローテーション担当グループ、臨床看護技術演習担当グループ、看護ゼミナールⅠ担当グループ、看護ゼミナールⅣ担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　滋野　和恵　職階　講師

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目:精神看護援助論（３年次前期、１単位30時間、30時間）、精神看護学実習（３年次後期、２単位90時間、360時間）、看護研究（３年次前期、１単位30時間、30時間）

担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間、30時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次通年、１単位30時間、24時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：自己点検・評価委員会、研究倫理委員会、カリキュラム検討会、オープンキャンパス担当WG、看護を知る担当WG、看護研究･看護研究演習担当WG、統合実習担当WG

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本応用心理学会、SST普及

協会、日本フォレッジング学会、日本看護協会、日本精神科看護協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言者、北海道専任教員養成講習会看護研究演習助言者、第27回日本精神保健看護学会学術大会企画委員

顕彰：なし

氏名　高儀　郁美　職階　講師

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：成人看護学特論（３年次後期　１単位30時間、30時間）

担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間、30時間）、成人看護援助論Ⅰ（２年次後期、１単位30時間、30時間）、成人看護援助論Ⅱ（３年次前期、１単位30時間、30時間）、成人看護援助論Ⅲ（３年次前期、１単位30時間、30時間）、成人看護学実習Ⅰ（３年次後期、４単位90時間、90時間）、ゼミナールⅢ（３年次通年、１単位30時間、30時間）、看護ゼミナールⅠ（１年次通年、１単位30時間）、看護研究（３年次前期、１単位30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：カリキュラム検討会、実習ローテーション担当WG、看護学科一日体験入学、看護を知る担当WG、看護ゼミナール担当WG、学生担当教員（３年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本死の臨床研究会、日本行動療法学会、日本家族看護学会、日本看護科学学会、日本ヒューマンケア心理学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本建築学会、日本医療福祉設備協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　福島　眞里　職階　講師

専門分野：母性看護学

教育活動：

責任科目：看護ゼミナールⅢ（３年次通年、１単位30時間）、母性看護援助論（３年次後期、１単位30時間）

担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間）、看護ゼミナールⅠ（１年次通年、１単位30時間）、看護研究（３年次前期、１単位30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：図書・学術振興委員会、カリキュラム検討会、看護ゼミナールⅠ担当グループ　看護ゼミナールⅢ担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道看護協会教育委員

顕彰：なし

氏名　藤長すが子　職階　講師

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：生活援助技術Ⅰ（１年次前期、１単位30時間、8時間）、生活援助技術Ⅲ（１年後期１単位30時間、18時間）

担当科目：看護の基本技術論（１年通年、１単位30時間、12時間）、生活援助技術Ⅱ（１年後期、１単位30時間、12時間）、フィジカルアセスメント（２年前期、１単位30時間、18時間）、基礎看護学実習Ⅰ（２年前期、１単位45時間、45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（２年後期、２単位90時間、90時間）、看護研究（３年前期、１単位30時間、20時間）、ゼミナールⅡ（２年通年、１単位30時間、30時間）、ゼミナールⅢ（３年通年、１単位30時間、24時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：就職・進路検討委員会、統合実習ワーキンググループ、臨床看護技術演習ワーキンググループ、学生担当教員（１学年）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道地域医療推進局医務薬務課看護政策グループ主催、平成28年度北海道保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野）研修担当

顕彰：なし

氏名　斉藤　リカ　職階　助教

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間、30時間）、看護研究（３年次前期、１単位30時間、30時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次通年、１単位30時間、20時間）、老年看護学概論（２年次前期、１単位30時間、８時間）、老年看護援助論Ⅰ（２年次後期、１単位30時間、４時間）、老年看護援助論Ⅱ（３年次前期、１単位30時間、４時間）、老年看護実習Ⅰ（３年次後期、２単位90時間、270時間）

非常勤講師：創研学園　看予備（国家試験対策）
学内委員会・学科内業務等：実習検討会、看護学科一日体験入学担当グループ、看護研究・看護研究演習担当グループ、臨床看護技術演習担当グループ
学術活動：
所属学会・研究会等：日本生理人類学会、日本睡眠学会、日本プライマリ・ケア学会、高齢者ケアリング研究会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：日本私立看護系大学協会大学教育委員会委員
顕彰：なし

氏名　合田恵理香　職階　助手
専門分野：成人看護学
教育活動：
責任科目：なし
担当科目：成人看護援助論Ⅰ（２年次後期、１単位30時間、12時間）、成人看護学特論（２年次後期、１単位30時間、16時間）、成人看護援助論Ⅱ（３年次前期、１単位30時間、８時間）、成人看護援助論Ⅲ（３年次前期、１単位30時間、18時間）、成人看護学実習Ⅰ（３年次後期、４単位180時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパス・ワーキンググループ、看護学科一日体験入学担当グループ、看護ゼミナールⅠ担当グループ、看護ゼミナールⅢ担当グループ、臨床看護技術演習担当グループ、庶務係
学術活動：
所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護歴史学会、日本音楽療法学　会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：日本クリティカルケア看護学会実行委員
顕彰：なし

氏名　辻　　幸美　職階　助手
専門分野：在宅看護　老年看護学
教育活動：
責任科目：なし
担当科目：在宅看護援助論Ⅰ（３年次前期、１単位30時間、８時間）、在宅看護援助論Ⅱ（３年次前期、１単位30時間、８時間）
非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、オープンキャンパス・ワーキンググループ、看護学科一日体験入学担当グループ、臨床看護技術演習担当グループ
学術活動：
所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本認知症ケア学会、日本在宅ケア学会、CNS老年看護分野学修会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：北海道臨床倫理検討会においてファシリテーターとして参加
顕彰：なし

氏名　吉田　　香　職階　助手
専門分野：看護教育
教育活動：
責任科目：なし
担当科目：看護の基本技術論（１年次通年、１単位30時間、30時間）、生活援助技術Ⅰ（１年次前期、１単位30時間、30時間）、生活援助技術Ⅱ（１年次後期、１単位30時間、30時間）、生活援助技術Ⅲ（１年次後期、１単位30時間、30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（２年次前期、１単位45時間、30時間）、基礎看護学実習Ⅱ（２年次後期、２単位90時間、90時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパス担当グループ、看護学科一日体験入学担当グループ、庶務係、看護ゼミナールⅡ担当グループ
学術活動：
所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、北海道医療大学看護福祉学部学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：日本医療大学公開講座（10月30日、11月26日）
顕彰：なし

看護学科教員の学術業績

論文（著書、総説、原著，その他）：
著　　書：
村松宰，中山健夫（2017）．NEXT公衆衛生学（第３版７刷）．講談社.
総　　説：
島本和明（2016）．各論Ⅰ循環器疾患；1　高血圧の診療　最新のガイドラインを生かした日常内科診療：その充実とレベルアップを目指して．Medical Practice, 33（臨時増刊号）．8－15.
島本和明（2016）．生活習慣病　万病のもと、生活習慣病を征す．北海道の医療最前線人生100年

時代　長寿の秘訣、教えてドクター！！（HO2016年９月号増刊）．北海道:株式会社ぶらんとマガジン社．6－11.

島本和明（2016）．食塩と高血圧；減塩で高血圧予防．2017年版北海道の病院別冊．北海道：北海道新聞社．18－20.

島本和明（2016）．青ページ　医学随筆．臨牀と研究，93（12）．25－26.

島本和明(2016)．臨床的エビデンスに基づく高血圧治療．THERAPEUTIC RESEARCH, 37(10)．908－909.

島本和明（2016）．高血圧、メタボリックシンドロームの疫学･基礎･臨床研究による包括的研究．札幌医学雑誌，8（1－6）．1－5.

島本和明（2017）．厳格な降圧治療の重要性を再考する：SPRINT試験から．血圧，24（1）．21－25.

島本和明（2017）．巻頭言；言葉のアーチ：メドックマラソンをご存じですか？．北洋銀行行内誌ARCH，118．1.

松本真由美（2016）．政策決定過程における精神に障害のある人々の参加．日本医療大学紀要, 2, 2－11.

原　　著：

岡田尚美（2016）．分娩取扱医療機関に所属する助産師の保健師との連携：病院と診療所における比較．日本地域看護学会誌，19（3）．33－40.

小濵由紀子，青木美香，伊藤廣美，名塚優子，野中浩美，森明恵（2016）．看護師の呼吸への援助行為における判断の現状．日本看護学会論文集：看護管理，337－340.

城丸瑞恵，牧野夏子，門間正子，田口裕紀子，春名純平，皆川ゆり子，内田裕美，神田直樹（2016）．北海道の道北地方において救急医療に携わる看護師の抱える困難の現状と課題：アクションリサーチによる支援モデルの構築．北海道開発協会開発調査総合研究所平成27年度助成研究論文集，47－58.

永田志津子，林美枝子（2017）．介護・日常生活支援総合事業における住民主体サービスの可能性と課題：関西圏および北海道の事例から．札幌大谷大学社会学論集，5．75－99.

原谷珠美，佐々木由紀子（2016）．サービス付き高齢者向け住宅入居者の終末に向けた準備性．日本看護学会論文集在宅看護，46．11－14.

Furuhashi M, Ogura M, Matsumoto M, Yuda S, Muranaka A, Kawamukai M, Omori A, Tanaka M, Moniwa N, Ohnishi H, Saitoh S, Harada-Shiba M, Shimamoto K, Miura T（2017）. Serum FABP5 concentration is a potential biomarker for residual risk of atherosclerosis in relation to cholesterol efflux from macrophages. Sci Rep 7. 217.

Furuhashi M, Omori A, Matsumoto M, Kataoka Y, Tanaka M, Moniwa N, Ohnishi H, Yoshida H, Saitoh S, Shimamoto K, Miura T（2016）. Independent link between levels of proprotein convertase subtilisin/kexin type 9 and FABP4 in a general population without medication. Am J Cardiol 118. 198－203.

Furuhashi M, Fuseya T, Murata M, Hoshina K, Ishimura S, Mita T, Watanabe Y, Omori A, Matsumoto M,Sugaya T, Oikawa T, Nishida J, Kokubu N, Tanaka M, Moniwa N, Yoshida H, Sawada N, Shimamoto K, Miura T（2016）. Local production of fatty acid-binding protein 4 in epicardial/perivascular fat and macrophages is linked to coronary atherosclerosis. Arterioscler Thromb Vasc Biol 36. 825－834.

牧野夏子, 門間正子, 内田裕美, 神田直樹, 田口裕紀子, 春名純平, 皆川ゆり子, 城丸瑞恵（2017）. 看護学生を対象とした認定看護師・専門看護師の資格取得に関する公開セミナーの評価. 札幌保健科学雑誌, 6. 42－46.

松本真由美（2016）. 地方精神保健福祉審議会における当事者委員の役割：地方精神保健福祉審議会議事録の分析から. 北海道地域福祉研究, 19. 15－27.

Mogi M, Hasebe N, Horiuchi M, Shimamoto K, Umemura S（2016）. The results of a survey of physicians about the Japanese Society of Hypertension Guidelines for the Management of Hypertension 2014 and its clinical use. Hypertens Res 39. 660－663.

森口眞衣（2016）. インド医学書に対する研究方法論の検討：医療者の臨床実践への着目. 日本佛教學會年報, 81, 72－93.

山田敦士（2016）. 偽語的反復現象. 饕餮, 24. 77－84.

山田敦士（2017）. パラウク・ワ語における語類. 北海道言語文化研究, 15. 39－48.

Yamada, A.（2017）. Toward the linguistic ethnography of the Wa people, *Journal of the Center for Northern Humanities*, 10. 165－174.

その他：

伊藤廣美, 岡田尚美（2016）. 精神科訪問看護により利用者が受けた影響に関する文献レビュー. 日本看護研究学会雑誌, 39（3）. 291.

島本和明（2016）. 特別講演；高血圧と動脈硬化. 伏見医報, 7（675）. 8－9.

島本和明（2017）. 飯村先生のご逝去を慎む. 血圧, 24（2）. 71.

城丸瑞恵, 田口裕紀子, 牧野夏子, 春名純平, 神田直樹, 皆川ゆり子, 内田裕美, 門間正子（2017）. 北海道の道北地方において救急医療に携わる抱える困難の現状と課題. 開発こうほう, 2017年2月号, 30－34.

林美枝子.（2017）. 書評：八木彌生著『乳がんを生きる：日米の診療とサポート、そして語り』. 文化人類学, 81. 733－736.

林美枝子, 永田志津子（2017）. 北海道の全保険者における生活支援総合事業の早期取り組み予定の有無とその関連要因. 日本医療大学紀要, 3. 46－54.

松本真由美（2016）. 地方精神保健福祉審議会への精神障害当事者委員の参加に関する調査報告. 精神障害とリハビリテーション, 40. 192－200.

松本真由美, 上野武治（2016）. 精神障害者地域移行支援事業におけるピアサポート導入と事業実績および事業実施状況との関連に関する全国横断調査. 精神障害とリハビリテーション, 39. 72－81.

山田敦士（2016）.【ワ語】第１回：ワ族のことば．世界はことばでできている．駿河台出版社WEB．12月26日.

山田敦士（2017）.【ワ語】第２回：ワ族とその歴史．世界はことばでできている．駿河台出版社WEB．１月27日.

山田敦士（2017）.【ワ語】第３回：ワ族の伝承と文化．世界はことばでできている．駿河台出版社WEB．２月24日.

山田敦士（2017）.【ワ語】第４回：ワ族とワ語の現在・未来．世界はことばでできている．駿河台出版社WEB．３月28日.

山田敦士（2016）．村長への道、風車の弥七．日本中国語学会電子通訊．124．11月30日.

吉田　香（2016）．看護師学校養成所２年課程通信制における学習継続に対する学生の思い．日本看護学教育学会誌，26（3）．39－50.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

島本和明：Blood Pressure Targets in Japanese HT Guidelines（JSH 2014）. The 46th Annual Convention & Scientific Session of the Taiwan Society of Cardiology. 2016. 5. 14, Taipei

島本和明：高血圧の予防と治療：高血圧治療ガイドライン2014を含めて．北海道栄養士会公衆衛生栄養士協議会秋期研修会．2016年10月21日．札幌

森口眞衣. 精神医療におけるアジア宗教実践の受容. 自治医科大学精神医学教室集談会招待講演. 2017年３月15日．下野

シンポジウム：

Shimamoto, K.：Symposium 01; Unmet needs in major hypertension guidelines; How do we reconcile the discrepancy of blood pressure guidelines for patients with diabetes, old age and CKD ? The 26th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension（ISH）. 2016. 9. 26, Seoul

一般口演：

遠藤眞美，村松宰，久保田有香，久保田潤平，柿木保明：要介護高齢者の薬剤服用期間と口腔粘膜湿潤度に影響するリスク因子の検討. 第27回日本老年歯科医学会総会. 2016年６月18日. 徳島.

賀来亨：iPadを使用した医療系学科における教科書を中心とした講義：Apple TVネットワークシステムー．日本医療大学保健医療学部研究報告会．2017年３月30日．札幌.

賀来亨，斉藤リカ，萩田真美，合田恵理香，曽我聡起，中原敬広：医療系学科における学力向上とアクティブラーニング：プレゼンテーションソフトと超短焦点モデルの検討．2016年PCC北海道．2016年10月22日．江別.

賀来亨，曽我聡起，中原敬広：プレゼンテーションソフトを使用したタブレット端末による双方向性授業の検討．2016年PCC．2016年８月11日．大阪.

小西香苗，村松宰：勤労女性におけるAlternative Healthy Eating Indexとうつ症状との関連.

日本衛生学雑誌71巻ｐ204．2016年５月15日．旭川.

城丸瑞恵，田口裕紀子，皆川ゆり子，神田直樹，折田博美，津田久仁江，門間正子，牧野夏子，春名純平：北海道の道北地方において救急医療に携わる抱える困難の現状と課題：北海道開発協会開発調査総合研究所第12回助成研究発表会．2016年11月29日．札幌.

城丸瑞恵，牧野夏子，春名純平，内田裕美，皆川ゆり子，門間正子，神田直樹，折田博美，津川久仁江：地方中核病院に勤務する救急看護師が抱く困難に対する協働的取り組み：アクションリサーチの活用を通して．第40回北海道救急医学会学術集会．2016年10月22日．帯広.

林美枝子，小山満子，松本真由美:性暴力被害者支援に関する学習意欲に影響する要因について:看護師への認識調査から．日本公衆衛生学会第75回大会．2016年10月28日．大阪.

牧野夏子，城丸瑞恵，内田裕美，田口裕紀子，皆川ゆり子，神田直樹，折田博美，津田久仁江，門間正子：地方の中核病院において救急看護師が考える救急医療の現状：施設の救急看護師へのインタビューから．第12回日本クリティカルケア看護学会学術集会．2016年６月５日．下野.

牧野夏子，門間正子，井波久美子：北海道の救急看護師の職務継続に関する研究：北海道開発協会開発調査総合研究所第12回助成研究発表会．2016年11月29日．札幌市.

松本真由美：地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参加：その役割と意義．日本地域福祉学会第30回記念大会．2016年６月12日．清瀬.

松本真由美：カリフォルニア精神保健計画審議会への当事者委員参加の状況．日本精神障害者リハビリテーション学会第24回長野大会．2016年12月２日．長野.

皆川ゆり子，城丸瑞恵，春名純平，内田裕美，田口裕紀子，牧野夏子，神田直樹，津田久仁江，折田博美，門間正子：地方の中核病院において救急医療に携わる看護師が抱える困難：施設の救急看護師へのインタビューから．第12回日本クリティカルケア看護学会学術集会．2016年６月４日．下野.

村松真澄，守屋信吾，村松宰：介護老人福祉施設への口腔管理の教育によるOral Assessment Guideの変化．第75回日本公衆衛生学会総会．2016年10月27日．大阪.

村松宰，遠藤眞美，柿木保明:高齢者の生命予後に対する食事形態，栄養状態からみたリスクファクター．第70回日本栄養・食糧学会大会．2016年５月15日．神戸.

森口眞衣：宗教的実践と「癒やし効果」の関係：医学と宗教と代替医療の接点．日本宗教学会第75回学術大会．2016年９月11日．東京

森口眞衣:宗教における「あやしい」という枠組みへの移動．第39回日本精神病理学会学術大会．2016年10月８日．浜松.

森口眞衣：森田療法の位置づけについて：「マインドフルネス（療法）」との比較から．第34回日本森田療法学会学術大会．2016年11月26日．東京.

吉田香：看護師2年課程通信制における学習に対する学生の思い．第26回日本看護学教育学会学術集会．2016年５月31日．東京.

国際学会：

Yamada, A.：Word order in the Wa languages. International Conference on Austroasiatic

Linguistics Workshop. 2016.9.5－7. Chiangmai

Yamada, A.：From illiteracy to literacy: Developments in the writing culture among the Parauk Wa. East Asian Anthropological Association. 2016.10.15－16. Sapporo

示説：

伊藤廣美, 岡田尚美. 利用者の精神科訪問看護に対する思い. 第36回日本看護科学学会学術集会. 2016年12月10日. 東京.

伊藤廣美, 岡田尚美, 滋野和恵. 精神科訪問看護の開始時における説明と利用に対する当事者の思い. 第21回日本在宅ケア学会学術集会. 2016年７月16日. 東京.

内田裕美, 牧野夏子, 門間正子, 神田直樹, 城丸瑞恵：看護学生のキャリア開発を目指した取り組みの効果：認定・専門看護師の資格取得に関するセミナーを通して. 日本看護学教育学会第26回学術集会. 2016年８月22日. 東京.

Goda, E., Shiromaru M., Nakada M.：Influences of BGM on the families of patients in ICUs as viewed by nurses. 20th EAFONS. 2017.2.9－10. Hong Kong

Saito, R., Takada, M.：Direct Observation in Nurse Education. 20th EAFONS, 2017.2.9－10. Hong Kong

Takada M., Saito, R.：Employment of nurses recruited in mid-career medium-size acute hospital. 20th EAFONS, 2017.2.9－10. Hong Kong

畑瀬智恵美, 吉田香：看護大学生の携帯電話の利用が学習に及ぼす影響. 第36回日本看護科学学会学術集会. 2016年12月11日. 東京.

牧野夏子, 門間正子, 井波久美子：北海道の救命救急センターに勤務する看護師のやりがいの実態と所在地域による相違の検討. 第12回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2016年６月４日. 下野.

三国久美, 澤田優美, 草薙美穂, 齋藤早香枝：小児科外来における育児相談の実施と評価. 第63回日本小児保健協会学術集会. 2016年６月. 埼玉.

その他：

賀来亨：口腔から始まる健康長寿. 日本医療大学生涯学習講座. 2016年９月12日. 札幌.

斉藤リカ：高齢者のための快眠生活指南. 日本医療大学生涯学習講座, 2016年７月23日. 札幌.

城丸瑞恵, 田口裕紀子, 牧野夏子, 春名純平, 内田裕美, 門間正子, 神田直樹, 皆川ゆり子, 折田博美, 津川久仁江：地方病院の救急看護師が抱える困難と支援方法：病院・研究機関に所属する看護師と研究者の協働的取組み例. 第12回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 2016年６月５日. 下野.

吉田香, 畑瀬智恵美. 看護大学生の看護のイメージと個人要因との関連. 第36回日本看護科学学会学術集会. 2016年12月11日. 東京.

〔**リハビリテーション学科の概要**〕

日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科（以下、「リハ学科」という。）は、日本医療大学開学１年後の平成27年４月１日に設置され２年が経過しようとしている。リハ学科は、理学療法学専攻と作業療法学専攻の２専攻で構成され、入学者定員は各40人、計80人の学科である。

リハ学科の教育目的は、本学の建学の精神である「ヒューマニティ（人間尊重、人間愛）に育まれる人間力」、および療育理念の「人間尊重を基盤とした人間力を備えた医療人の育成」を基盤に、『幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携･協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修の能力を授けるとともに、専門分野の基礎･基本となる知識および技術と専門職業人としての態度を教授する』を掲げている。

また、建学の精神、教育理念、教育目的を具現化するために、以下のような教育目標を定め養成する人材像を描いている。

１．生命の尊厳や人権を守り、人々の多様な価値観や意見を尊重できる

２．全人的理解を基盤とした人間関係を形成できる

３．科学的に裏付けされた専門的知識と技術でリハビリテーションの実践ができる

４．保健医療福祉チームの一員として他職種と連携･協働できる

５．問題解決に向けた科学的思考能力と主体的学習能力で自己成長ができる

リハ学科の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、以下の通りである。

１．リハビリテーションチームの一員として他者との連携･協調を保てる人

２．基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

３．何事にも根気強く望み、責任を持って最後までやり遂げる人

理学療法学専攻が求める人物像は、上記に加えて以下の通りである。

１）理学療法士になる意志が強く、必要な情報を自ら集めている人

２）支援を必要とする人に積極的に関わることができる人

３）ヒトの運動や動作のメカニズムに関心を持っている人

作業療法学専攻が求める人物像は、学科の入学者受入れ方針に加えて以下の通りである。

１）作業療法に関心があり、目標達成のために様々な方法を見つけ、行動できる人

２）「気配り、目配り、思いやり」を持って人との関わりを大切にできる人

３）専門的な視点から、生活支援が必要な人を支えたいと思う人

教育課程編成･実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、「入学者受入れ方針」に鑑み入学を許可した学生に対し、学科の教育目的・教育目標に沿った次の方針で教育を展開する。

１．人命、人権、多様な価値観を尊重できる人間性の育成

２．全人的理解を基盤とした援助的人間関係の形成能力の育成

３．科学的思考を基盤とした実践能力の育成

４．保健医療福祉チームの一員として他職種と連携、協働できる能力の育成

５．問題解決に向けた科学的思考能力、主体的学修能力の育成

リハ学科における卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は以下の通りである。

1．人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
2．多様な価値観、個性を尊重する能力
3．リハビリテーションの対象者を全人的に理解する能力
4．コミュニケーションをとおして、援助的人間関係に発展させる能力
5．科学的思考に基づき、理学療法・作業療法を実践する能力
6．エビデンスに基づいた理学療法・作業療法を安全に提供する能力
7．保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働できる能力
8．問題解決に向けて、科学的思考で主体的に学修できる能力

〔リハビリテーション学科の現状〕

第１期生の入学者数は、広報活動の遅れもあり理学療法学専攻（以下、「PT専攻」という。）38人、作業療法学専攻（以下、「OT専攻」という。）は15人であった。昨年度は、教員の協力を得て、積極的に入試説明会や高校訪問、出前講座等を行った。また、オープンキャンパス参加者へキャンパスへの送迎など、サービスの向上を図り、受験生獲得に努力をした。その結果、平成28年度入学者は、PT専攻42人、OT専攻26人と、若干の改善が見られた。しかしながら、今年度は、昨年同様の広報活動と入学者選抜方法にAO入試を導入するなどの改善を試みたが、平成29年度入学予定者は、PT専攻33人、OT専攻13人と両専攻ともに定員未充足となった。この原因については、学生募集対策委員会等で十分追及する必要がある。

学生生活を充実したものとするための支援については、学担を各学年・両専攻に各２人配置し各専攻代表と協働し、細やかな学修・生活支援を行っている。

また、チューター制度を設け、年度当初に抽選により配属を決め、学生間、上級生と下級生間、学生と教員間の絆を深める機会とした。チューター活動は、グループを指導する教員と学生との話し合いにより実施されている。

昨年同様、今年度も黄金週間明けの５月中旬に、学生と教員の交流会を行った。１年次は専門科目が少なく日頃疎遠となる専門教員との交流を図ろうと本行事を企画実施した。

リハ学科は、専門学校日本福祉リハビリテーション学院を前身としており、恵み野キャンパスは、３，４年生の理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科の専門学校生と学部生が共有している。先輩がいない学部生は、専門学校生と部活や、学院祭、専門学校の体育祭などの行事に参加し交流を深めており、学生、社会人、医療専門職になっていくための素養を培っている。

リハ学科の教員は、今年度増員されPT専攻８人（３人増員）、OT専攻５人（２人増員、平成27年度末教授１人退職）の計13人であった。教員は、学年進行に伴い増員されることが決定しており、来年度は４人増員（各専攻２人）される予定である。職階別では、教授５人（PT専攻３人、OT専攻２人）、准教授２人（OT専攻２人）、講師４人（PT専攻４人）、助教２人（PT専攻１人、OT専攻１人）であった。年齢構成は、70歳代２人（教授１人、准教授１人）、60歳代４人（教授４人）、

50歳代２人（准教授１人、講師１人）、40歳代２人（准教授１人、助教１人）、30歳代３人（講師２人、助教１人）であり、高齢教員が多い。これは、大学設置申請時に、職階に相応しい教員候補者をノミネイトしなければならず、新設大学では、教授職に他大学退職者に依存しなければならないのが現状である。来年度以降、教員の平均年齢は下がる予定である。また、平成29年度着任予定であったPT専攻の講師予定者が私事により辞退した。今後、後任教員の補充を急がなければならない。

研究活動については、リハ学科設置２年目と云うこともあり活発とはいえない現状である。学生の指導に費やされる時間が多いこと、専門教員が少ないこと、研究機器の老朽化や機器そのものの不足などが上げられる。それでも、13人の教員のうち外部資金獲得教員が２人、学内の学術助成費・教育向上研究費獲得者が９人おり、それなりの成果を上げている。本学附属の認知症研究所には、PT専攻の教授が１人参画している。また、他大学と共同研究を行っている教員もいる。

リハ学科の社会貢献として、学科が所在する恵庭市教育委員会社会教育課が主宰する長寿大学の運営委員会に教員を派遣している。個人的な社会貢献や、専門職育成に尽力している教員も多数いる。

表2－9－1　平成28年度　リハビリテーション学科教員数

教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
5（4）	2（1）	4（3）	2（1）	13（9）	45（35）

単位：人（　　）内は男

表2－9－2　平成28年度　専任教員の年齢構成

	66～70歳	61～65歳	56～60歳	51～55歳	46～50歳	41～45歳	36～40歳	31～35歳	計
教　授	2	3							5
准教授	1				1				2
講　師				1	1			2	4
助　教					1		1		2
計	3	3		1	3		1	2	13

単位：人

リハビリテーション学科教員の教育・研究・社会活動

氏名　乾　　公美　職階　リハビリテーション学科長、教授

専門分野：運動療法学、義肢装具学、神経筋促通治療学（PNF）、骨格筋生理学

教育活動：

責任科目：生理学演習、運動療法学

担当科目：なし

非常勤講師：札幌医科大学（義肢装具学）、山形県立保健医療大学（PNF）、日本福祉リハビリテーション学院（PNF）、札幌リハビリテーション専門学校（PNF）

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、入試広報委員会、自己点検・評価委員会（委員

長)、国試対策委員会、チューター
学術活動：
所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本リハビリテーション医学会、日本義肢装具学会、日本PNF学会（理事)、日本体力医学会、日本生理学会、北海道リハビリテーション学会（理事)、北海道理学療法士会（表彰審査委員会委員）
科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成費
社会活動：北海道PNF研究会を主宰し、道内のPT、OTに無料でPNF技術を指導、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック理事、恵庭市長寿大学運営委員会委員
顕彰：なし

氏名　髙橋　光彦　職階　理学療法専攻長、教授
専門分野：運動療法学、物理療法学、呼吸器系理学療法学、運動学
教育活動：
責任科目：運動学（２年次前期、４単位)、運動学演習（２年次後期、１単位15時間、15時間）
担当科目：生理学演習（２年次前期、１単位）
非常勤講師：北海道柔道整復師専門学校（リハビリテーション医学、運動学）
学内委員会・学科内業務等：理学療法専攻長、教授会、教務委員会、学生委員会、研究費審査委員会、FD委員会、２年学担、日本医療大学認知研究所研究員、チューター、サッカーサークル顧問
学術活動：
所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本衛生学会、日本体力医学会、北海道リハビリテーション学会
科学研究費（研究資金）の取得：厚労省科学研究費（難治性疾患等克服研究事業）
社会活動：日本医療大学主催生涯学習「長生きのための呼吸リハビリ」(2017年３月、月寒公民館)
顕彰：なし

氏名　坪田　貞子　職階　作業療法専攻長、教授
専門分野：生体力学、上肢機能障害学
教育活動：
責任科目：作業療法概論、作業療法評価学、作業療法評価学演習
担当科目：なし
非常勤講師：北海道文教大学（身体障害作業療法演習)、北海道リハビリテーション大学校（義肢装具学)、札幌リハビリテーション専門学校（運動器治療学)、日本福祉リハビリテーション学院（運動器治療学）
学内委員会・学科内業務等：教授会、入試広報委員会、ハラスメント防止委員会、研究費審査委員会、臨床実習運営委員会、チューター
学術活動：

所属学会・研究会等：国際ハンドセラピィ学会、日本作業療法学会、日本義肢装具学会、北海道作業療法学会、北海道リハビリテーション学会、日本手の外科学会、北海道ハンドセラピィ研究会.

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士会相談役、北海道リハビリテーション学会評議委員、北海道作業療法士養成校臨床実習連絡会議幹事長

顕彰：なし

氏名　佐藤　秀紀　職階　教授

専門分野：リハビリテーション学、保健福祉学、老年社会科学

教育活動：

責任科目：リハビリテーション論

担当科目：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、研究倫理委員会（委員長）、不正調査委員会（委員長）、自己点検・評価委員会、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健福祉学会（理事）（学術誌編集委員）、日本社会福祉学会（査読委員）、日本老年社会学会（査読委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　八田　達夫　職階　教授

専門分野：作業療法学

教育活動：

責任科目：作業療法セミナーⅡ、作業療法概論演習

担当科目：作業療法概論

非常勤講師：北海道大学大学院（公衆衛生看護学特論）、北海道大学（職業関連作業療法学）、放送大学（面接授業「人と車いすの科学」）

学内委員会･学科内業務等:教授会、就職･進路対策委員会（委員長）、教務委員会、入試実施委員会、研究倫理委員会、不正調査委員会、自己点検・評価委員会、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、日本リハビリテーション工学協会、日本職業リハビリテーション学会（ブロック理事）、北海道アクティブバランスシーティング研究会（副代表）、北海道感覚統合研究会（顧問）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：講演「アクティブバランスシーティング（ABS）」（９月17日札幌医療リハビリ専門学校）、ノテ福祉会法人共通研修「褥瘡予防について：車いすシーティングの観点から」（10月27日（木）日本医療大学真栄キャンパス）、北海道作業療法士会平成28年度重点課題研修会講演「快適な車いす姿勢を考える」（12月10日（土）日本医療大学真栄キャンパス）、日本職業リハビリテーション学会北海道ブロックセミナー講演「仕事・作業を支える車いす・いすシーティング」（1月7日（土）北海道大学学術交流会館）

顕彰：「ABS骨盤サポートベルトセット」の開発で「平成28年度北海道福祉のまちづくり賞」を受賞

氏名　大堀　具視　職階　准教授

専門分野：作業療法（身体障害、認知症）

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（神経・筋力系）

担当科目：生理学演習

非常勤講師：手稲渓仁会病院臨床指導、IMS札幌内科リハビリテーション病院臨床指導、旭川圭泉会病院臨床指導、特別養護老人ホーム芦別慈恵園介護指導

学内委員会・学科内業務等：教授会、学生委員会、FD委員会、国家試験WG、臨床実習WG、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、作業療法研究学会、日本生態心理学会、地域リハビリテーション研究会、日本ボバース研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士会理事、北海道作業療法士連盟副代表、学術誌「作業療法」査読者（第一査読）、機関紙「北海道作業療法」査読者、札幌市介護認定審査会委員、北海道作業療法士会現職者共通研修講師（９月24日）、北海道作業療法士会企画研修講師（10月29日）、北海道リハビリテーション専門職協会講師（恵庭市介護予防事業）（10月19日、11月22日）、水俣病公式確認60年記念事業　連続講座講師、及び講演、及び施設内研修（６月～１月で講座８回、講演４回、施設内研修５回：地域密着型特別養護老人ホームビハーラまどか他）、「動き出しは当事者から」大阪連続講座講師（９月～１月で３回：特別養護老人ホーム博愛の園）、日本医療大学公開講座講師（２月25日）、総合健康推進財団主催　深川清祥園職員研修会講師（９月８日、10月20日）、下川町地域包括支援センター講演会講師（８月21日）、美深町地域包括支援センター講演会講師（12月3日）、砂川市認知症ケア向上推進事業　第42回ケアスタッフ研修会講師（2月24日）、士別市地域包括支援センター講演会講師（３月５日）、空知老人福祉施設協議会主催　介護職員等研修講師（10月２日、10月９日）、後志老人福祉施設協議会主催　直接処遇者研修講師（８月27日-28日、11月26日-27日、芦別市みんなで介護考える会　講演会講師（９月11日）、特別養護老人ホーム美唄泰康職員研修会講師（10月11日、10月23日）、鈴木内科医院　職員研修会講師（12月２日）、ノテ福祉会職員研修会講師（１月16日）、ノテ福祉会新採用職員研修（３月22日）、老人保健施設ナー

シングホームコスモス職員研修会講師（３月19日）
顕彰：なし

氏名　石橋　晃仁　職階　講師
専門分野：神経系理学療法学
教育活動：
責任科目:理学療法セミナーⅠ（１年次後期、１単位30時間、30時間)、理学療法セミナーⅡ（２年次後期、１単位30時間、30時間）
担当科目：なし
非常勤講師：日本福祉リハビリテーション学院（神経障害理学療法Ⅱ、高次脳機能障害学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ）
学内委員会・学科内業務等：就職進路対策委員会、ハラスメント相談員、オープンキャンパスワーキンググループ学科リーダー、学生担当教員（２年生)、チューター、軟式野球部顧問
学術活動：
所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、医療体育研究会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：北海道理学療法士会社会局介護予防･健康増進支援部長、札幌市理学療法赤十字奉仕団副委員長、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック幹事、第51回日本理学療法学術大会査読委員、第67回北海道理学療法士学術大会査読委員、日本理学療法士協会認定理学療法士事例･症例報告サマリー審査、いきいき健康･福祉フェア2016アドバイザー、札幌市保養センター駒岡屋外施設活用検討委員会委員、札幌刑務所高齢･障害受刑者用社会復帰支援プログラム「基本的生活動作訓練」講師、大谷地パークアベニュー団地いきいきサロン体操指導講師、北海道理学療法士会第2回・第3回介護予防推進リーダー導入研修会講師、北海道理学療法士会道東支部第1回研修会「中枢神経障害に対する理学療法」講師､福祉用具プランナー研修会「高齢者の身体特性」講師、介護職員初任者研修「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」講師、札幌宮の沢脳神経外科病院　臨床および勉強会・研究指導特別講師
顕彰：なし

氏名　清田　直恵　職階　講師
専門分野：神経生理学、運動生理学、姿勢制御
教育活動：
責任科目：解剖学演習（骨・筋）（１年前期、２単位60時間)、機能解剖学（１年後期、１単位30時間)、生理学演習（２年前期、１単位30時間）
担当科目：臨床実習Ⅰ（理学療法）（２年後期、１単位）
非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：研究倫理委員会、図書・学術振興委員会、チューター
学術活動：
所属学会・研究会等：Society for Neuroscience、日本生理人類学会（評議員）、日本健康行動科学会（編集委員）、日本神経生理学会、日本理学療法士協会
科学研究費等研究資金の取得：藤原勝夫，清田直恵：足・膝・股関節の周囲の皮膚伸張刺激に伴う立位姿勢応答．文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究（研究分担者）
社会活動：日本健康行動科学会編集委員会委員、介護職員初任者研修「介護・福祉サービスの理解と医療との連携」講師
顕彰：なし

氏名　西山　徹　職階　講師
専門分野：義肢装具学、身体運動学
教育活動：
責任科目：なし
担当科目：臨床実習Ⅰ（理学療法）（２年後期、１単位）
非常勤講師：日本福祉リハビリテーション学院（義肢装具学）、北海道医療大学（義肢装具学Ⅱ）
学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパスワーキンググループ、臨床実習ワーキンググループ、チューター、恵み野バレーボール部顧問
学術活動：
所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、日本PNF学会、日本理学療法科学学会、臨床歩行分析研究会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　向井　康詞　職階　講師
専門分野：解剖学、運動器障害、運動生理学
教育活動：
責任科目：解剖学演習（骨・筋）（１年次前期、２単位60時間、60時間）、理学療法評価学（運動器系）（２年次通年、１単位30時間、30時間）、臨床判断学（基礎編）（２年次後期、１単位30時間、30時間）
担当科目：生理学演習（２年次前期、１単位30時間、30時間）、運動学演習（２年次後期、１単位30時間、30時間）、理学療法評価学演習（運動器系）（２年次通年、２単位60時間、60時間）
非常勤講師：日本福祉リハビリテーション学院（研究法、運動器障害理学療法学Ⅱ）、北海道メディカル・スポーツ専門学校（スポーツ医学Ⅱ）
学内委員会・学科内業務等：学生委員会、人権擁護委員会、FD委員会、学生担当教員（１年生）、国家試験対策ワーキンググループ、解剖学見学実習担当、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、日本義肢装具学会、運動生理学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：「北海道理学療法学」査読委員

顕彰：なし

氏名　木原由里子　職階　助教

専門分野：地域理学療法学、高齢者理学療法学、公衆衛生学

教育活動：

責任科目：地域リハビリテーション学演習、理学療法評価学演習（運動器系）

担当科目：理学療法評価学（運動器系）

非常勤講師：札幌医科大学（理学療法における国際保健）、北海道医療大学（国際協力と理学療法）、日本福祉リハビリテーション学院（神経障害理学療法学Ⅰ、老年期理学療法学）

学内委員会・学科内業務等：ハラスメント相談員、国試対策委員会、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本国際保健医療学会、日本集団災害医学会

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術研究費「地域在住高齢者の社会的虚弱（Social Frailty）の構造と要介護状態の発生に関する縦断研究」研究代表者

社会活動：恵庭市多文化共生のまちづくり委員会委員、日本予防理学療法学会学術集会実施部会協力員、北海道理学療法士会社会局介護予防・健康増進支援部部員、独立行政法人国際協力機構（JICA）国際緊急援助隊登録者、JRATメンバーとして熊本地震におけるリハビリテーション支援（４月29日～５月２日）、独立行政法人国際協力機構（JICA）日系研修（理学療法学、リハビリの臨床型研修）フォローアップ：移住地の診療所を中心にした地域に根ざしたリハビリテーションにかかる講師

顕彰：なし

氏名　合田　央志　職階　助教

専門分野：老年期作業療法学、福祉用具学、日常生活活動学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（基礎評価）、作業療法評価学演習（中枢神経系）

担当科目：なし

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：ホームページ委員、臨床実習ワーキンググループ、国家試験対策ワーキンググループ、学生担当教員（１年生）、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法学会、北海道作業療法士会、日本リハビリテーション工学カンファレンス

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道作業療法士会学会評議委員、全国リハビリテーション学校協議会幹事

顕彰：なし

リハビリテーション学科教員の学術業績

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

木原由里子(2017)．開発途上国における高齢者理学療法は？．島田裕之, 牧迫飛雄馬, 山田実(編)．高齢者理学療法学．509－510．医歯薬出版.

佐藤秀紀（2017）．図解運動療法ガイドⅡ部，実際，支援・指導．他職種連携-がん緩和ケア．920－924．文光堂.

総説：なし

原著：

伊禮まり子, 藤原勝夫, 矢口智恵, 清田直恵(2017)．感覚誘発電位および事象関連電位の記録方法．Health and Behavior Sciences. 15（2）. 75－81.

大堀具視（2017）．特別養護老人ホーム入居高齢者の感覚処理能力について．日本医療大学紀要，3．24－31.

片桐洋介，大堀具視（2016）．訪問リハビリテーションによる感覚・運動の観点から学習性不使用にある上司機能にアプローチした一事例，北海道作業療法，33（2）．98－102.

Kobayashi, E., Himuro, N., Takahashi, M.（2017）．Clinical utility of the 6･min walk test for patients with moderate Parkinson's disease. International Journal Rehabilitation Research, 40.　66－70.

Lytnev V., Fujiwara K., Kiyota N., Irei M., Toyama H., Yaguchi C. (2017). Postural control and contingent negative variation during transient floor translation while standing with the ankle fixed. Journal of Physiological Anthropology. 36:7.

Junpei T., Toru, N. Yoshimasa, M.（2017）．Does grip strength on the unaffected side of patients with hemiparetic stroke reflect the strength of other ipsilateral muscles? . Journal of Physical Therapy Science，29（1）．64－66.

その他：

木原由里子，鈴木聡子，井上真奈美，光増　智，太田　誠（2017）．熊本地震支援活動レポート　災害時のリハビリテーション医療を考える3．現地のリハはどう動いたのか（活動拠点での活動報告）①発災初動期　2016年４月29－５月２日（大津町，本田技研避難所）．臨床リハ，26（3）．287－289.

八田達夫，小谷晴子（2016）ノーマライゼーション対談「活動しやすく，座り心地のよい車いすでどんどんでかけよう、生き生き暮らそう」．ウィズライフ，43，4－11.

兵頭　彩，藤原勝夫，清田直恵，外山　寛（2017）．高齢者における最前傾・後傾の運動様式．Health and Behavior Sciences. 15(2). 69－73.

高橋光彦，石橋晃仁，向井康司，西山　徹，大堀具視，乾　公美（2017）．強制呼気における腹横筋と腹直筋の筋収縮特性に関する予備的研究．日本医療大学紀要，3，33－36.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

大堀具視.第18回高知県老人保健施設大会特別講演．2016年12月４日．高知県本山町.

大堀具視.平成28年度ユニットケア実践塾特別セミナー講師．2016年12月18日．愛知県日本福祉大学.

大堀具視.熊本県荒玉地区社会福祉施設連絡協議会研修大会特別講演．2017年１月27日．熊本県玉名市

大堀具視.第７回大牟田市介護サービス実践発表会基調講演．2017年２月19日．大牟田

大堀具視．第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナーアンコール講演・2017年３月12日．兵庫県神戸学院大学.

シンポジウム：

清田直恵．高齢者におけるアンチサッケードトレーニングと頚部前屈姿勢による相乗効果．日本健康行動科学会第15回学術大会シンポジウム「高齢者におけるトレーニングと身体適応」．2016年９月10－11日．堺市.

一般口演：

阿南浩司，藤原勝夫，矢口智恵，清田直恵，国田賢治，清田岳臣．上肢の随意的筋弛緩運動における予測的姿勢制御と事象関連脳電位．日本健康行動科学会第15回学術大会．2016年9月10-11日．堺市.

石田豊朗，井平　光，牧野圭太郎，木原由里子，志水宏太郎，伊藤一成，山口　亨，古名丈人：地域在住高齢者における身体機能が転倒恐怖感に及ぼす影響．第51回日本理学療法学術大会．2016年５月．札幌.

井平　光，牧野圭太郎，木原由里子，石田豊朗，志水宏太郎，伊藤一成，山口　亨，水本　淳，古名丈人：後期高齢がんサバイバーにおける肉類の摂取と身体活動との関連性．第58回日本老年医学会学術集会．2016年６月８-10日．金沢.

井平　光，牧野圭太郎，木原由里子，石田豊朗，志水宏太郎，伊藤一成，山口　亨，水本　淳：古名丈人:地域在住高齢がんサバイバーにおける身体活動と食品摂食習慣との関連性．第５回日本がんリハビリテーション研究会．2016年１月．神戸.

伊藤一成，井平　光，牧野圭太郎，木原由里子，志水宏太郎，石田豊朗，山口　亨，牧迫飛雄馬，島田裕之，古名丈人：地域在住後期高齢者における身体活動量の縦断調査と関連要因の検討．第51回日本理学療法学術大会．2016年５月．札幌.

大堀具視，中西　恵，中村昭雄：頚椎ソフトカラーの装着は重症脳卒中者の能動的活動を促す．第50回日本作業療法学会．2016年９月９-11日．札幌．

木原由里子，井平　光，牧野圭太郎，石田豊朗，志水宏太郎，伊藤一成，山口　亨，牧迫飛雄馬，島田裕之，古名丈人．地域在住高齢者の社会的サポート低下を予測する因子の検討．第51回日本理学療法学術大会．2016年５月27日．札幌．

木原由里子，三浦　和，古郡　恵．ネパールの震災後一年：リハビリテーションの視点より見た２つの異なる地域における住民の生活状況調査．日本国際保健医療学会第31回東日本地方会．2016年５月21日．埼玉．

清田直恵，藤原勝夫．高齢者におけるバランスボードトレーニングが周期的床振動時の足関節を基軸とした姿勢制御に及ぼす影響．日本健康行動科学会第15回学術大会．2016年9月 10-11日．堺市．

工藤裕美，大堀具視，安井勇輔：重症脳卒中者は何を見ているのか？第50回日本作業療法学会．2016年９月９日-11日．札幌．

工藤裕美，大堀具視：どこまでも歩けると思うんだ．第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー．2017年３月11日．明石．

国田賢治，藤原勝夫，清田岳臣，阿南浩司，清田直恵，矢口智恵．卓球における背屈 - 掌屈テイクバック動作の有無によるフォアハンドストロークでの打球の速度の差異．日本健康行動科学会第15回学術大会．2016年9月 10-11日．堺市．

合田央志，八田達夫，岸上博俊，山田里見，池田保：頭部前方位姿勢での嚥下に対する新開発骨盤サポート付き車いすの効果：健常者を対象とした予備研究．第50回日本作業療法学会．2016年９月９日．

佐々木育奈，大堀具視：自助具作成により痒みの訴え自体が消えたALSの一症例．第50回日本作業療法学会．2016年９月９日-11日．札幌．

志水宏太郎，井平　光，牧野圭太郎，木原由里子，石田豊朗，伊藤一成，山口　亨，牧迫飛雄馬，島田裕之，古名丈人：地域在住後期高齢者における筋肉量の低下に対するself-efficacyおよび活動能力の影響について．第51回日本理学療法学術大会　2016年５月．札幌．

渋谷保紀，大堀具視：体幹機能評価ATC（Assessment for trunk control）と他評価法および在宅復帰率の相関の検討．第50回日本作業療法学会．2016年９月９-11日．札幌．

渋谷保紀，大堀具視，佐藤義文:患者の言動から関わりのあり方を考える:在宅生活を諦めなかったＡ氏から学んだこと．第29回日本サイコオンコロジー学会．2016年９月23-24日．札幌．

宝田　光，大堀具視：入院治療に対して前向きな思いを発言した摂食障害者への作業療法．第50回日本作業療法学会．2016年９月９-11日．札幌．

宝田　光，大堀具視：もう車椅子には飽きた．第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー．2017年３月11日．明石．

高橋純平，西山　徹．脳卒中片麻痺者における上肢を用いた立ち上がり動作の運動学的特徴．第51回日本理学療法学術大会．2016年５月28日．札幌．

高橋光彦，乾　公美，西山　徹，他：スモン患者に対するリハビリテーションの方略．第87回日本衛生学会学術総会．2017年３月26日．宮崎．

高橋光彦，乾　公美，西山　徹，他：重心をコントロールするFirst Step歩行の解析．第86回日本衛生学会学術総会．2016年５月11日．旭川．

中西　恵，工藤裕美，大堀具視：身動きのとれない臥床を人はどう感じるのか～自ら動き出すために大切な関わりとは～．第50回日本作業療法学会　2016年９月９-11日．札幌．

西山　徹，野坂利也，向井康詞，他：遊脚期における大腿義足歩行時の股関節運動分析：異なる膝継手での分析．第32回日本義肢装具学会学術大会．2016年10月15日．札幌．

Fujiwara K, Kiyota N, Hyodo A, Toyama H, Sato F. Training effect of position perceptibility in forward and backward leaning posture using a balance-board for the elderly. Neuroscience 2016. 2016.11.12-16 San Diego

牧野圭太郎，島田裕之，牧迫飛雄馬，井平　光，木原由里子，石田豊朗，志水宏太郎，伊藤一成，山口　亨，古名丈人：積雪寒冷地域に住む後期高齢者の冬期間の身体活動量低下がその後３年間の認知機能の変化に及ぼす影響．第51回日本理学療法学術大会　2016年５月．札幌．

安井勇輔，工藤裕美，大堀具視．意識障害を合併した半側空間無視患者の見ている世界．第50回日本作業療法学会．2016年９月９-11日．札幌．

山口　亨，井平　光，牧野圭太郎，木原由里子，石田豊朗，志水宏太郎，伊藤一成，牧迫飛雄馬，島田裕之，古名丈人：積雪寒冷地域における非冬期の転倒は後期高齢者の運動機能低下を顕在化．第51回日本理学療法学術大会．2016年５月．札幌．

山中悠紀，水野智仁，西山　徹：片脚立位時のCOP動揺と足底面内COP位置の関係．第51回日本理学療法学術大会．2016年５月27日．札幌．

吉村小雪，大堀具視：脳卒中急性期におけるIVESと作業課題の併用効果：片麻痺により右手の動かし方を忘れてしまったと話す症例を通して．第50回日本作業療法学会2016年９月9-11日．札幌．

国際学会：

Itou, K., Ihira,H., Makino, K., Kihara, Y., Sshimizu, K., Yamaguchi, R., Sshimada, H., Maakizako, H., Furuna, T.：A Study of Factors Associates with the Occurrence of Depression Symptoms among Community-Dwelling Old-Old Adults. 16th Asia Confederation for Physical Therapy congress 2016, 2016.10. Malaysia

示説：

Ukita, A., Abe, M., Kishigami, H., Hatta, T.：Back support shape with pelvic support belt affects asymmetrical seated posture and pressure points during reaching tasks in post-stroke patients. The 93rd ACRM（American Congress of Rehabilitation Medicine）Annual Conference. 2016.10.31－11.4. Chicago

Ukita, A., Mani, H., Abe, M., Kishigami, H., Hatta, T.：The effect of wheelchair back support shape on reach accuracy. 2017.3.2－4. Nashville

その他：なし

[診療放射線学科の概要]

日本医療大学保健医療学部診療放射線学科（以下、「診療放射線学科」という。）は、平成28年４月に開設された。診療放射線学科の入学者定員は50人である。

診療放射線学科においては、「人間尊重を基盤とした『人間力』を備えた医療人の育成」の考えを基本理念として、放射線医療の高度化や多様化に対応するための基礎的な知識と技能の習得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成力、他者との協調と協働力、継続的な自己研鑽力、自主的に学び、考え、行動する高い研究能力を身につけた職業人を育成し、地域医療に貢献することを目的としている。また、専門分野における学術研究の進展に対応するための研究機能の整備と研究組織の充実を図り、地域貢献のための教育・研究拠点として知的資源の還元を教育研究上の目的とする。

以上の診療放射線学科の教育研究上の目的を具現化するため、以下に掲げる特性を備えた診療放射線技師を育成する。

１．体系的な専門知識と技能に基づく適切な判断力と行動を培うとともに、これらを基盤とした診療放射線技師の「人間力」を養う
２．生命尊重を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観を備え、的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う
３．チーム医療の一員として、医師・看護師や放射線医療に携わる職種と協調・協働して責任を果たし、医療安全の確保に貢献できる能力を養う
４．医療技術の進歩に柔軟に対応することができる基本的資質と、生涯を通して継続的に自己研鑽できる能力を養う
５．主体的かつ創造的に課題への探求に取り組み、解決するための力と学問の向上に寄与し得る基礎的な研究能力を養う

診療放射線学科の入学者受入れ方針（アドミッション･ポリシー）は、本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していけることである。卒業後に北海道内のみに貢献するのではなく、日本国内に広く活動していくことができる人材を求めている。さらに北海道という地域特性を鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できる逞しい人材を募集する。入学資格は、学則第４章第10条に定める通りとする。

教育目的を達成するための教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下の通りとする。

１．倫理観、基礎的コミュニケーション能力、論理的思考力、主体的判断力の育成
２．豊かな感性と想像力を持ち、個々の生命と人格を尊重し、協調性と責任ある行動がとれる人材の育成
３．医学と医療を総合的に理解し、科学的思考を基盤に様々な問題を解決できる能力の育成

４．診察・診療を行う医師や放射線室で患者を看護する看護師及び関連職種と連携し、課題を解決できる能力の育成
５．画像診断の読影分野について、系統的に学修する能力の育成
６．総合的に学修し、応用能力を身につけ、主体性を持って学修や研究を遂行できる能力の育成

診療放射線学科における卒業認定･学位授与に関する方針（ディプロマ･ポリシー）は以下の通りである。

１．多様な価値観、個性を尊重する能力
２．人の生命、人権を尊重し、擁護する倫理的な態度
３．コミュニケーションを通して、援助的人間関係に発展させる能力
４．放射線診療の受診者を全人的に理解する能力
５．科学的思考に基づき、放射線の診断分野と治療分野を実践する能力
６．エビデンスに基づいた放射線の診断分野と治療分野を安全に提供する能力
７．画像診断における読影の補助が実践できる能力

診療放射線学科の現状

平成28年度の入学応募者は104人、入学者は52人であった。入学者に対しては、学年担任１人、副担任１人を中心に専任教員全員体制で学生支援と学習支援を行っている。また、オフィスアワー制度を設定することで全ての教員がメールアドレスとオフィスアワーの曜日・時間を掲示し、学生の訪問と相談を受けている。

診療放射線学科が開設されたことにより、保健医療学部の３学科が連携し活動を開始することが可能となった。学友会や学内団体・サークル活動では、クラブ活動や体育大会、大学祭（日医祭）が３学科合同で開催され、学科間の交流が活発に行われている。

教員構成は、授業を担当する教員のみ６人で開始され、学年進行にともない次年度以降順次採用され、完成年度までに10人の専任教員を予定している。職階は平成28年４月現在、教授４人、講師２人である。教員の研究活動では､本学に着任前からの研究テーマを継続して実行している。また、国外の大学において研究と学生指導を行っている教員が在籍している。

社会貢献活動では、公開講座の講師派遣の他に職能団体や学術団体の委員・役員、省庁の委員などの活動を継続している。学生の学修においては、数学と物理学の基礎知識が不足している学生が多数入学しているため、関連する科目の単位取得に支障をきたしている。急遽、補講時間の設定と個人指導を開始したが、十分な成果が得られていない。そのため今後は入学試験に数学と物理学の科目を設定すると同時に、入学決定者に対する入学前課題を課すことで基礎的な学習を促す必要がある。

大学の設備においては、インターネット環境の不備による授業進行および教員の研究活動に支障が生じている。また、図書館の専門書が不足しているため、学生の図書検索に関わる授業を行うことが不能な状態である。今後の改善が望まれる。

表2－10－1　平成28年度　診療放射線学科教員数

教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
4（4）		2（2）		6（6）	10（8）

単位：人（　　）内は男

表2－10－2　平成28年度　専任教員の年齢構成

	66～70歳	61～65歳	56～60歳	51～55歳	46～50歳	41～45歳	36～40歳	31～35歳	計
教　授	1	1			1	1			4
准教授									
講　師			1					1	2
助　教									
計	1	1	1		1	1		1	6

単位：人

診療放射線学科教員の教育・研究・社会活動

氏名　西山　　篤　職階　診療放射線学科長、教授

専門分野：診療画像機器学、医用工学

教育活動：

責任科目：放射線科学概論（１年次前期、１単位15時間）、診療放射線学概論（１年次後期、１単位15時間）

担当科目：なし

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（診療放射線学特論）

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、学生募集対策委員会、入学者選抜試験実施委員会、人権擁護委員会、自己点検・評価委員会、大学院設置準備委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、日本診療放射線技師教育学会、日本診療放射線学教育学会、医用画像情報学会、総合医用画像技術研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：診療放射線技師関連法令および臨床実習あり方検討会（委員）、技師法改正歴史編纂委員会（委員）、技師法改正検討委員会（委員長）、日本診療放射線技師会６年制教育検討委員会（委員長）、倫理委員会（委員）、診療放射線技師教育内容検討班（委員）、診療放射線技師出題委員会（委員）

顕彰：なし

氏名　住吉　　孝　職階　教授

専門分野：放射線化学、放射化学、物理化学

教育活動：

責任科目：化学（１年次後期、１単位15時間、15時間）、放射線物理学（１年次後期、２単位30時間、30時間）

担当科目：なし

非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（放射線計測学Ⅰ）

学内委員会・学科内業務等：教授会、ハラスメント防止委員会（委員長）、研究倫理委員会、図書・学術振興委員会、研究費審査委員会、不正調査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本原子力学会、日本放射線化学会、日本アイソトープ協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：泊発電所環境保全監視協議会委員、泊発電所環境保全監視協議会技術部会委員（部会長）、泊発電所風評被害等対策協議会委員、日本医療大学生涯学習講座講師「身の回りの放射線」（８月20日）

顕彰：なし

氏名　俵　　紀行　職階　教授

専門分野：磁気共鳴医工学、スポーツ医科学、骨成熟評価

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：放射線科学概論（１年次前期、１単位15時間）

非常勤講師：Chulalongkorn University in Thailand（MR Physics）

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、入試選抜実施委員会、研究費審査委員会、FD委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、日本磁気共鳴医学会、日本医学物理学会、日本骨形態計測学会、日本ヒト脳機能マッピング学会、ESR（European Society of Radiology）、SMRT（Section for Magnetic Resonance Technologists）

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤B）「運動に誘発された筋活動の総合的な解明と対象筋拡大のための筋機能的MRIの改良」研究代表者（平成25年度～28年度）

社会活動：Saitama MRI Conference（SMC）世話人

顕彰：なし

氏名　樋口　健太　　職階　教授

専門分野：保健物理学

教育活動：

責任科目：医療コミュニケーション学（１年次後期、１単位15時間）

担当科目：なし
非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院診療放射線学科
学内委員会・学科内業務等：教授会、FD委員会（委員長）、自己点検・評価委員会、学生委員会、ハラスメント相談員、オープンキャンパスワーキンググループ
学術活動：
所属学会・研究会等：日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、放射線安全取扱部会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：日本医療大学紀要査読
顕彰：なし

氏名　小山　和也　　職階　講師
専門分野：核医学検査技術学
教育活動：
責任科目：なし
担当科目：診療放射線学概論（１年次後期、１単位15時間、15時間）
非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（診療放射線学特論）
学内委員会・学科内業務等：学生委員会、図書学術委員会、研究倫理委員会
学術活動：
所属学会・研究会等：日本核医学技術学会、日本放射線技術学会、札幌核医学技術研究会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　杉本　芳則　職階　講師
専門分野：放射線技術学、胃Ｘ線読影技術、予防医学、情報学
教育活動：
責任科目：情報科学（１年次前期、１単位15時間、15時間）、情報科学演習（１年次後期、１単位30時間、30時間）
担当科目：なし
非常勤講師：日本福祉看護・診療放射線学院（放射線物理学Ⅰ演習、卒業研究）
学内委員会･学科内業務等:教務委員会、学生委員会、就職･進路対策委員会、人権擁護委員会、オープンキャンパスワーキンググループ
学術活動：
所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、日本CT検診学会、日本消化器がん検診学会、日本放射線技師会、日本消化器画像診断情報研究会、日本医用画像管理学会、札幌ニューテクノロジー研究会、日本消化器がん検診精度管理評価機構、大阪消化管撮影技術研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本消化器画像診断情報研究会常任世話人、日本消化器がん検診学会北海道支部北海道胃がん検診専門技師技術研修会世話人、札幌ニューテクノロジー研究会相談役、日本消化器がん検診学会北海道支部胃がん検診専門技師技術研修会シンポジウム座長、クラウド型クリッカーの運用（日本消化器がん検診学会北海道支部研修会にて２回、日本消化器がん検診精度管理評価機構北海道支部学術研修会にて１回、札幌ニューテクノロジー研究会月例会にて２回）

顕彰：なし

診療放射線学科教員の学術業績

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

西山篤（2016）．平成29年版診療放射線技師国家試験問題集．共立出版.

西山篤，大松将彦，長野宣道，加藤広宣，賈棋，福田覚（2016）．初歩の医用工学．医療科学社.

西山篤編．飯田孝保，高瀬勝也，福田覚著（2016）．医用工学演習．医療科学社.

総説：なし

原著：

住吉孝(2017). ヒドロキシシクロヘキサジエニルラジカルの光化学: 1 . メトキシ置換ベンゼン類. 日本医療大学紀要，3．12－23.

Tawara N., Nishiyama, A.（2016）．Effect of number of measurement points on accuracy of muscle T2 calculations．Investig Magn Reson Imaging，20（4）．207－214.

Toyota, M. Saigo, Y, Higuchi K., Fujimura, T, Koriyama, C., Yoshiura, T., Akiba, S.（2017）．Comparison of the Peripheral Does from Different IMRT Techiniques for Pediatric Head and Neck Radiation Therapy．Radiat Prot Dosimetry，25．1－9．（doi: 10.1093/rpd/ncx013.）

Hosokawa, S.,Koyama, K., Inoue, K.（2016）．Optimization of novel respiratory-gated imaging technique in 4D-PET．J Jpn Health Sci，19，33－39.

その他：

樋口健太（2016）第111回日本医学物理学会学術大会報文集，36（1）．122.

Higuchi K., Matsumoto Y., Ueoka R（2017）．Basic Study of a Contrast Medium Using Hybrid Liposomes．Bulletin of Japan Health Care College.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：

西山篤：．第７回JARTワークショップ．2016年７月２日．熱海.

一般口演：

工藤真弓，高橋伸之，杉沢猛，杉本芳則，湯口直也，南出昌彦，中原雄志，鮒田亜由美，田形千

恵，吹田沙織，安保沙耶，村島義男，藤本琴音，針谷章二郎，川村憲一，今村哲理：平成26年度胃集検成績．日本消化器集団検診学会第46回北海道地方会．2016年７月９日．札幌.

相良裕亮，小山和也，津田啓介：Gaussian filterがPET画像濃度の描出能精度に及ぼす影響の評価．第44回日本放射線技術学会秋季学術大会．2016年10月13日．大宮.

佐々木康之，藤原学，有田裕司，渋谷亮平，熊谷沙織，井村麻里代，齋藤静香，本間彩良，池林亜希子，杉本芳則：胃Ｘ線検査における検者間相違点の検討と課題：装置入射表面線量表示システムを利用して．日本消化器集団検診学会第46回北海道地方会．2016年７月９日．札幌.

杉本芳則：スマートフォンを用いた講義支援システムの構築．日本医療大学研究報告会．2017年３月30日．札幌.

Tawara N.，Nishiyama A.：Rapid T1 measurement using Fast imaging．第44回日本磁気共鳴医学会大会．2016年９月９日．さいたま.

橋本直起，小山和也，津田啓介．PET検査における不均一腫瘍モデルを用いた至適画像再構成条件の検討．第44回日本放射線技術学会秋季学術大会．2016年10月13日．大宮.

Toyota M, Higuchi K.：Comparison of the peripheral dose due to different IMRT technique for pediatric head and neck radiation therapy．第111回日本医学物理学会学術大会．2016年４月15日．横浜.

三本拓也，小山和也．FDG集積不均一性と腫瘍体積計測制度の関連性．第56回日本核医学会学術総会．2016年11月３日．名古屋.

国際学会：

Tawara N.，Nishiyama A.：A Comparison between Single-Shot SE-EPI and Multi-Shot SE-EPI on Calculating T2．ICMRI2017．2017.3.24．Seoul

Tawara N.，Ponkanist K.，Shiratori S.，Krisanachinda A.，Yamamoto T.：Accuracy evaluation of pulse sequences using inversion recovery pulse for T1 measurement．23th ISMRM．2016.5.12．Suntec City

Polharn P，Krisanachinda A，Tawara N，Ponkanist K.：The effect of repetition time during the measurement of muscle T2 for investigating muscle activity at 1．5 tesla MRI，ICMP2016．2016.12.10．Bangkok

示説：なし

その他：なし

●科学研究費助成事業●

文部科学省科学研究費補助金等の競争的外部資金の応募・取得状況

区分	応募	取得
平成28年	24件	1件

～競争的外部資金に関する採択実績の開示について～

文部科学省科学研究費学術研究助成基金・助成金（研究代表者）

NO.	採択区分	研究代表者名	研究期間	研究課題名
1	基盤研究（B）	俵　紀行	平成25年～28年	運動に誘発された筋活動の総合的な解明と対象筋拡大のための筋機能的MRIの改良
2	基盤研究（C）	松本　真由美	平成27年～29年	地方精神保健福祉審議会における当事者委員の参画に関する調査研究
3	基盤研究（C）	森口　眞衣	平成24年～28年	インド精神医学史における疾病概念の変遷および宗教的実践と精神療法の関連
4	若手研究（B）	山田　敦士	平成28年～31年	ワ族の文字表記と書承文化に関する調査研究
5	基盤研究（C）	岡田　尚美	平成27年～29年	継続的な支援が必要な家族のための助産師と保健師の連携指針の開発

文部科学省科学研究費学術研究助成基金・助成金（研究分担者）

NO.	採択区分	研究代表者・分担者	研究課題名
1	基盤研究（C）	昭和女子大学　小西　香苗 看護学科　教　授　村松　宰	世帯および地域の社会経済学的要因が食生活や健康状況に与える影響ー栄養疫学的検討
2	基盤研究（C）	札幌大谷大学　教　授　永田志津子 看護学科　教　授　林　美枝子	高齢者生活支援のための地域産学官のネットワーク構築に関する研究
3	基盤研究（C）	札幌市立大学　教　授　川村三希子 看護学科　准教授　小島　悦子	認知症高齢がん患者の疼痛マネジメントの質向上を目指した疼痛アセスメント指標の開発
4	基盤研究（C）	北海道大学　准教授　松江　崇 看護学科　准教授　山田　敦士	漢語語彙史における複音節化現象の総合的研究
5	基盤研究（B）（海外学術調査）	東京外国語大学　名誉教授　新谷　忠彦 看護学科　准教授　山田　敦士	言語・文化調査に基づくタイ文化圏の少数民族の歴史の解明
6	基盤研究（B）	北海道医療大学　教　授　三國　久美 看護学科　准教授　草薙　美穂	小児外来でのファミリーパートナーシップモデルに基づく多職種による育児支援の有効性
7	基盤研究（C）	札幌医科大学・看護学第三講座　准教授　上田　泉 看護学科　講　師　岡田　尚美	子どもの虐待予防を重視した妊娠期に必要な父親のコンピテンシー構造化と支援プログラム

8	挑戦的萌芽研究	金沢学院大学　　教　授　藤原　勝夫 リハビリテーション学科 講　師　清田　直恵	足・膝・股関節の周囲の皮膚伸張刺激に伴う立位姿勢応答

●厚生労働行政推進調査事業●

厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））スモンに関する調査研究

研究代表者　　「スモンに関する調査研究班」 研究代表者　小長谷正明

研究分担者　　リハビリテーション学科　教授　高橋　光彦

２－８－②　教員の採用・昇任等教員評価、研修、FD（Faculty Development）をはじめとする教員の資質・能力向上の取り組み

１　教員の採用・昇任等

教員の採用・昇任は、「日本医療大学教員選考委員会規程」に従い選考することになっているが、現在、学年進行中（AC期間）であり、教員の変更等が生じた場合、文部科学省に「専任教員採用等設置計画変更書（ＡＣ教員審査)」を申請し、職位の適格性や授業科目の判定を受けることになっている。したがって、教員の採用・昇任等については、学内規程を適用していない。

２　教員の資質・能力向上への取り組み

「日本医療大学ファカルティ･ディベロップメント委員会」（以下、「FD委員会」という）を置き、教育内容および方法などの改善のための企画および実施、教育に係る教育支援、授業評価の資質向上のための企画および実施、FD活動に係る情報収集や調査・研究など、教員の資質・能力向上への取り組みを行い、資質向上を図っている。

FD委員会は、「FD委員会規程」（第２条第１項第１～５号）により、⑴教育課程・体制の点検・評価および改善方法の計画に関する事項、⑵講義および演習・実習に対する学生の授業評価項目の改善ならびに実施方法の計画に関する事項、⑶授業法の開発と改善に対する具体的計画に関する事項、⑷教員研修プログラムの開発および研修方法の計画に関する事項、⑸その他本学における FD に関する事項について審議し必要な業務を行うことになっている。平成28年度の実施状況は次のとおりである。

【実施状況】

⑴　学生による授業評価アンケートおよびフィードバックの実施

前・後期にそれぞれ1回実施した。学内掲示板で教員および学生に公開している。

⑵　教育課程の検討

AC期間中であるが、2018年度以降の新カリキュラムに向けて検討を行っている。

⑶　教員研修会の実施、授業方法の開発（全教員対象）

①　研究倫理教育（研究倫理委員会と共同開催）

「責任ある研究活動への取り組み」～研究活動における不正行為について～外部講師を招い

て学習会を開催した。

② コンプライアンス教育

本学における競争的資金等の適正な執行について、研修を行った。

③ アクティブ・ラーニング

外部講師を招いて「大人数クラス向けのactive learningの導入」の学習会を実施した。

⑷ 教員評価制度の実施状況および結果の活用状況

教員評価制度の実施状況および結果の活用状況については、自己点検評価委員会において「教員の自己点検評価表」を作成した。

２－８－③ 教養教育実施（基礎教育）のための体制の整備

基礎教育科目の教員は、看護学科に所属して学生指導を行っている。平成27年度にリハビリテーション学科、平成28年度に診療放射線学科が設置されたが、基礎教育科目担当教員は引き続き看護学科に配属されている。

基礎教育科目教員を学科に配属することは、学生と基礎教育科目教員との交流の機会を増やし、意思の疎通や基礎教育科目の履修をする上で有益である。

基礎教育を行うための組織上の措置および運営上の責任体制はいまだに確立しておらず、今後、早急に取り組む必要がある。

２－９ 教育環境の整備

校地、校舎の状況

（平成28年５月１日現在）

所　在　地	区　分	内　容
札幌市清田区真栄434－１	校　地	面　積　20,945.00㎡
札幌市豊平区月寒西２条５丁目１－２	校　地	面　積　757.00㎡
札幌市豊平区月寒西１条４丁目３－１	校　地	面　積　726.00㎡
恵庭市恵み野西６丁目17－３	校　地	面　積　8,886.00㎡
札幌市清田区真栄434－１	校　舎 ４　棟	①ＲＣ造５階建 延べ面積　3,969.13㎡ ②ＲＣ造５階建 延べ面積　5,411.28㎡ ③ＲＣ造５階建 延べ面積　1,425.00㎡ ④木造合金ﾒｯｷ鋼板2階 延べ面積　445.95㎡
札幌市豊平区月寒西２条５丁目１－２	校　舎 １　棟	①ＲＣ造５階建 延べ面積　1,432.94㎡
札幌市豊平区月寒西１条４丁目３－１	校　舎 １　棟	①ＲＣ造５階建 延べ面積　1,429.92㎡
恵庭市恵み野西６丁目17－３	校　舎 ２　棟	①ＲＣ造４階建 延べ面積　4,900.61㎡ ②ＲＣ造３階建 延べ面積　1,664.04㎡

図書館の概要と利用状況

平成28年度　附属図書館

１．概要

１）施設規模

真栄キャンパス本館・・・・延べ床面積328㎡

恵み野キャンパス分館・・・延べ床面積206.61㎡

２）図書・雑誌・視聴覚資料所蔵数（平成29年3月31日現在）

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数	
	和書（冊）	洋書（冊）	視聴覚（本）	計	和雑誌（種）	洋雑誌（種）
真栄キャンパス本館	16,776	387	478	17,641	61	14
恵み野キャンパス分館	8,133	166	61	8,360	55	17
合計	24,909	553	539	26,001	116	31

※雑誌は、２年以上継続して受け入れ、かつ２年以上保存しているタイトル数

３）平成28年度受入状況（平成29年３月31日現在）

図書館の名称	区　分		和書	洋書	計
真栄キャンパス本館	図書（冊）	購入	401	0	401
		寄贈	0	0	0
		計	401	0	401
	雑誌（種）	購入	61	14	75
		寄贈	0	0	0
		計	61	14	75
恵み野キャンパス分館	図書（冊）	購入	136	2	138
		寄贈	0	0	0
		計	136	2	138
	雑誌（種）	購入	38	17	55
		寄贈	0	0	0
		計	38	17	55

２．利用状況

１）開館日時・休館日

開館時間	平　日　：　9：00～19：00 土曜日　：　9：00～12：00 大学の長期休業期間中：9：00～17：00（平日）
休館日　日曜、祝日、年末年始、学校閉鎖期間	

２）利用資格

①　本学の学部生および教職員

② 本学法人の専門学校生および教職員

③ 北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟館所属の方

④ つしま医療福祉グループの職員

3）貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生	5冊	図書：2週間
教職員	無制限	図書：2週間 雑誌：1週間

4）年間利用者数・貸出冊数等（平成29年３月31日現在）

図書館の名称	開館日数	入館者数	貸出人数	貸出冊数	ILL 件数	
					受付	依頼
真栄本館	244	15,444	1,760	4,045	2	112
恵み野分館	244	−	1,186	2,514	0	14
合計	−	−	2,946	6,559	0	126

ILL：Inter-Library Loan（相互貸借）

3　経営・管理と財務

3－1　経営の規律と誠実性

保健医療学部教授会

〔平成28年度〕

回	議案・報告事項		開催日時
01	報告事項	1　平成28年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 2　平成28年度特別講師の委嘱および担当科目について 3　2016年度学生委員会・学友会事業計画について 4　学生団体一覧・学友会本部会役員について	平成28年04月13日 15:30～16:15 201講義室 欠席者　なし 議事録署名人 畑瀬智恵美
02	意見を求める事項 報告事項	1　入学前の既修得単位の認定について 2　平成28年度学生の入学と生活に関するアンケート調査の実施について 3　平成28年度学術助成費および教育向上研究費の配当について 1「20歳になる学生のための年金講座」と「安心･安全週間」の講座と講演について 2　平成28年度上期の日本医療大学主催　生涯学習講座の予定について	平成28年04月27日 15:30～16:15 201講義室 欠席者　小山 議事録署名人 八田達夫
03	報告事項	1　第３回日本医療大学体育大会について 2　平成27年度日本医療大学年報の作成について 3　平成27年度日本医療大学事業報告について 4　不正調査委員会の委員について 5　リハビリテーション学科におけるAO入試について	平成28年05月11日 15:30～15:50 201講義室 欠席者　賀来、俵 議事録署名人 早川宏子

04	報告事項	1　平成28年度履修登録について 2　平成28年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 3　平成27年度決算報告について 4　学生による授業評価アンケートの実施について	平成28年05月25日 15:30～16:05 201講義室 欠席者　なし 議事録署名人 林　美枝子
05	意見を求める事項 報告事項	1　平成28年度教授会開催日程の変更について 1　不正調査委員会からの報告 ⑴　研究倫理教育・コンプライアンス教育の実施について ⑵　2016年競争的資金等の使用に関する不正防止計画について ⑶　不正調査委員会学外委員の選任について 2　平成28年度定期試験等の実施について 3　平成28年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 4　平成28年度入学試験結果について 5　平成28年度第１回オープンキャンパスの概要について 6　平成29年度日本医療大学学生募集要項について	平成28年06月08日 15:30～17:05 201講義室 欠席者　門間 議事録署名人 樋口　健太
06	報告事項	1　ハラスメント防止委員会の委員について 2　ＦＤ研修会の実施について 3　平成28年度特別講師の委嘱及び担当科目について 4　平成28年度実習指導教員の委嘱及び担当科目について 5　平成28年度学生の入学と生活に関するアンケート調査の結果報告について 6　平成28年度学生団体設立（継続）許可について 7　学生相談室だより８号の発行、ニュースレター「あずまし」11号の配付について 8　第２回「ナーシングセレモニー2016年の誓い」の実施について	平成28年06月22日 15:30～16:30 201講義室 欠席者　西山 議事録署名人 賀来　亨
07	意見を求める事項 報告事項	1　休学（看護学科）について 2　臨地実習に関する申し合わせ事項について 1　前期定期試験時間割について 2　前期再試験の時間割について 3　実習指導教員委嘱及および担当科目について 4　第３回日医祭全体スケジュール（案）について 5　第22回アンデルセングルメ祭り」について	平成28年07月13日 15:30～16:35 201教室 欠席者　畑瀬、 小島、 並川、岡田、俵 議事録署名人 村松　　宰
08	意見を求める事項 報告事項	1　平成29（2017）年度ＡＯ入学試験実施計画について 2　日本医療大学における研究データの保存等に関するガイドラインについて 1　平成28年度学術助成費・教育向上研究費の2次交付について 2　第３回日医祭の実施計画について 3　受験資格者一覧について	平成28年7月27日 15:30～16:20 201講義室 欠席者　なし 議事録署名人 小島　悦子
09	意見を求める事項 報告事項	1　休学（看護学科・リハビリテーション学科）について 1　平成28年度　実習指導教員の委嘱および担当科目について 2　平成28年度　〔前期〕定期試験受験資格者一覧について 3　平成28（2016）年度　日本医療大学各種委員会委員について	平成28年8月24日 15:30～15:45 201講義室 欠席者　西山 議事録署名人 小山　満子

10	意見を求める事項 報告事項	1　復学・退学について 2　保健医療学部看護学科実習施設の変更について 3　保健医療学部リハビリテーション学科実習施設の変更について 4　ＡＯ入学試験判定について 1　平成29（2017）年度AO入学試験Ⅱ期実施計画と推薦入学試験実施計画について 2　平成28年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 3　定期試験成績について 4　保護者懇談会について	平成28年09月14日 15:30～16:45 201教室 欠席者　坪田 議事録署名人 草薙　美穂
11	意見を求める事項 報告事項	1　退学について 1　平成28年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 2　平成28年度実習指導教員の取消および担当科目について 3　保護者懇談会の教務事項について 4　第３回日医祭のパンフレットについて 5　学生への配付物について ⑴　学生委員会からのお知らせ2016-4 ⑵　学生相談室便り ⑶　ニュースレター12号（案）	平成28年09月28日 15:30～16:00 201教室 欠席者 俵、佐々木 議事録署名人 松本　真由美
12	意見を求める事項 報告事項	1　休学・退学について 2　AO入学試験判定について 1　平成28年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 2　国際交流協定書について ⑴　中国　楽山職業技術学院 ⑵　デンマーク　ノウフュンス国民大学 3　日本医療大学認知症研究所について ⑴　ニッセイ財団実践的課題研究助成 ⑵　株式会社アミノアップ化学との共同研究	平成28年10月12日 15:30～16:00 201教室 欠席者　早川、 佐々木、瀧、俵 議事録署名人 森口　眞衣
13	意見を求める事項 報告事項	1　平成29年度学年暦について 1　2017（H29）年度非常勤講師の委嘱について 2　平成28年度後期申請学内団体の設立許可について 3　日本医療大学オープンキャンパス参加者アンケートについて	平成28年11月09日 15:35～16:15 201講義室 欠席者　山田 議事録署名人 村松　　宰
14	意見を求める事項	1　推薦入学試験判定について	平成28年11月16日 15:30～15:55 201講義室 欠席者　高橋、瀧 議事録署名人 並川　聖子
15	意見を求める事項 報告事項	1　保健医療学部看護学科実習施設の変更について 2　平成30年度入学者選抜試験実施（案）の提案について 1　平成28年度 特別講師の委嘱及び担当科目について 2　平成28年度 実習指導教員の委嘱および担当科目について 3　平成29（2017）年度 一般入学試験（前期・後期）実施計画について 4　福祉避難場所等への学生等ボランティアの派遣協力に関する協定書	平成28年12月14日 15:35～16:05 201講義室 欠席者 畑瀬、小島、 村松、並川、俵 議事録署名人 岡田　洋子

16	意見を求める事項 報告事項	1　休学について 1　平成29年度非常勤講師一覧について 2　平成29年度実特別講師の委嘱および担当科目について 3　平成28年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 4　平成28年度 追試験・追実習について	平成29年01月11日 15:30～15:50 201講義室 欠席者　草薙 議事録署名人 大堀　具視
17	意見を求める事項 報告事項	1　履修規程（臨地実習科目の履修条件）に関する申し合わせ事項について 1　定期試験時間割2016について 2　後期定期試験受験資格者一覧について 3　諸規程の制定について	平成29年01月25日 15:30～16:00 201講義室 欠席者　村松 議事録署名人 佐々木　由紀子
18	意見を求める事項 報告事項	1　平成29年度リハビリテーション学科・診療放射線学科における教育課程の科目時期の変更（案）について 2　平成29年度一般入学選抜試験（前期）合否判定について 3　自己点検・評価制度（案）について 4　平成30年度入学試験センター試験利用入学者選抜試験について 1　平成29年度特別講師候補の委嘱および担当科目について 2　平成29年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 3　後期定期試験受験者一覧について	平成29年02月08日 15:30～16:30 201講義室 欠席者 早川、松本、 岡田、大堀 議事録署名人 佐藤　秀紀
19	意見を求める事項 報告事項	1　履修規定の改正案について 2「成績評価に関する疑義申し立て」（案）について 1　実習指導教員の委嘱および担当科目について 2　平成29年度入学式実施概要について	平成29年02月22日 15:30～16:30 201講義室 欠席者　なし 議事録署名人 住吉　　孝
20	意見を求める事項 報告事項	1　復学と仮進級の可否について 2　進級判定について 3　学則と諸規程の改正について 1　後期成績について 2　平成29年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 3　保健医療学部看護学科の実習施設の変更について 4　平成28年度学生相談室活動報告書について 5　平成29年度学友会活動について	平成29年03月08日 15:30～16:20 201講義室 欠席者 佐々木、早川 議事録署名人 高橋　光彦
21	意見を求める事項	1　平成29年度一般入学選抜試験（後期）合否判定について	平成29年3月10日 16:00～16:35 201講義室 欠席者　早川、 松本、佐々木 議事録署名人 瀧　　断子

22	意見を求める事項 報告事項	1　リハビリテーション学科２年の進級判定について 2　仮進級の可否について 3　復学・休学・退学について 4　平成29年度教授会開催日程について 5　キャリア学修支援センターの設置について 1　リハビリテーション学科２年の後期成績について 2　平成29年度実習指導教員の委嘱および担当科目について 3　リハビリテーション学科の実習施設の変更について 4　看護学科４年次の学年暦について 5　平成29年度日本医療大学年度別学生顕彰について 6　平成29年度の教員組織について 7　平成29年度非常勤講師一覧の更新について	平成29年3月22日 15:30～16:15 201講義室 欠席者　樋口、 村松、佐々木 議事録署名人 俵　　紀行

３－２　理事会の機能

理事会及び評議員会の開催状況

開催会議	開　催　日　時	出席者数（書面表決）/定員数	
		理　事	監　事
理 事 会	平成28年４月１日（金）09：30～09：55	6/6	2/2
評議員会	平成28年５月24日（火）15：00～15：30	11(2)/13	2/2
理 事 会	平成28年５月24日（火）15：35～16：30	6/6	2/2
評議員会	平成28年５月24日（火）16：40～17：00	11(2)/13	2/2
理 事 会	平成28年５月24日（火）17：05～17：20	6/6	2/2
評議員会	平成28年９月28日（水）13：00～13：40	12/13	2/2
理 事 会	平成28年９月28日（水）13：50～14：55	5/6	2/2
評議員会	平成28年12月21日（水）15：00～15：50	13/13	2/2
理 事 会	平成28年12月21日（水）16：00～17：00	6/6	2/2
理 事 会	平成29年３月23日（木）14：45～14：55	6/6	2/2
評議員会	平成29年３月23日（木）15：00～15：50	12/13	2/2
理 事 会	平成29年３月23日（木）15：00～15：50	6/6	2/2

３－３　大学の意思決定の仕組みおよび学長のリーダーシップ

本学は、学則で大学の組織、教職員組織、教授会について規定しているほか、学則に係る規程・細則や各委員会の規程に基づき、教育研究に関する事項を審議している。主たる審議機関である教授会とともに、運営協議会を審議機関として置くことにより、大学運営の円滑化を図っている。

運営協議会

「学校法人日本医療大学組織規程」第５条に基づき、本学に運営協議会を置いている。協議会は学長のガバナンスの強化、本学の意思決定および本学運営の円滑化を図ることを目的としている。議長である学長の下、学科長、事務局長などの大学行政管理職階をもって構成される。大学の管理運営に関する事項や教育研究に関わる重要事項のほか、教授会での審議および報告事項、学科間または各部門間の調整に関する事項などを審議する。毎月２回、定期的に開催される。

教授会

本学は、「学校教育法」第93条第１項に規定される教授会として、学長、学科長、専任の教授・准教授を構成員として教授会を設置している。

教授会は毎月2回、定期的に開催される。

教授会の意見を求める事項は、「日本医療大学教授会規程」第3条に規定されている。

委員会

「日本医療大学学則」第45条により、大学運営に必要な委員会を設置しており、それぞれの規程に従って適切に運営されている。

３－４　コミュニケーションとガバナンス

本学の管理運営機関としては、学長の統轄の下に、運営協議会と教授会を必置機関として設置し、その組織は、学部・学科を基本に構成されている。組織は、本学の事務局と連動し、大学運営に規定する任務に基づき適正に機能している。

学長が理事となり法人の意思決定に教学部門の意見が反映される体制を構築している。また、理事会が決定した法人の経営方針に基づき、法人の方向性を共有し責任と権限をもって業務を執行するための執行役員に学長が選任されている。

理事長は「学校法人日本医療大学寄付行為」に基づき法人を代表し、法人の運営全般にわたり、リーダーシップを発揮している。建学の精神および自らの教育理念に基づき、教職員をリードし、理事会を中心として法人全体の管理運営を適切に行っている。

監事は、法人に係る業務全般および財産などの状況について、法人の内部監査室の支援を受けて適時・適切に監査を行い、理事会および評議員会に報告している。

理事会は事業計画、予算、決算の決議を行い、理事の職務の執行を監督している。

評議委員会は「学校法人日本医療大学寄付行為」に基づき適切に運営されている。

学長は理事会に出席し、法人の管理運営に参画するとともに、教授会を適切に運営し、本学の管理運営、教学の両面において常に指導力を発揮している。従って、理事長および学長を中心に本学は適切に運営されている。

３－５　業務執行体制の機能性

本学の使命・目的の達成のため、事務局を編成しており、事務局は「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」など、事務組織に関する諸規程に基づき事務組織の責任体制が明確に定められている。さらに、「学校法人日本医療大学職務権限規程」、「学校法人日本医療大学職務権限規程細則」により決裁権限の移譲および専決事項の明確化を図り、業務の効率的な執行に努めている。

業務執行を管理し、適切に機能させるために本学では、事務局に運営事業グループ、学生支援グループ、学術情報グループ、法人グループを置いている。また、各グループの事務統括責任者とし

て、グループ長を置いている。各業務については「学校法人日本医療大学事務分掌細則」に基づき、組織的かつ能率的な運用を図っている。

私立大学をめぐる環境が激変する中、大学の経営戦略の構築、強化および大学の管理運営機能強化ならびに教育研究機能の活性化が最重要課題となってきた。こうしたことから、事務職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のために、SD（Staff Development）として、学内研修を毎月１回定期的に行っている。

３－６　財務基盤と収支

《資金収支計算書》

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育活動に対する収支を明らかにするものである。

資 金 収 支 計 算 書

平成28年４月１日から

平成29年３月31日まで

（単位：円）

収　入　の　部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
学生生徒等納付金収入	1,260,608,000	1,260,200,200	407,800
授業料収入	974,391,800	973,964,000	427,800
入学金収入	65,100,000	65,100,000	0
実験実習料収入	61,300,000	61,300,000	0
施設設備資金収入	33,200,000	33,200,000	0
附帯教育料収入	126,616,200	126,636,200	△ 20,000
手数料収入	20,787,600	21,205,800	△ 418,200
入学検定料収入	14,930,000	14,790,000	140,000
試験料収入	5,148,000	5,659,000	△ 511,000
証明手数料収入	709,600	756,800	△ 47,200
寄付金収入	520,300,000	520,300,000	0
特別寄付金収入	520,300,000	520,300,000	0
補助金収入	23,972,046	24,035,966	△ 63,920
地方公共団体補助金収入	23,949,000	23,949,000	0
その他の補助金収入	23,046	86,966	△ 63,920
付随事業・収益事業収入	0	437,250	△ 437,250
補助活動収入	0	437,250	△ 437,250
受取利息・配当金収入	34,077	36,161	△ 2,084
その他の受取利息・配当金収入	34,077	36,161	2,084
雑収入	8,522,053	118,791,163	△ 110,269,110
施設設備利用料収入	120,000	120,000	0
その他の雑収入	1,945,853	3,970,670	△ 2,024,817
退職手当給付金収入	6,456,200	110,003,710	△ 103,547,510
徴収不能引当金戻入	0	297,000	△ 297,000
収益事業元入金収入	0	4,399,783	△ 4,399,783

前受金収入	793,358,000	726,710,000	66,648,000
授業料前受金収入	625,654,000	580,330,000	45,324,000
入学金前受金収入	63,000,000	52,800,000	10,200,000
実験実習費前受金収入	27,579,000	23,340,000	4,239,000
施設費前受金収入	14,975,000	14,500,000	475,000
附帯教育料前受金収入	62,150,000	55,740,000	6,410,000
その他の収入	13,100,000	14,961,469	△ 1,861,469
前期末未収入金収入	12,300,000	12,810,480	△ 510,480
預り金受入収入	800,000	2,150,989	△ 1,350,989
資金収入調整勘定	△ 793,245,000	△ 887,442,467	94,197,467
期末未収入金	△ 12,000,000	△ 106,197,467	94,197,467
前期末前受金	△ 781,245,000	△ 781,245.000	0
前年度末繰越支払資金	1,246,913,000	1,246,913,719	
収入の部合計	3,094,349,776	3,046,149,261	48,200,515

（単位：円）

支出の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
人件費支出	1,019,760,893	1,130,943,863	△ 111,182,970
教員人件費支出	801,640,782	805,612,722	△ 3,971,940
職員人件費支出	165,307,968	164,357,568	950,400
役員報酬支出	46,355,943	47,306,343	△ 950,400
退職金支出	6,456,200	113,667,230	△ 107,211,300
教育研究経費支出	401,638,257	392,449,446	9,188,811
消耗品費支出	25,177,668	25,013,624	164,044
光熱水費支出	39,086,649	37,687,589	1,399,060
旅費交通費支出	16,979,492	17,039,933	△ 60,441
奨学費支出	17,400,000	17,420,000	△ 20,000
車両費支出	2,225,044	2,056,435	168,609
福利費支出	7,884,481	7,826,411	58,070
教員研修費支出	22,543,862	21,176,913	1,366,949
通信運搬費支出	5,803,960	5,678,791	125,169
印刷製本費支出	12,508,780	10,843,255	1,665,525
出版物費支出	1,611,628	1,422,195	189,433
修繕費支出	16,335,771	16,276,869	58,902
損害保険料支出	3,013,765	2,818,190	195,575
賃借料支出	27,947,202	25,359,482	2,587,720
環境整備費支出	34,107	28,318	5,789
諸会費支出	2,741,300	2,781,300	△ 40,000
会議費支出	762,991	684,459	78,532
行事費支出	3,108,897	2,931,027	177,870
報酬委託手数料支出	120,244,330	119,146,216	1,098,114
実習費支出	70,588,699	70,539,021	49,678
寄付金支出	1,533,000	1,533,000	0
学生活動補助金支出	2,869,996	3,050,228	△ 180,232
雑費支出	398,635	272,956	125,679
学長政策費	838,000	863,234	△ 25,234

管理経費支出		196,924,125	193,101,738	△	3,822,387
消耗品費支出		1,362,374	1,165,840		196,534
光熱水費支出		2,110,657	2,497,282	△	386,625
旅費交通費支出		4,147,399	1,711,652		2,435,747
車両費支出		1,226,092	721,712		504,380
福利費支出		2,871,954	2,505,112		366,842
研修費支出		249,900	210,700		39,200
通信運搬費支出		673,677	637,200		36,477
印刷製本費支出		12,204	12,204		0
出版物費支出		122,484	117,516		4,968
修繕費支出		2,316,079	1,990,450		325,629
損害保険料支出		14,000	109,630	△	95,630
賃借料支出		5,028,568	6,674,005	△	1,645,437
公租公課支出		1,011,235	899,822		111,413
諸会費支出		2,263,460	2,191,610		71,850
会議費支出		401,196	271,591		129,605
報酬委託手数料支出		123,555,981	124,513,148	△	957,167
広報費支出		44,011,598	43,251,394		760,204
渉外費支出		5,353,212	3,503,920		1,849,292
雑費支出		192,055	83,074		108,981
補助活動支出		0	33,876	△	33,876
借入金等利息支出		7,758,000	7,775,533	△	17,533
借入金利息支出		7,758,000	7,775,533	△	17,533
借入金等返済支出		99,504,000	99,504,000		0
借入金返済支出		99,504,000	99,504,000		0
設備関係支出		38,774,000	38,283,249		490,751
教育研究用機器備品支出		29,662,000	30,880,116	△	1,218,116
図書支出		9,112,000	7,403,133		1,708,867
その他の支出		62,873,000	66,337,856	△	3,464,856
長期未払金支払支出		19,563,000	19,563,384	△	384
前期末未払金支払支出		43,310,000	43,310,167	△	167
前払金支払支出		0	3,464,305	△	3,464,305
予備費		0			
資金支出調整勘定	△	50,000,000	△ 146,244,650		96,244,650
期末未払金	△	45,000,000	△ 143,058,030		98,058,030
前期末前払金	△	5,000,000	△ 3,186,620	△	1,813,380
翌年度繰越支払資金		1,317,117,501	1,263,998,226		53,119,275
支出の部合計		3,094,349,776	3,046,149,261		48,200,515

（収入の部）

収入の部において、予算との比較における増減の主な要因は以下のとおりである。

1　学生生徒等納付金収入は、予算と比較して407,800円減少の1,260,200,200円となった。

2　手数料収入は、予算と比較して入学検定料収入140,000円減少、試験料収入511,000円、証明手数料収入47,200円増加となり、21,205,800円となった。

3　寄付金収入は、特別寄付金で520,300,000円であった。

4　補助金収入は、地方公共団体補助金で23,949,000円、その他の補助金収入で86,966円であった。

5　付随事業・収益事業収入は、補助活動収入で437,250円であった。

6　雑収入は、その他雑収入で科研費間接経費分2,427,057円、退職手当給付金で専門学校日本福祉看護・診療放射線学院看護学科閉科による退職者12人、専門学校からの大学への異動による26人の退職金支出による増加、収益事業元入金で4,399,783円円増加となり、118,791,163円であった。

7　前受金収入は、授業料前受金収入45,324,000円、入学金前受金収入10,200,000円、実験実習費前受金収入4,239,000円、施設費前受金収入475,000円、附帯教育料前受金収入6,410,000円が減少となり、726,710,000円であった。

8　その他の収入は、預り金受入収入1,350,989円、前期末未収入金収入510,480円増加となり14,961,469円であった。

9　資金収入調整勘定は、総額△887,442,467円であった。

（支出の部）

支出の部において、予算との比較における増減の主な要因は以下のとおりである。

1　人件費支出は、111,182,970円支出増加の1,130,943,863円であった。

2　教育研究経費支出における事業活動収支計算書との差異131,766,685円は、減価償却額であり、含めていない額392,449,446円であった。

3　管理経費支出における事業活動収支計算書との差異1,165,897円は、減価償却額であり、含めていない額193,101,738円であった。

4　借入金等利息支出は、17,533円減少の7,775,533円であった。

5　借入金等返済支出は、予算どおり99,504,000円であった。

6　設備関係支出は、教育研究用機器備品支出において1,218,116円の支出減少、図書支出は1,708,867円の支出増加となり、合計で490,751円の支出増加の38,283,249円であった。

7　その他の支出は、長期未払金支出、前期末未払金支出および前払金支払支出等による合計3,464,856円の支出減少により合計66,337,856円であった。

8　資金支出調整勘定（控除科目）は、期末未払金が△143,058,030円、前期末前払金が△3,186,620円であり、合計△146,244,650円であった。

以上により、翌年度繰越支払資金は、予算と比較して53,119,275円減少の1,263,998,226円であった。

《事業活動収支計算書》

資金収支計算書と共通する内容については省略している。

事業活動収支計算書

平成28年４月１日から

平成29年３月31日まで

（単位：円）

		科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,260,608,000	1,260,200,200	407,800
		授業料	974,391,800	973,964,000	427,800
		入学金	65,100,000	65,100,000	0
		実験実習料	61,300,000	61,300,000	0
		施設費	33,200,000	33,200,000	0
		附帯教育料	126,616,200	126,636,200	△ 20,000
		手数料	20,787,600	21,205,800	△ 418,200
		入学検定料	14,930,000	14,790,000	140,000
		試験料	5,148,000	5,659,000	△ 511,000
		証明手数料	709,600	756,800	△ 47,200
		寄付金	520,300,000	520,300,000	0
		特別寄付金	520,300,000	520,300,000	0
		経常費等補助金	23,972,046	24,035,966	△ 63,920
		地方公共団体補助金	23,949,000	23,949,000	0
		その他の補助金	23,046	86,966	△ 63,920
		付随事業収入	0	437,250	△ 437,250
		補助活動収入	0	437,250	△ 437,250
		雑収入	8,522,053	114,391,380	△ 105,869,327
		施設設備利用料	120,000	120,000	0
		その他の雑収入	1,945,853	3,970,670	△ 2,024,817
		退職手当給付金	6,456,200	110,003,710	△ 103,547,510
		徴収不能引当金戻入	0	297,000	△ 297,000
		教育活動収入計	1,834,189,699	1,940,570,596	△ 106,380,897
	事業活動支出の部	人件費	1,035,818,985	1,148,148,275	△ 112,329,290
		教員人件費	801,640,782	805,612,722	△ 3,971,940
		職員人件費	165,307,968	164,357,568	950,400
		役員報酬	46,355,943	47,306,343	△ 950,400
		退職金	6,456,200	113,667,230	△ 107,211,030
		退職給与引当金繰入額	16,058,092	17,204,412	△ 1,146,320
		教育研究経費	530,218,257	524,216,131	6,002,126
		消耗品費	25,177,668	25,013,624	164,044
		光熱水費	39,086,649	37,687,589	1,399,060
		旅費交通費	16,979,492	17,039,933	△ 60,441
		奨学費	17,400,000	17,420,000	△ 20,000
		車両費	2,225,044	2,056,435	168,609
		福利費	7,884,481	7,826,411	58,070
		教員研修費	22,543,862	21,176,913	1,366,949
		通信運搬費	5,803,960	5,678,791	125,169
		印刷製本費	12,508,780	10,843,255	1,665,525
		出版物費	1,611,628	1,422,195	189,433
		修繕費	16,335,771	16,276,869	58,902

教育活動収支	事業活動支出の部	損害保険料	3,013,765	2,818,190		195,575
		賃借料	27,947,202	25,359,482		2,587,720
		環境整備費	34,107	28,318		5,789
		諸会費	2,741,300	2,781,300	△	40,000
		会議費	762,991	684,459		78,532
		行事費	3,108,897	2,931,027		177,870
		報酬委託手数料	120,244,330	119,146,216		1,098,114
		実習費	70,588,699	70,539,021		49,678
		寄付金	1,533,000	1,533,000		0
		学生活動補助金	2,869,996	3,050,228	△	180,232
		雑費	398,635	272,956		125,679
		学長政策費	838,000	863,234	△	25,234
		減価償却額	128,580,000	131,766,685	△	3,186,685
		管理経費	198,090,125	194,267,635		3,822,490
		消耗品費	1,362,374	1,165,840		196,534
		光熱水費	2,110,657	2,497,282	△	386,625
		旅費交通費	4,147,399	1,711,652		2,435,747
		車両費	1,226,092	721,712		504,380
		福利費	2,871,954	2,505,112		366,842
		研修費	249,900	210,700		39,200
		通信運搬費	673,677	637,200		36,477
		印刷製本費	12,204	12,204		0
		出版物費	122,484	117,516		4,968
		修繕費	2,316,079	1,990,450		325,629
		損害保険料	14,000	109,630	△	95,630
		賃借料	5,028,568	6,674,005	△	1,645,437
		公租公課	1,011,235	899,822		111,413
		諸会費	2,263,460	2,191,610		71,850
		会議費	401,196	271,591		129,605
		報酬委託手数料	123,555,981	124,513,148	△	957,167
		広報費	44,011,598	43,251,394		760,204
		渉外費	5,353,212	3,503,920		1,849,292
		雑費	192,055	83,074		108,981
		補助活動支出	0	33,876	△	33,876
		減価償却額	1,166,000	1,165,897		103
		教育活動支出計	1,764,127,367	1,866,632,041	△	102,504,674
教育活動収支差額			70,062,332	73,938,555	△	3,876,223

		科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当	34,077	36,161	△ 2,084
		その他の受取利息・配当金	34,077	36,161	△ 2,084
		教育活動外収入計	34,077	36,161	△ 2,084
	事業活動支出の部	借入金等利息	7,758,000	7,775,533	△ 17,533
		借入金利息	7,758,000	7,775,533	△ 17,533
		教育活動外支出計	7,758,000	7,775,533	△ 17,533
教育活動外収支差額			△ 7,723,923	△ 7,739,372	15,449
経常収支差額			62,338,409	66,199,183	△ 3,860,774
特別収支	事業活動収入の部	科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	0	0	0
		現物寄付	0	0	0
	特別収入計		0	0	0
	事業活動支出の部	資産処分差額	0	0	0
		その他の特別支出	0	0	0
		過年度修正額	0	0	0
	特別収支計		0	0	0
特別収支差額			0	0	0
〔予備費〕					
基本金組入前当年度収支差額			62,338,409	66,199,183	△ 3,860,774
基本金組入額合計			△ 121,966,000	△ 120,812,233	△ 1,153,767
当年度収支差額			△ 59,627,591	△ 54,613,050	△ 5,014,541
前年度繰越収支差額			△ 1,810,324,000	△ 1,810,324,183	183
翌年度繰越収支差額			△ 1,869,951,591	△ 1,864,937,233	△ 5,014,358

（参考）

事業活動収入計	1,834,223,776	1,940,606,757	△ 106,382,981
事業活動支出計	1,771,885,367	1,874,407,574	△ 102,522,207

事業活動全体の収支として、事業活動収入計は、予算と比較して106,382,981円増の1,940,606,757円、事業活動支出計は102,522,207円増の1,874,407,574円となった。

活動区分ごとの収支状況は以下のとおりである。

（教育活動収支：収入の部）

資金収支計算書と共通のため省略する。

（教育活動収支：支出の部）

1　人件費は、退職金で107,211,030円の支出増加となり、全体では112,329,290円支出増加の1,148,148,275円となった。

2　教育研究経費は、6,002,126円支出減少の524,216,131円であった。これは主に、賃借料2,587,720円、報酬委託手数料1,098,114円など、概ね全ての科目において支出減少となったことによる。

3　管理経費は、3,822,490円支出減少の194,267,635円となった。賃借料1,645,437円の支出増加はあったが、他の科目にて支出減少とし支出を抑えた。

（教育活動外収支：収入の部）

普通預金等による受取利息は、36,161円であった。

（教育活動外収支：支出の部）

市中金融機関からの借入にともなう支払利息は、7,775,533円であった。教育活動外収支差額は、△7,739,372円となり、教育活動収支および教育活動外収支を合わせた経常収支差額は、予算より3,860,774円増加し、収入超過額の66,199,183円であった。

（特別収支：収入の部）

該当なし

（特別収支：支出の部）

該当なし

（全体の収支）

基本金組入額は、予算対比1,153,767円減少の120,812,233円となった。当年度収支差額は△54,613,050円となり、翌年度繰越収支差額は、予算の支出超過額見込額より5,014,358円減少の△1,864,937,233円となった。

《貸借対照表》

資産の部は、前年度末対比11,700,063円増加の4,927,982,384円となった。

貸借対照表

平成29年３月31日

（単位：円）

資産の部				
科　　目	平成28年度末	平成27年度末	増	減
固定資産	3,554,316,386	3,653,365,502	△	99,049,116
有形固定資産	3,514,405,485	3,609,054,818	△	94,649,333
土　地	815,708,652	815,708,652		0
建　物	2,261,453,568	2,337,390,690	△	75,937,122
構築物	27,661,537	28,649,449	△	987,912
教育研究用機器備品	220,529,965	241,560,552	△	21,030,587
管理用機器備品	1,364,350	2,702,875	△	1,338,525
図　書	180,151,281	172,748,148		7,403,133
車　両	7,536,132	10,294,452	△	2,758,320
その他の固定資産	39,910,901	44,310,684	△	4,399,783
電話加入権	2,024,904	2,024,904		0
施設利用権	7,000,000	7,000,000		0
出資金	2,050,000	2,050,000		0
収益事業元入金	28,835,997	33,235,780	△	4,399,783
流動資産	1,373,665,998	1,262,916,819		110,749,179
現金預金	1,263,998,226	1,246,913,719		17,084,507
未収入金	106,197,467	12,810,480		93,386,987
前払金	3,464,305	3,041,920		422,385
仮払金	6,000	150,700	△	144,700
資産の部合計	4,927,982,384	4,916,282,321		11,700,063

負債の部			
科　　目	平成28年度末	平成27年度末	増　　減
固定負債	334,331,757	433,825,089	△ 99,493,332
長期借入金	210,661,000	310,165,000	△ 99,504,000
長期未払金	17,028,762	34,222,506	△ 17,193,744
退職給与引当金	106,641,995	89,437,583	17,204,412
流動負債	1,006,909,656	961,915,444	44,994,212
短期借入金	99,504,000	99,504,000	0
未払金	160,251,774	62,873,551	97,378,223
前受金	726,710,000	781,245,000	△ 54,535,000
預り金	20,443,882	18,292,893	2,150,989
負債の部合計	1,341,241,413	1,395,740,533	△ 54,499,120
純資産の部			
基本金	5,451,678,204	5,330,865,971	120,812,233
第１号基本金	5,332,678,204	5,233,865,971	98,812,233
第４号基本金	119,000,000	97,000,000	22,000,000
繰越収支差額	△ 1,864,937,233	△ 1,810,324,183	△ 54,613,050
翌年度繰越収支差額	△ 1,864,937,233	△ 1,810,324,183	△ 54,613,050
純資産の部合計	3,586,740,971	3,520,541,788	66,199,183
負債および純資産の部合計	4,927,982,384	4,916,282,321	11,700,063

１　固定資産

⑴　有形固定資産においては、建物当期減価償却額75,937,122円の減少があった。

教育研究用機器備品は、当期取得は日本医療大学看護学科5,887,891円、日本医療大学リハビリテーション学科4,104,000円、日本医療大学診療放射線学科4,957,200円であるが、減価償却により前年度末対比21,030,587円減少の220,529,965円であった。

管理用機器備品は、前年度末対比1,338,525円減少の1,364,350円であった。

図書は、前年度末対比7,403,133円増加の180,151,281円であった。

車両は、前年度末対比4,399,783円減少の7,536,132円であった。

以上、有形固定資産の部合計は、前年度末対比94,649,333円減少の3,514,405,485円となった。

⑵　その他の固定資産は、前年度末対比4,399,783円減少の39,910,901円であった。

主な要因は、収益事業元入金が4,399,783円減少したことによる。

この結果、固定資産全体では、前年度末対比99,049,116円減少の3,554,316,386円となった。

２　流動資産

現金預金は、前年度末対比17,084,507円増加の1,263,998,226円となった。

未収入金は、前年度末対比93,386,987円増加の106,197,467円となったが、内訳の主なものとして、社団法人北海道私立専修学校連合会交付金の102,066,770円がある。

負債の部は、前年度末対比54,499,120円減少の1,341,241,413円となった。主な要因は以下のとおりである。

⑴　固定負債では、長期借入金が99,504,000円、長期未払金が17,193,744円の減少、退職給与引当金

が17,204,412円の増加となり、前年度末対比99,493,332円減少の334,331,757円であった。

⑵　流動負債では、未払金97,378,223円、預り金2,150,989円の増加となったが、前受金が54,535,000円減少となり、前年度末対比44,994,212円増加の1,006,909,656円であった。

純資産の部では、第１号基本金において、建物・土地に係る借入金返済による組入高42,360,000円、機器備品に係る未払金支払いによる組入高18,168,984円、教育研究用機器備品取得による組入高30,880,116円、図書組入高7,403,133円などがあり、総額98,812,233円増加の5,332,678,204円を計上している。

第４号基本金は、組入高22,000,000円増加の119,000,000円を計上している。

以上、純資産の部合計は、当該会計年度末4,927,982,384円となった。

財　産　目　録

（平成29年３月31日現在）

Ⅰ　資産総額		4,922,963,821　円
内　１　基本財産		3,514,405,485　円
２　運用財産		1,384,740,902　円
〔収益事業用財産		23,817,434　円〕
Ⅱ　負債総額		1,343,368,639　円
内　〔収益事業の負債〕		2,127,226　円
Ⅲ　正味財産		3,579,595,182　円

Ⅰ　資　　産		4,922,963,821　円
1　基本財産		3,514,405,485　円
土　　地	31,314 ㎡	815,708,652　円
建　　物	20,844.18 ㎡	2,261,453,568　円
構 築 物		27,661,537　円
教育用研究機器備品	3,081 点	220,529,965　円
管理用機器備品	20 点	1,364,350　円
図　　書	33,240 冊	180,151,281　円
車　　両	2 台	7,536,132　円
2　運用財産		1,384,740,902　円
預貯金・現金		1,263,998,226　円
未収入金		106,197,467　円
前 払 金		3,470,305　円
電話加入権		2,024,904　円
施設利用権		7,000,000　円
出 資 金		2,050,000　円
3　収益事業用財産		23,817,434　円

土　　地	19,644,959　円
電話加入権	229,320　円
ソフトウェア	166,373　円
預貯金・現金	3,776,373　円
Ⅱ　負　　債	1,343,368,639　円
1　固定負債	351,525,501　円
長期借入金	210,661,000　円
長期未払金	34,222,506　円
退職給与引当金	106,641,995　円
2　流動負債	989,715,912　円
短期借入金	99,504,000　円
未払金	143,058,030　円
前受金	726,710,000　円
預り金	20,443,882　円
3　収益事業用負債	2,127,226　円
流動負債	2,127,226　円

4　自己点検・評価

4－1　自己点検・評価の適切性

4－1－①　大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

本学の使命・目的については、1－2に記載した通りであり、それを達成するためには、自主的で自律的な自己点検・評価が必須である。本学の自己点検評価委員会規程は、平成26年４月１日に制定され、委員会が発足している。本委員会の審議事項は第2条に定められ、(1) 点検評価の基本的方針および実施基準の策定に関する事項、(2) 点検評価の実施に関する事項、(3) 点検評価報告書の作成に関する事項、(4) 点検評価結果の公表に関する事項、(5) その他の必要事項が謳われている。

4－1－②　自己点検・評価体制の適切性

自己点検評価委員会規程第３条により、委員会の構成員は学科長、学科から選出された教員２人、事務局長、運営事業グループ長である。平成28年度の構成員は、表８－１（p.91）のとおりである。

4－1－③　自己点検・評価の周期等の適切性

平成26年度は、自己点検評価委員会は開催されなかった。平成27年度９月から実質的な活動が始まったが不定期な開催であった。平成28年度から定期的に開催している。

4－2　自己点検・評価の誠実性

4－2－①　エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

本学は、開学４年目であり未だ自己点検・評価に至っていない。平成28年度に公益財団法人日本高等教育評価機構（以下、高等教育評価機構）に加盟し、平成31年度に認証評価を受審する予定で

ある。

平成28年度に「教員の自己点検・評価表」（表4－2－①）を作成し、教授会の承認を得て、年度末に全教員に実施した。これは、前年度末に次年度の教育・研究・大学業務・社会貢献についての目標を上司の承認を得て作成し、年度末にそれらの自己評価を行い翌年度の目標を立てPDCAサイクルを実践するものである。

結果を図4－2－ａ～ｅに示す。

教育の重み付け設定（図4－2－ａ～ｄ）に対しては、看護学科の教員は「教員の自己点検評価制度」に記載されている職階別各分野重みづけの目安（表4－2－②）の範囲以内であった。リハビリテーション学科では教授と准教授は範囲以内であったが、講師と助教では教育に対する重み付けの設定が下回っていた。診療放射線学科は教授と講師ともに範囲以内で講師の方が高い重み付け設定であった。教育目標に対する達成度は全学科の平均が3.6ポイントであった。

研究の重み付け設定（図4－2－ａ～ｄ）に対しては、准教授以下に高い傾向が見られ、全学科共に表4－2－②に記載された目安の範囲以内であった。研究目標に対する達成度は全学科の平均が3.0ポイントであったが、看護学科の講師で2.7ポイント、リハビリテーション学科の講師で2.3ポイントと目標を少し達成度できなかった。

大学業務の重み付け設定（図4－2－ａ～ｄ）に対しては、教授が最も高い傾向が見られ、全学科共に表4－2－②に記載された目安の範囲以内であった。大学業務の目標に対する達成度は全学科の平均が3.6ポイントであった。リハビリテーション学科の准教授は2.5ポイントと目標を少し達成度できなかった。

社会貢献の重み付け設定（図4－2－ａ～ｄ）に対しては、看護学科と診療放射線学科の教員は表4－2－②に記載されたに記載された目安の範囲以内であり、教授が最も高い重み付けであった。リハビリテーション学科では准教授と助教の方が高い重み付け設定であった。リハビリテーション学科の准教授は5ポイントと目標を大きく上回る成果があった。

各分野の達成度（図4－2－ａ～c、e）を総合的に判断した評価は、全学科の平均が3.5と目標を達成することができ、概ね良好な結果となった。

表4－2－①　教員の自己点検・評価表

平成　　年度　教員自己点検・評価表　　年　月　日

学科　職階：　　氏名：　　担当上司名：

分　野	ウェイト	具体的目標	成果	達成感	分野達成度	自己評価
教　育	%			5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
				5・4・3・2・1		
				5・4・3・2・1		
研　究	%			5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	
				5・4・3・2・1		
				5・4・3・2・1		
大学業務	%			5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	
				5・4・3・2・1		
				5・4・3・2・1		
社会貢献	%			5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	
				5・4・3・2・1		
				5・4・3・2・1		
	上司のコメント		上司のコメント		達成度 5：目標を大きく上回る成果があった 4：目標を上回る成果があった 3：目標を達成できた 2：目標を少し達成できなかった 1：目標をほとんど達成できなかった	

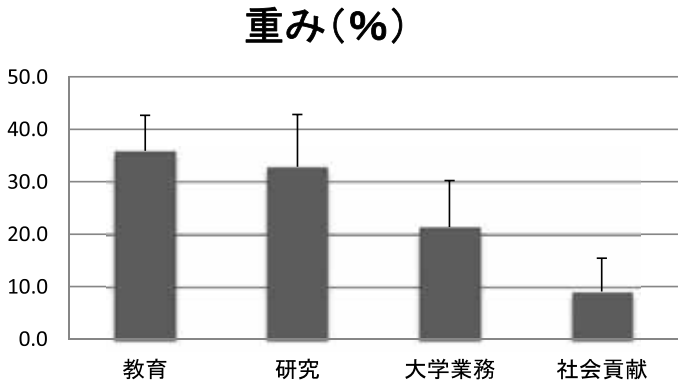
表4－2－②　教員の自己点検・評価制度　(7)職階別各分野重み付けの目安

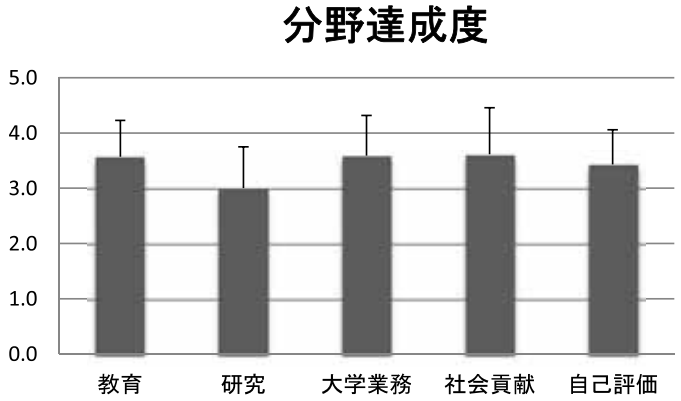
	教 育（%）	研 究（%）	大学業務（%）	社会貢献（%）
教　　授	30～40	20～30	15～40	5～20
准　教　授	35～50	40～50	10～30	0～15
講　　師	35～50	40～60	10～30	0～10
助教・助手	30～40	40～60	10～20	0～ 5

＊達成度

評価５：目標を大きく上回る成果があった
評価４：目標を上回る成果があった
評価３：目標を達成できた
評価２：目標を少し達成できなかった
評価１：目標をほとんど達成できなかった

結果1（全教員）





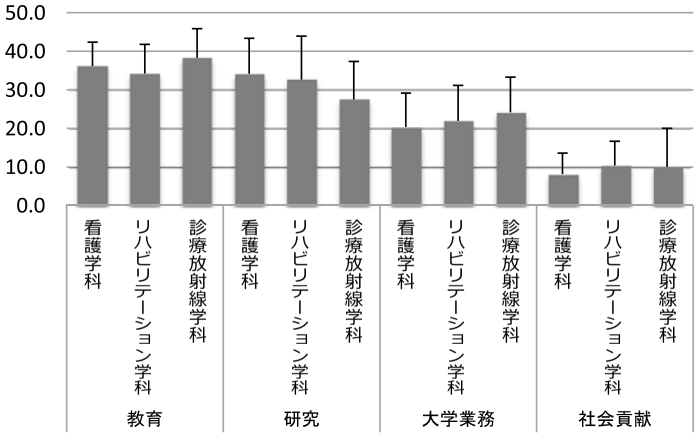
	ウエイト（%）				分野達成度				
	教育	研究	大学業務	社会貢献	教育	研究	大学業務	社会貢献	自己評価
平均	35.9	32.8	21.4	9.1	3.6	3.0	3.6	3.6	3.4
SD	6.8	10.0	8.9	6.3	0.7	0.7	0.7	0.8	0.6
最大値	50	50	40	30	5	4	5	5	5
最小値	20	10	5	0	2	1	2	2	2
中央値	35	35	20	5	4	3	4	4	3

n=44

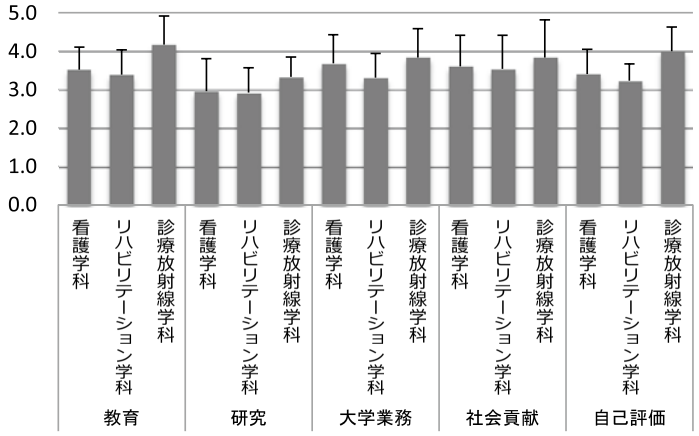
図4-2-a

結果2（学科別）

重み（%）



分野達成度



	教育（ウエイト）			研究（ウエイト）			大学業務（ウエイト）			社会貢献（ウエイト）		
	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科
平均	36.2	34.2	38.3	34.2	32.7	27.5	20.4	21.9	24.2	8.2	10.4	10.0
SD	6.2	7.6	7.5	9.2	11.3	9.9	8.8	9.3	9.2	5.4	6.3	10.0
最大値	50	50	50	50	45	40	40	35	35	20	20	30
最小値	20	20	30	15	10	10	5	10	10	0	5	5
中央値	40	35	35	35	40	30	20	25	25	5	5	5

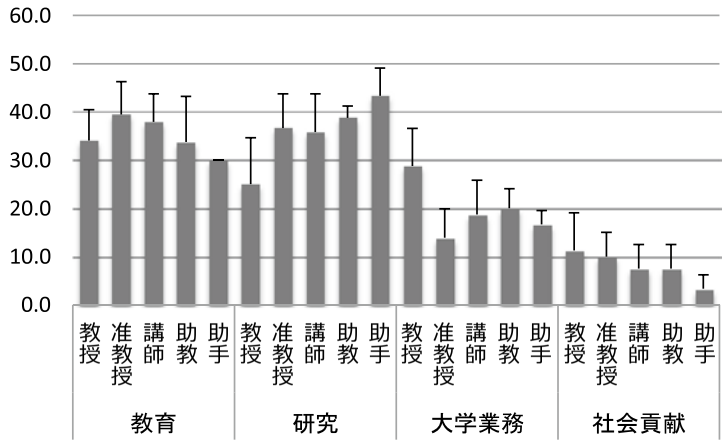
	教育（分野達成度）			研究（分野達成度）			大学業務（分野達成度）			社会貢献（分野達成度）			自己評価（分野達成度）		
	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科
平均	3.5	3.4	4.2	3.0	2.9	3.3	3.7	3.3	3.8	3.6	3.5	3.8	3.4	3.2	4.0
SD	0.6	0.7	0.8	0.8	0.6	0.5	0.7	0.6	0.8	0.8	0.9	1.0	0.6	0.4	0.6
最大値	4	4	5	4	4	4	5	4	5	5	5	5	4	4	5
最小値	2	2	3	1	2	3	2	2	3	2	2	3	2	3	3
中央値	4	3	4	3	3	3	4	3	4	4	3	3.5	3	3	4

図4-2-b

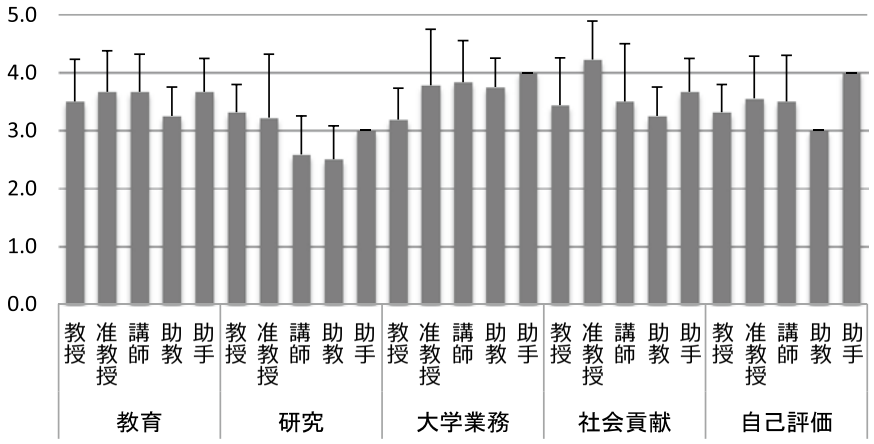
看護学科：n=25　リハビリテーション学科：n=13　診療放射線学科：n=6

結果3（職階別）

重み（%）



分野達成度



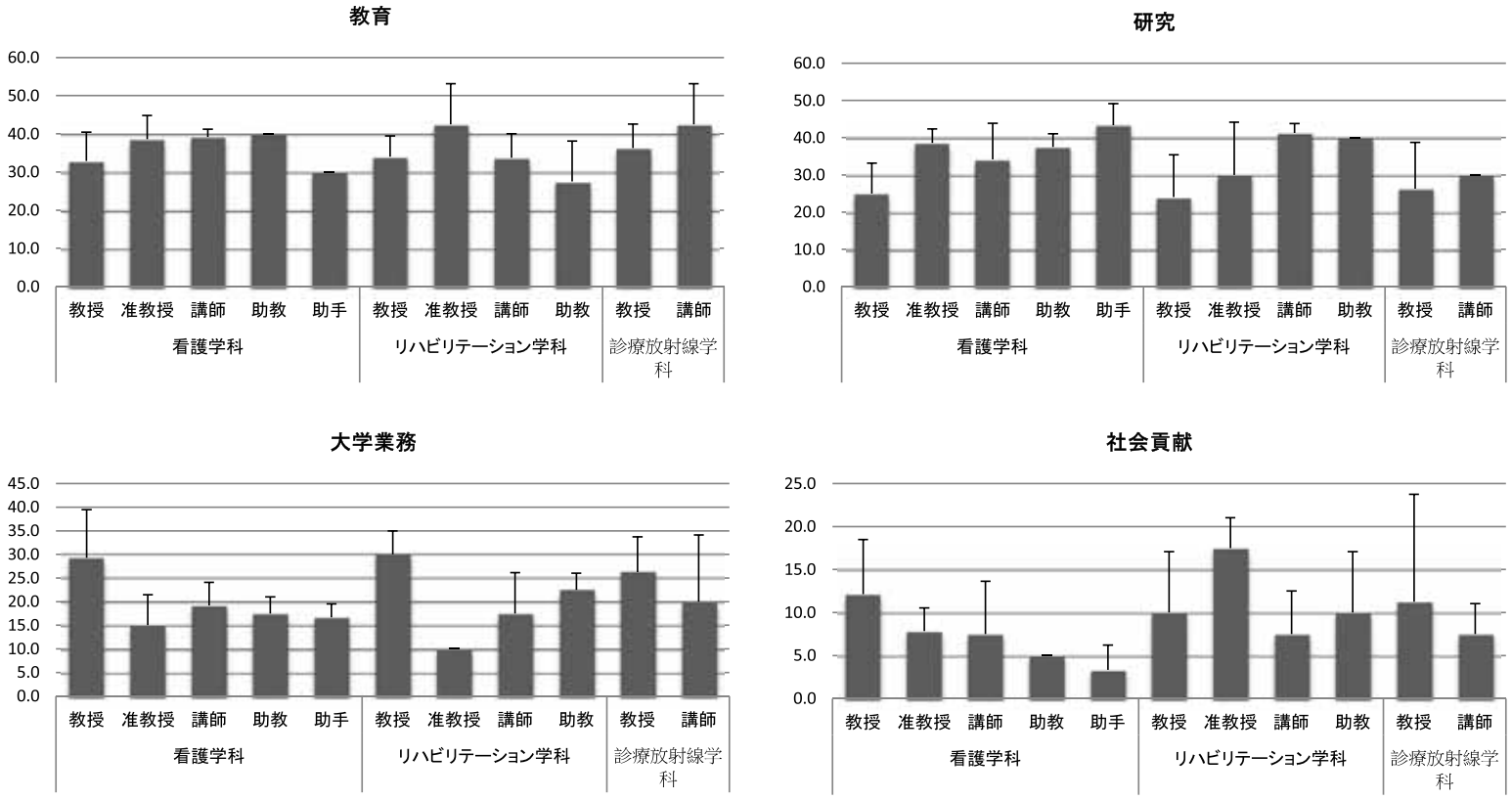
	教育（ウエイト）					研究（ウエイト）					大学業務（ウエイト）					社会貢献（ウエイト）				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	34.1	39.4	37.9	33.8	30.0	25.0	36.7	35.8	38.8	43.3	28.8	13.9	18.8	20.0	16.7	11.3	10.0	7.5	7.5	3.3
SD	6.4	6.8	5.8	9.5	0.0	9.7	7.1	7.9	2.5	5.8	7.9	6.0	7.1	4.1	2.9	7.9	5.0	5.0	5.0	2.9
最大値	45	50	50	40	30	40	40	50	40	50	40	25	30	25	20	30	20	20	15	5
最小値	20	30	25	20	30	10	20	20	35	40	10	5	10	15	15	5	5	5	5	0
中央値	33	40	40	38	30	25	40	35	40	40	30	15	20	20	15	8	10	5	5	5

	教育（分野達成度）					研究（分野達成度）					大学業務（分野達成度）					社会貢献（分野達成度）					自己評価（分野達成度）				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	3.5	3.7	3.7	3.3	3.7	3.3	3.2	2.6	2.5	3.0	3.2	3.8	3.8	3.8	4.0	3.4	4.2	3.5	3.3	3.7	3.3	3.6	3.5	3.0	4.0
SD	0.7	0.7	0.7	0.5	0.6	0.5	1.1	0.7	0.6	0.0	0.5	1.0	0.7	0.5	0.0	0.8	0.7	1.0	0.5	0.6	0.5	0.7	0.8	0.0	0.0
最大値	5	4	5	4	4	4	4	4	3	3	4	5	5	4	4	5	5	5	4	4	4	4	5	3	4
最小値	2	2	3	3	3	3	1	2	2	3	2	2	3	3	4	2	3	2	3	3	3	2	2	3	4
中央値	4	4	4	3	4	3	4	3	3	3	3	4	4	4	4	3	4	4	3	4	3	4	4	3	4

図4-2-c

教授：n=16　准教授：n=9　講師：n=12　助教：n=4　助手：n=3

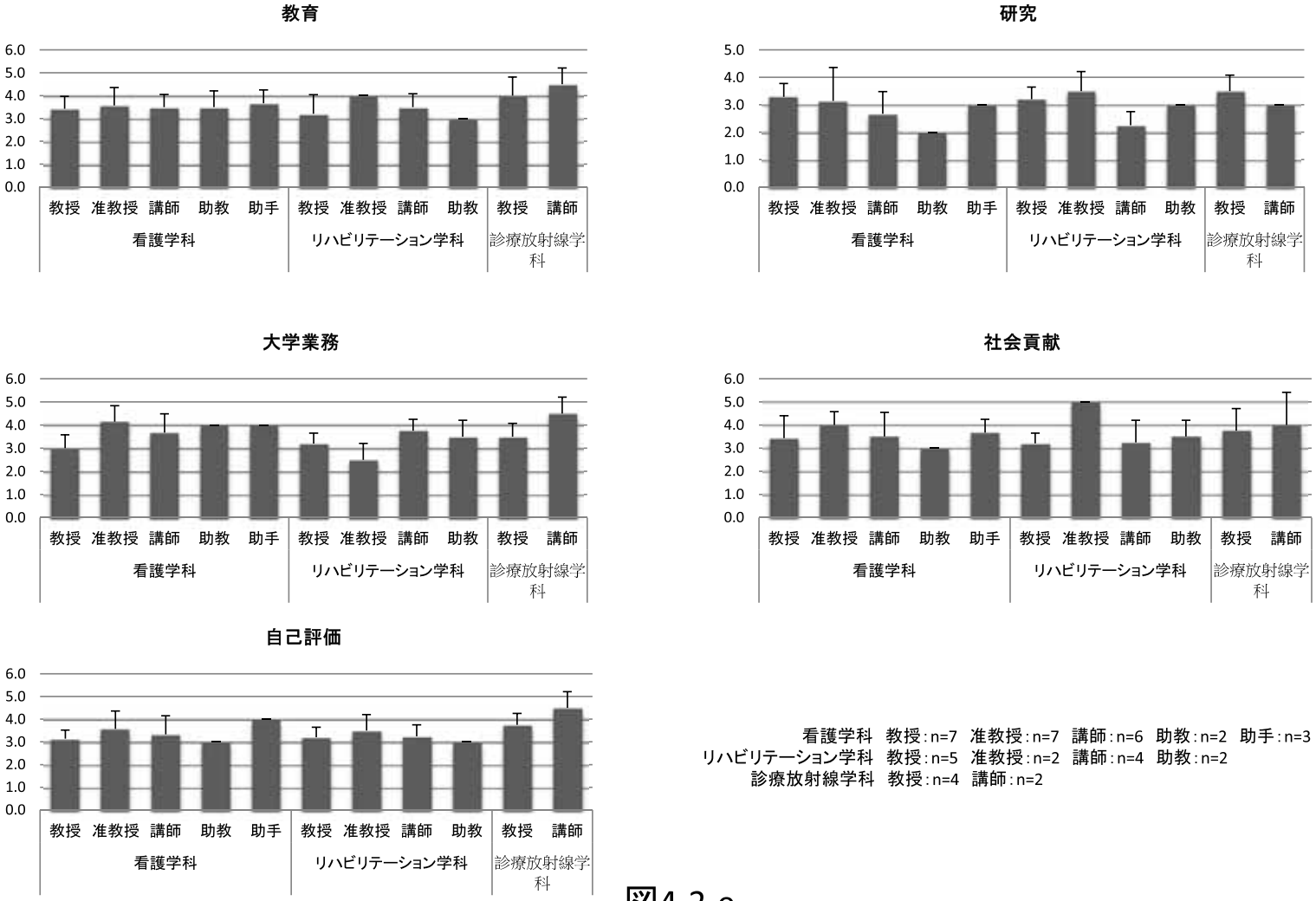
結果4（学科・職階別：重み）



看護学科　教授：n=7　准教授：n=7　講師：n=6　助教：n=2　助手：n=3
リハビリテーション学科　教授：n=5　准教授：n=2　講師：n=4　助教：n=2
診療放射線学科　教授：n=4　講師：n=2

図4-2-d

結果5（学科・職階別：分野達成度）



看護学科　教授：n=7　准教授：n=7　講師：n=6　助教：n=2　助手：n=3
リハビリテーション学科　教授：n=5　准教授：n=2　講師：n=4　助教：n=2
診療放射線学科　教授：n=4　講師：n=2

図4-2-e

4－2－②　現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

自己点検・評価委員会では、点検評価報告書を「日本医療大学　年報（以下、「年報」という。）」として公表することとした。年報を作成するにあたり各種委員会や関連部署に年間の活動報告や資料の提出を依頼し、編纂している。この作業の中で追加の資料を依頼したり疑問に思われる内容の分析や確認を行っている。

4－2－③　自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

年報については、印刷の上、学内教職員に配布し、本学の実情の理解を図っている。また、ホームページにも掲載し、社会に公表している。

4－3　自己点検・評価の有効性

自己点検・評価の結果の活用のためのPDCAサイクルの仕組みの確立と機能性について、本学では各委員会で年度の運営計画と具体的な実施内容、次年度への課題等を年次活動報告として学長に提出している（p.98～118）。学長は、それらを基に年度の事業計画を策定し年度初めに公表している（p.92～97）。一方で、自己点検・評価委員会は、各委員会や担当部署から提出された活動報告を集約し、その運営状況をチェックしている。

5　使命・目的に基づく大学独自の基準設定と自己点検・評価

5－1　日本医療大学認知症研究所

本学の歴史は、昭和59（1984）年４月に札幌市豊平区月寒に開設された特別養護老人ホーム「幸栄の里」に始まる。以来、高齢者医療・福祉の分野で先駆的な役割を果たしてきた。つしま医療福祉グループの運営母体であるノテ福祉会は、北海道、仙台、東京に69高齢者福祉施設を運営している。そうした中で、高齢者医療福祉の分野に有能な人材が必要であるとの要望から、専門学校教育から大学教育へと転換を図るため、平成26（2014）年に日本医療大学を開設した。本学の使命・目的は、「幅広い教養と高度な医療福祉の知識技術を修得し問題解決能力に長けた医療人の育成」であり、使命・目的達成のため、高齢者福祉サービス事業を展開しているノテ福祉会の協力の下、高齢者社会で一番の問題となっている認知症を克服するという使命・目的のため、平成27（2015）年10月1日に大学が設置する研究所としては本邦初となる日本医療大学認知症研究所（以下、「研究所」という。）を設立した。

本研究所の事業内容は、研究部門、広報部門、外部連携部門から成る。研究部門の平成28（2016）年度の主たる事業は、在宅の認知症高齢者を支えるサービスシステムとしての小規模多機能型居宅介護サービスの有効性に関する研究であった。

本研究所は、傳野隆一学長を所長とし、顧問に中村秀一氏（一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長）、今井幸充氏（一般社団法人認知症ケア学会副理事長）を迎え、研究員は対馬

輝美氏（一般財団法人つしま医療福祉研究財団理事長）、２人の本学教授、銭本隆行氏（日本医療大学特別講師）、4人のノテ福祉会施設長で構成されている。

本研究所は、設立されて間もないが、今後は本学を含むつしま医療福祉グループの総合力を活用し、認知症を引き起こす疾患に関する研究や関連事業を行い、国民の健康福祉の増進に貢献しようとしている。

平成28年度の活動状況は、委員会活動報告の項（p.98）を参照のこと。

6　社会貢献

大学自身の啓蒙活動や大学が保有する有形無形の資源を社会に還元することは、大学の使命の一つである。

大学自身の啓蒙活動として、オープンキャンパスや一日体験入学、受験生の保護者を対象とした説明会、高校生や中学生の大学見学の受け入れ、高校への出前講義などが挙げられる。これらの活動は、開学間もない本学を社会に周知し、受験生や入学者の獲得に大変有益である。オープンキャンパスは、真栄キャンパス（看護学科･診療放射線学科）で４回、恵み野キャンパス（リハビリテーション学科）で４回（表6－1）開催した。キャンパスツアーは、１回（表6－2）開催した。一日体験入学は、看護学科で４回、リハビリテーション学科で５回、診療放射線学科で２回（表6－3）開催した。受験生の保護者対象説明会は、１回（表6－4）開催した。大学見学は、真栄キャンパスで5回、恵み野キャンパスで１回（表6－5）受け入れた。出前講義は、17回（表6－6）行った。また、公開講座、生涯学習講座も表6－7・表6－8のように実施した。

表6－1　平成28年度　オープンキャンパス

日程	開催地	参加者数（参加者のうち保護者の数）
６月18日（土）	真栄キャンパス	72人（22人）
６月25日（土）	恵み野キャンパス	50人（16人）
７月23日（土）	恵み野キャンパス	75人（24人）
７月30日（土）	真栄キャンパス	232人（69人）
９月17日（土）	真栄キャンパス	123人（43人）
９月25日（日）	恵み野キャンパス	61人（23人）
10月15日（土）	真栄キャンパス	85人（21人）
10月16日（日）	恵み野キャンパス	32人（10人）

表6－2　平成28年度　キャンパスツアー

日程	開催地	参加者数（参加者のうち保護者の数）
３月28日（火）	真栄・恵み野キャンパス	77人（13人）

表6－3　平成28年度　一日体験入学

日程	開催地	参加者数
5月14日（土）	リハビリテーション学科	22人
7月13日（水）	看護学科	23人　＊　北星学園女子中学高校生徒限定
7月22日（金）	看護学科	20人　＊　北海道野幌高校生徒限定
7月27日（水）	看護学科	25人　＊　北海道石狩南高校生徒限定
7月27日（水）	リハビリテーション学科	4人　＊　北海道石狩南高校生徒限定
7月27日（水）	診療放射線学科	3人　＊　北海道石狩南高校生徒限定
8月3日（水）	リハビリテーション学科	25人
10月18日（火）	リハビリテーション学科	6人　＊　北海学園札幌高校生徒限定
10月28日（金）	看護学科	11人　＊　北海学園札幌高校生徒限定
10月29日（土）	リハビリテーション学科	4人
10月29日（土）	診療放射線学科	10人

表6－4　平成28年度　受験生の保護者対象説明会

日程	開催地	参加者数
10月29日（土）	研修センター	20人

表6－5　平成28年度　大学見学

日程	開催地	高校名	参加者数
6月22日（水）	真栄キャンパス	北海道札幌真栄高校	77人
6月23日（木）	真栄キャンパス	北海道室蘭東翔高校	26人
6月23日（木）	恵み野キャンパス	北海道室蘭東翔高校	16人
6月29日（水）	真栄キャンパス	北海道札幌真栄高校	78人
7月13日（水）	真栄キャンパス	札幌市立中の島中学校	18人
7月20日（水）	真栄キャンパス	駒澤大学附属苫小牧高校	35人

表6－6　平成28年度　出前講義

日程	分野	高校名	参加者数
6月14日（火）	看護	北海道札幌真栄高校	23人
6月23日（木）	リハビリテーション	苫小牧中央高校	6人
6月24日（金）	大学	北海道美幌高校	17人
8月23日（火）	大学	北海道恵庭北高校	11人
9月24日（土）	リハビリテーション	遺愛女子中学・高校	15人
10月14日（金）	看護	海星学院高校	6人
10月21日（金）	リハビリテーション	北海道夕張高校	9人
11月1日（火）	看護	北海道広尾高校	10人
11月2日（水）	大学	北海道恵庭北高校	270人
11月7日（月）	看護	札幌山の手高校	15人
11月8日（火）	看護	北海道静内高校	不明
11月9日（水）	看護	北海道札幌清田高校	20人
1月31日（火）	看護	駒澤大学附属苫小牧高校	23人
2月8日（水）	リハビリテーション	旭川大学高校	14人
2月15日（水）	リハビリテーション	クラーク記念国際高校	10人
2月25日（土）	奨学金	北海道岩見沢西高校	不明
3月16日（木）	看護	駒澤大学附属苫小牧高校	24人

公開講座

表6－7　平成28年度　公開講座

開催年月日	開催地	テーマ	講演者	参加者数
平成28年10月30日	札幌市	高血圧はどうして怖い	島本　和明	137人

表6－8　平成28年度　生涯学習講座

開催年月日	開催場所	テーマ	講演者	参加者数
平成28年4月23日	札幌市	生活習慣病から身を守ろう	島本　和明	100人
平成28年5月28日	札幌市	認知症サポーター養成講座	小林　孝広	55人
平成28年6月25日	札幌市	サプリメントの功罪	村松　　宰	37人
平成28年7月23日	札幌市	高齢者のための快眠生活指南	斉藤　リカ	26人
平成28年8月20日	札幌市	身の回りの放射線	住吉　　孝	29人
平成28年9月17日	札幌市	口腔から始まる健康長寿	賀来　　亨	19人
平成28年10月29日	札幌市	こんな時どうする？高齢者の救急救命	門間　正子	22人
平成28年11月26日	札幌市	先細る年金、負担増の医療費、されど豊かな高齢期を目指して	松本真由美	27人
平成28年12月17日	札幌市	高血圧から身を守ろう	島本　和明	51人
平成29年1月28日	札幌市	ハッピーエンドな人生を	傅野　隆一	34人
平成29年2月25日	札幌市	知っておくと安心、ご家庭でも可能な介護の基本	大堀　具視	24人
平成29年3月25日	札幌市	長生きのための呼吸リハビリ	高橋　光彦	30人

7　顕彰

顕彰事業として本学では日本医療大学年度別学生顕彰を実施している。平成28年度の実施で２回目となる。傳野学長の発案で、入学後の学生の学びや社会貢献を年度ごとに顕彰し、翌年度の学修意欲、活動意欲を高めることを目指して創設された。

学科学年別にそれぞれの学科から年間の成績をもとに成績優秀学生の推薦を受けて行う成績優秀賞と、通年全学科の教員の推薦を受けて行う社会貢献賞の２つからなっている。平成27年度の成績をもとに、前年度末に各学科、各学年ごとに５人の推薦がなされ、全15人が成績優秀賞に選ばれた。看護学科２年５人、３年５人、リハビリテーション学科２年５人である。平成28年度の社会貢献賞は該当者なしとなった。

４月16日に、つしま記念ホールで第２回顕彰状授与式が実施された。学長からは１年間の受賞学生たちの努力に対するねぎらいの言葉が贈られ、代表の学生からは今後の学びに関する新たな決意と感謝の言葉が語られた。

平成28年度末の教授会では、この１年間の成績をもとに各学科から推薦を受けた30人の受賞候補者と、今年度も社会貢献賞の該当者がなかったことが学生委員長により報告された。第３回顕彰状授与式は次年度４月に実施する予定である。

8　委員会活動報告

表8－1　平成28（2016）年度　日本医療大学各種委員会と構成員

任期：平成28年４月１日～平成30年３月31日　　（平成28年８月1日現在）

委員会名	構成（人）	委員長	委　員			
			看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	事務局議事録
教務委員会	11	小山満子教授	門間,畑瀬	乾,高橋,八田	西山,杉本,俵	竹内,**岡村**
学生委員会	12	林美枝子教授	森口,大村	髙橋,大堀,向井	樋口,杉本,小山	竹内,冨田,**森**
入学者選抜試験実施委員会	11	傳野隆一学長 (副:門間正子教授)	門間、佐々木,松本	乾,佐藤,八田	西山,俵	事務局長 **冨田**
自己点検・評価委員会	10	乾　公美教授	門間,山田,滋野	佐藤,八田	西山,樋口	事務局長 **鎌田**
研究倫理委員会	11	佐藤秀紀教授	岡田（洋）,山田,滋野	清田,八田	住吉,小山	学外２人,**杉原**
研究費審査委員会	9	傳野隆一学長	村松、林、小山	髙橋,坪田	住吉,俵	**杉原**
人権擁護委員会	10	林美枝子教授	門間,伊藤	乾,早川,向井	西山,杉本	法人顧問　**竹内**
図書・学術振興委員会	8	村松　宰教授	小島,福島	清田,早川	小山　住吉	**杉原**
就職・進路対策委員会	8	八田達夫教授	草薙,藤長, 岡田（尚）	石橋,坪田	杉本	**竹内**
ＦＤ委員会	9	樋口健太教授	賀来,森口,大村	髙橋,大堀,向井	俵	**竹内**
教員選考委員会			学部長,学科長,審査委員			**事務局長**
ハラスメント防止委員会	7	住吉　孝教授	林,岡田（洋）	坪田,石橋		竹内,**森**
ハラスメント相談員		松本真由美准教授	並川	石橋、清田	樋口	

＊下線：規程にて指定された構成員

平成28年度　日本医療大学　事業報告

平成28年度事業計画の骨子	具体的な実施内容	事業計画実績
Ⅰ　教育活動について		
1　入学者の受け入れについて	1-1　合否判定基準を作成し、合否に対する透明性と客観性を高める	・合否判定基準を入学者選抜試験実施委員会に提出し、了承を得た
	1-2　入学者の分析・結果に基づいた学生確保の施策を検討する	・入試区分ごとの入試結果をまとめ、次年度高校訪問の基礎資料とした
	1-3　アドミッションポリシーを更に明確にし、受験生に周知する	・アドミッションポリシーをより明確にするための検討を進めると同時に、受験生には募集要項と大学案内などで周知を図った
2　教育課程の充実について	2-1　学士課程の教育カリキュラムを充実し、学修の質を高めるために少人数制の学修方法を基盤とした演習を実施する	・現行カリキュラム改正について検討を図るため、看護学科カリキュラム検討会で検討した
	2-2　平成30年度看護学科カリキュラム改訂に向けて検討を進める	・今後、新たにカリキュラム委員会で今後検討を進める
	2-3　履修規程上の変更等について、キャンパスハンドブック、シラバスに掲載し、変更等をわかりやすくする	・履修規程改正に伴う事項について、キャンパスハンドブック及びシラバスへ反映した。また、新入生オリエンテーションで履修上の注意点について、学部全体及びクラス別オリエンテーションで周知した
	2-4　学年進行にあわせたキャリア教育研修を実施し、就職マインドを高める一助とする	・各学科卒業までのキャリア教育・国家試験対策スケジュールを作成し、卒業までの全体像の意識づけを行い、看護学科2年生を対象に「専門職としての活動を知る」と題した講習会及び「社会人教育（自己分析）」、3年生を対象に「接遇・面接マナー研修」、「履歴書の書き方講座」を実施した 　また、リハビリテーション学科1年生、2年生に「キャリア教育研修」及び「コミュニケーションのしくみと作法」を実施した
3　教育効果の評価について	3-1　学生による授業評価アンケートを実施する	・学生による授業評価アンケートでは、各科目担当者に項目ごとの平均値・全平均値・自由記述部分を返却し、あわせて、全科目集計表を添付し、授業改善の参考としてもらうようはたらきかけた
	3-2　授業評価アンケート結果に対する担当科目の教員の意見を求める	・各科目担当教員に授業評価アンケートの集計および自由記述結果を返却し、より良い授業構築へとつながった

	3-3　今後授業評価アンケート結果の公開について検討する	・全科目集計表・必修―選択科目集計表・基礎教育―専門基礎教育―専門教育科目等、グループごとの集計表とそのグラフを真栄キャンパス・恵み野キャンパス、それぞれに掲示し、学生が授業評価アンケートの結果を閲覧できるようにした
	3-4　診療放射線学科の開設にともない、これまでの授業評価アンケート（講義・演習用と実習用）の様式の見直しを行う	・診療放射線学科開設にともない、これまで看護学科・リハ学科で作成した授業評価アンケート（講義・演習用）と（実習用）の様式の見直しを行った
4　教育力向上について	4-1　教育力向上のため、文部科学省に提出した教員採用計画に基づき教員体制の整備を進める	・履行状況報告に基づき、各学科の教員体制の整備を進めている
	4-2　新任教員（看護）に対しては新任教員研修への派遣などにより質的向上を図る	・新任教員の配置がなかったため、研修派遣は実施していない
	4-3　教員研修会を実施し、高大連携に関わる企画で検討する また、高校に新しく導入されつつあるアクティブ・ラーニングを実際に体験するための高校授業視察やアクティブ・ラーニングに関する講演会等を企画する	・教育課程・体制の開発向上や教育方法の向上および研究の充実は学生に提供する講義内容、教育方法の向上とも連動することから、シリーズ1として研究倫理に関する学習会、シリーズ2としてアクティブ・ラーニングに関する学習会を実施した
5　教育環境の整備について	5-1　学生を中心とした教育環境を順次整備する	・看護棟4F視聴覚設備の整備、実習室1のベッドの更新、専門科目演習授業に必要とされる教具等の追加配置を行った
Ⅱ　学生支援について		
1　学修支援について	1-1　各種奨学金の募集情報等を提供し、対象学生の経済的支援をはかる	・新入生オリエンテーションにおける説明会の実施、奨学金掲示板及び学生ポータルサイトで、各種奨学金について周知を図った。また、担当者による個別相談を随時行った
2　図書館の運営について	2-1　図書館資料の計画的な収集と重点的な収集を行う。また、図書館資料の効果的な保存と廃棄を行う	・真栄キャンパス（本館）で図書476冊（看護学科358冊、診療放射線学科118冊）、恵み野キャンパス（別館）で図書186冊（リハビリテーション学科186冊）を購入した
	2-2　図書館員の育成のため研修会へ参加する	・北海道地区私立大学図書館協議会「2016年度第1回業務研修会」と北海道地区大学図書館協議会「第59回北海道地区大学図書館職員研究集会」へ参加した

	2-3　大学間連携協力等の促進と学術機関リポジトリへの登録準備を行う	・医学中央雑誌、JST（科学技術振興機構）、国立国会図書館のデータベースに収録され検索が可能となっており、2件の文献複写の依頼に対応した。機関リポジトリは論文自体の数がまだ少ないため保留としている
3　学習支援の計画について	3-1　引き続き学生相談室の運営を行う	・平成28年度の学生相談室利用者数は、真栄キャンパスが40人（実数7）、恵み野キャンパスが7人（実数4）であった。相談内容は、進路・就職、性格、体調面の相談が多く見受けられた。学生相談室と学生委員会、また、学科教員と学生相談室において、各学科の履修課程、実習等、どの様なサポートが必要か意見交換を行った
	3-2　広報誌「学生相談室だより」を通して学修を支援する	・学生相談室便りの発行、学生相談室イベントを通し、学生相談室の周知を図った
	3-3　『学修ハンドブック』の作成により、学生が主体的に学修できるように支援する	・『学修ハンドブック』を作成し、全学生に配布した。特に、新入生は講義の中で、レポートの作成や、情報収集等について周知した
	3-4　看護学科における学生担当教員による「学担マニュアル」に基づく支援やリハビリテーション学科における「チューター制」による教員と学生間、学生間などの絆を強化する支援を行う	・「学担マニュアル」に基づき、学期開始時に全学生と面接を実施した。リハビリテーション学科における「チューター制」、全教員による「オフィスアワー」の設定により、個別の学生支援に結び付けた
	3-5　留年者、成績不良者に対し、個別指導を行う（リハ学科）	・科目責任者と連携し、学習困難や欠席が目立つ学生とは随時面接し、 必要時は保護者に連絡し支援した
4　就職・進路支援について	4-1　国家試験模擬試験を各学科2年生以上に2回程度実施し、学修意欲の向上を図る	・看護学科2･3年対象にそれぞれ2回、リハビリテーション学科2年生対象に1回の模試を実施した
	4-2　就職進路支援のため看護学科3年生を対象に、就職ガイドブックを活用したガイダンスを実施する	・看護学科3年生を対象に、就職ガイドブックを用い在校生ガイダンス及び就職進路ガイダンスを実施し、進路支援を行った ・キャリア学修支援センターを設置に向けて検討した
5　学友会･課外活動の支援について	5-1　新入生歓迎会や体育大会など学友会主催の定期行事への支援を行う	・学友会主催事業（新入生歓迎会・定期総会、体育大会、ナーシングセレモニー、日医祭、臨時総会）に対し、指導及びアドバイスを行った

	5-2　学内団体の設置や活動報告の確認、監査を行い、学内団体備品の整備を行って支援する	・新規学内団体の承認及び団体備品の整備を行い、学内団体の活動を支援した
	5-3　学生の学内外ボランティアの募集と社会貢献活動を支援する	・真栄キャンパスの玄関前のプランター植栽、茶道部によるアンデルセン福祉村内施設でのお点前披露の他、札幌市と「福祉避難場所等への学生等ボランティアの派遣協力に関する協定」を締結し、次年度のボランティア派遣について、調整を図った
	5-4　外部資金による休暇中の海外研修の応募や国内外協定対象校の検討を行う。ユニセフ協会、ＪＩＣＡ北海道との交流や共同事業活動の推進を通した国際視野の涵養を支援する	・日医祭でユニセフ協会の募金活動に協力した。JICA北海道との交流活動について希望者を募ったが集まらなかった
6　学生生活支援について	6-1　オリエンテーション、オープンキャンパス、保護者会等での本学学生生活の説明や広報活動を行う	・平成27年度の活動を基に、学友会活動、学生支援活動について、広報活動を行った
	6-2　キャンパスの防災に関する「災害時行動マニュアル」作成、発行し、「医療関係者防災アドボケーター」認定制度を創設する	・「災害時行動マニュアル」携帯用を全教職員に配布し、オリエンテーション、ガイダンス時に活用方法について周知した
	6-3　環境整備と学生の居場所作り（ガーデニングや自由文庫、イス・テーブル等の設置改善）を行う	・ガーデンテーブルの配置、昼食スペースの追加（診療放射線棟2F）、看護棟4F屋上のテーブルを設置した。また、恵み野キャンパス学生食堂スペースの改修工事を行い、収容数を増加した
	6-4　第3回学生満足度調査を実施する	・5月に学生生活に関するアンケート調査を実施した
	6-5　過去2回の満足度調査での課題（「学食」「アクセス」）についての意見集約と改善策の提言を行う	・調査結果にもとづいて、学生食堂のメニューの見直し、価格の改定について、学生アンケート結果を運営会社に提言し、改善がなされた。スクール便配車について、バス運行会社との定期的な調整を図った
	6-6　学生委員会主催のセミナー、講演・講和、パネル展等を通して学生生活を支援する	・「今年20歳になる学生のための年金セミナー」、北海道警察による護身術講座、札幌市デートDV講座、「命」を学ぶイベント「いのちのパネル展」、「命」の講演会、臨時総会時講演会を開催し、人間性の涵養への支援を行った

	6-7　人権侵害防止のための企画立案と人権侵害が発生した場合の調査委員会設置と解決策の提言およびその解決策の実施への支援を行う	・人権侵害に関する相談が発生した場合に備え、調査委員会設置の手順や必要な準備について協議した。また、「成績評価に関する疑義申し立て」システムを構築し、皆に周知した
Ⅲ　研究活動について		
1　研究環境の整備について	1-1　老朽化したリハビリテーション学科の教育研究備品を逐次更新する	・間接経費を利用し、8チャンネル多用途アンプ・解析コンピュータなどを導入した
	1-2　研究倫理審査活動としての通常審査および迅速審査の実施を行う	・通常審査4件、迅速審査16件を実施し、全て承認された
	1-3　研究倫理教育について、①研究倫理とは何か②研究倫理教育の必要性③社会の中で研究者が果たすべき役割等についての内容の研修会を実施する	・研究倫理に関する研修として、平成28年8月31日に札幌医科大学附属産学・地域連携センター・副センター長の石埜正穂教授を講師として招き、「『責任ある研究活動への取り組み』－研究活動における不正行為について－」と題した講演会を開催した
2　研究活動の支援について		・コンプライアンスに関して、リハビリテーション学科学科長の　乾公美教授を講師として、平成28年8月31日に「本学における競争的資金等の適正な執行について」についての研修を実施した
3　研費取得の支援について	3-1　公的競争的研究資金の申請支援と取得支援を行う	・文科省科研費は、研究者数10人、研究課題数14課題で獲得した。厚労科研費は研究者数1人、研究課題数1課題で獲得した
4　研究成果の公表について	4-1　研究紀要第3号の発刊や第3回研究報告会の開催を行う	・紀要第３巻を発刊した。内容は総説（1篇）、原著論文（2篇）、研究報告（1篇）、資料（2篇）、短報（1篇）。第３回保健医療学部研究発表会を開催した。発表者は、看護学科3人、リハビリテーション学科3人、診療放射線学科2人の計8人だった
	4-2　保健医療学部教員の研究業績調書（業績目録）作成の準備を行う	・業績目録作成のための作業準備をはじめた。今後目録作成に向けて検討を進めていく

Ⅳ　管理運営について		
1　運営計画について	1-1　運営協議会で各議案や本学運営の懸案事項などについて事前検討を実施し、学長のガバナンス強化や本学の意思決定、運営の円滑化を図る	・運営協議会を原則隔週の計22回開催。学長、3学科長、事務局長、16回目から運営グループ長が参加し、本学運営に関する諸事項について検討、処理した
2　安全管理について	2-1　引き続き建物、機械設備の保守点検契約を締結し、日常チェックを実施する	・委託業者との連携を構築し、日常チェックの強化を実施した
	2-2　28年度作成の「災害時行動マニュアル」の活用を進める	・携帯用マニュアルを作成し学生の意識を向上させた
	2-3　防犯対策としての定期的な校舎見回り部外者の入校確認を行う	・午前・午後の巡回を実施し、防犯と節電の対策強化を実施した
	2-4　情報セキュリチィ対策として、マニュアル等の作成や研修会へ参加する	・業者との情報を共有し、情報セキュリティの対策検討を実施した
3　情報公開・情報発信について	3-1　法令で定められた事項のほか、本学に関する情報等を広く社会に情報公開すべくホームページの充実を図る	・法令で定められた情報の公表はもとより、大学生活等に関わるさまざまな情報をホームページニュースで発信した
4　社会貢献について	4-1　公開講座の実施のほか、出前講座や一日学生体験の実施を行う	・公開講座13回、出前講座17回、一日学生体験11回のほか、オープンキャンパス8回、大学見学6回等を実施した
5　事務組織のレベルアップについて	5-1　日本私立大学協会が実施する全国や北海道での研修会や科研費の説明会など外部での研修会などに参加し、大学職員としての専門性や指導力の向上を図る	・初任者、中堅、課長職各レベルの研修に参加した職員の報告書を共有した
Ⅴ　自己点検・自己評価について		
1　大学認証評価機関への加盟について	1-1　平成28年度の早い時期に「公益社団法人日本高等教育評価機構」に加盟し、研修会に参加する。また、評価員の推薦依頼があれば適任者を推薦する	・「公益社団法人日本高等教育評価機構」に入会し、同機構が開催する研修会に2人が参加した。また、評価員2人を推薦した
2　平成27年度日本医療大学年報の作成について	2-1　自己点検評価委員会報告書として、28年度上半期に「年報」を作成する 年報の記事は、各委員会の活動報告等を基に作成するが、不足する場合は、別途関係部署に依頼する	・教員、関係部署、委員会等の協力を得て、平成26年度・27年度の内容を、創刊号として発行した
3　組織運営の見直しとして、ＰＤＣＡサイクルの実施について	3-1　各委員会の運営について、活動報告を取入れ、その運営状況をチェックする	・各委員会の活動報告を、日本医療大学年報としてまとめることに留まった
	3-2　本学の学則、諸規程、組織機構等を精査し、合理性について検討する	・精査し、諸規程や組織機構の見直しを実施した
	3-3　大学の組織や運営について機構の唱える評価基準を遵守できているか否かを検討する	・「大学機関別認証評価平成27年度判断例」と照合し、改善を要する点を確認した

平成28年度　日本医療大学認知症研究所　事業報告

平成28年度事業計画の骨子	具体的な実施内容	事業計画実績
Ⅰ　啓蒙活動について 1　認知症サポーター養成講座の開催を通して認知症に対する知識と理解を啓発する。	1-1　本学学生向けに実施するほか、専門学校生や地域住民向けに真栄高校の生徒、清田消防署員の実施を検討する	・平成28年5月28日に生涯学習講座59人、同年7月27日　看護学科生20人、同年10月14日に診療放射線学科生51人、平成29年2月7・8・9日に札幌清田消防署員78人に対して養成講座を実施した
Ⅱ　研究活動について 1　競争的資金の獲得に向けた活動を行う。	1-1　小規模多機能居宅介護事業に係るアンケート結果をベースに文科省、厚労省の科研費への応募を検討する 1-2　アミノアップ化学と連携して臨床研究を推進する	・ニッセイ財団高齢社会実践的課題研究助成へ申請し交付が決定された ・臨床研究を実施した

平成28年度　教務委員会活動報告書

実施内容と結果	１．教育課程に関する事項 ２．定期試験およびその他の試験に関する事項 ３．授業計画および実施、授業担当者に関する事項 ４．成績評価、単位認定、進級および卒業に関する事項 ５．休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項 ６．教育施設および教材に関する事項 ①平成28年度年間教材等全体予算 ②平成28年度年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等 および予算 ③次年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱・変更予算 ④次年度教育施設等全体予算 ⑤次年度の初年度教育に関する教材・手引書作成 ７．科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項 ８．学生便覧、講義要項に関する事項 ①キャンパスハンドブックの見直し ②シラバスの見直し ９．その他教務に関する事項 ①履修規程の見直し ②医療者としての情報管理指針 ③保護者懇談会の４月・10月の教務事項 ※教務事項等の報告者（教務委員長)、学科別報告 ④新入生オリエンテーションの日程と内容決定 ⑤在校生ガイダンスの日程調整 ⑥オフィスアワーの調査と学生周知等 １．教育課程に関する事項 1-1. リビリテーション学科の科目の開講時期の変更 ・学習効果を高める理由により、６科目を変更した 1-2. 診療放射線学科の科目の開講時期の変更 ・学習効果を高める理由により、１科目を変更した ２．定期試験およびその他の試験に関する事項 2-1. 定期試験実施要項の一部変更 ・定期試験実施要領を再検討した ・各学科に適応するための定期試験時間割を作成した 2-2. 定期試験に代わる臨時試験の早期の告知の徹底 ・定期試験に代わる臨時試験の早期の告知を徹底するために、告知の時期を試験要項に明記した ・科目責任者は、科目ガイダンス時には定期試験期間外の告知を実施するように周知した ・臨時試験の日時は、１ヵ月前迄に告知することを周知した

実施内容と結果	・臨時試験の日時について、臨地実習開始の１週間前は、教育的効果を認める場合以外避けることを周知した 2-3. 再試験結果の掲示中止の継続 ・再試験の結果は、学生のプライバシー保護の目的で、掲示を中止するとともに、試験結果は、成績表と科目責任者の責任の下で対応することを継続した。 2-4. 追試験の欠席事由と提出種類について ・追試験の欠席事由と提出種類について、定期試験実施要項に明記した 2-5. 成績評価についての疑義申し立て ・成績評価の疑義申し立ての時期について、定期試験実施要項に明記した ３．授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 ・各学科において、予定されていた授業担当者の一部に一身上の都合による変更があった ４．成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 ・成績評価は、進級要件に沿い、判定された結果、進級可能者、留年者、仮進級対象者が判定された ５．休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項 5-1. 休学、退学、復学について ・看護学科は、各学年に休学学生と退学者が数名存在した。休学、退学等に関しては、学担が面談し、教務委員会で検討後、教授会で最終決定し、手続きを実施した ・休学から退学に移行する場合、学年担当者の事前面談と手続きの時期を周知する必要があった ・休学から復学する場合には、（仮進級の希望者は同時に仮進級願い出も提出）復学届を検討後に、教授会で最終決定した ６．教育施設及び教材に関する事項 6-1. 教務委員会等の予算 ・平成29年度の年間予算については、前年度決算費との比較を行い、年度予算案を決定した ・平成29年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等の年間予算については、前年度の実習指導教員・非常勤講師委嘱・変更について、各学科で予算化した ・次年度教育施設等全体予算案を決定した 6-2. 初年度教育の教材・手引書 ・初年度教育に関する教材・手引書を完成し、『学修ハンドブック』として、全学生に配布した ７．科目等の履修生、外国人留学生等に関する事項 ・事項なし ８．学生便覧、講義要綱に関する事項 ・キャンパスハンドブックとシラバスの見直しを実施した

	９．その他教務に関する事項 ・履修規程の一部見直しと改正を実施した ・追実習に関して、各学科で異なる実習形態を考慮した申し合わせ事項を決定した ・医療者としての情報管理指針は、学部としての共有化を継続した ・入学生の保護者説明会（４月）および保護者懇談会（10月）の教務事項の説明を実施した ※教務事項等の報告者は、学科別報告の区分に変更した ・新入生オリエンテーション内容の見直しを行った ・在校生ガイダンスは、各学科と調整して、日程を決定した ・オフィスアワーの調査と学生周知等を行った
次年度への課題等	１．毎年度学科新設に伴う、履修規程の見直しや改正が求められてきた。学生に不利益にならないよう公正・公平な履修規程の検討を継続する必要がある ２．４月の入学生の保護者説明会、10月の保護者懇談会の教務事項（学科と学部での説明内容の区別）の内容の再検討を継続する ３．休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項は、履修規程等を厳守する様に、周知を継続する必要がある ・休学中の学生を担当する学年担当者は、履修規程等に沿い、学生面談（必要時の保護者面談等含む）をし、教務委員会・教授会、事務手続きの時期を考慮した対応ができるように周知する必要がある ・休学後の退学手続きが遅れる場合、除籍の対象となることを学生担任は学生に周知する対応を継続する ・退学手続きについては、特別な事情がない限り、期間内の手続きを周知して進める

平成28年度　学生委員会活動報告書

平成28年度　運営計画	具体的な実施内容
学生委員会の通常業務（学生委員会活動の説明とキャンパスの環境整備と学生生活の情報提供、情報発信、学内交流事業、学生のメンタル・ヘルスの保全、学生の学外活動への支援）	・学生委員会を12回開催（毎月第2水曜日、教授会後） ・オリエンテーション、オープンキャンパス、保護者会等での本学学生生活の説明や広報活動を、パネルやパワーポイントで実施 ・キャンパスの防災に関する「災害時行動マニュアル」を印刷し、全学学生と教職員に配布 ・キャンパスの保安向上に関する事項を引き続き検討、平成27年度に問題化した学内での紛失物（盗難の疑いが濃いもの）に関して今年度は終息し、被害届の提出はなかった。 ・環境整備と学生の居場所作り（ガーデニングや自由文庫、イス・テーブル等の設置改善）を行い、診療放射線学科棟の4階を整備 ・ニュースレター「あずまし」11号から14号を発刊 ・「学生委員会からのお知らせ」2016－1から2016－5を発行 ・学生相談室の運営と学生への広報、「学生相談室だより」4回配布 ・新旧学友会本部メンバーと学生委員の交流会の実施（平成29年３月28日　恵み野キャンパス） ・日ごろの生活指導、および長期休暇前の過ごし方に関する注意喚起、学生の犯罪の被害や加害、事故等への対応を実施 ・第3回学生満足度調査の実施、詳細な結果を運営委員会に提出した。学内のマイクロバスの運行やスケジュール、学食のメニュー等の変更に活かされる。結果は、ニュースレターや学生へのお知らせを通じて学生に知らせた ・９月にマイクロバスの運行に関する学生のニーズをアンケート調査し、大学に結果を報告 ・札幌市と福祉避難場所等への学生等ボランティアの派遣協力に関する協定を締結。学生に平成29年度からボランティア登録が開始されることを説明 ・学生の学内でのアルバイトの紹介を開始
学生委員会主催事業（学生の生活指導や人間力の向上）	啓発セミナー（来年度からは年金セミナーと名称変更を決定） ５月９日（真栄キャンパス）　今年20歳になる学生のための年金セミナー　64人参加 ５月25日（恵み野キャンパス）　今年20歳になる学生のための年金セミナー　37人参加 安心・安全週間 ５月11日（恵み野キャンパス）　千歳警察署による護身術講座65人参加 ５月18日（真栄キャンパス）　道警本部による護身術講座　23人参加 ５月25日（恵み野キャンパス）　札幌市によるデートDV講座　59人参加 ５月31日（真栄キャンパス）　札幌市によるデートDV講座　73人参加 命を学ぶイベント

	10月17日～24日（真栄キャンパス）、24日～31日（恵み野キャンパス） 第3回「いのちのパネル展」 11月29日　第３回講演会「命」「涙にいのちあり　いのちに愛あり」 方波見康雄氏（方波見医院　理事長）　参加者190人 平成29年 １月26日（恵み野キャンパス）　学生委員会セミナー　本学運営事業グループの銭本隆行氏による「安心して暮らせる幸せの国デンマーク」を実施　参加者31人 ３月予定の第３回　春期休暇中スタディ・バスツアーは応募学生がいなかったため中止
学友会支援事業	・学友会主催定期行事への支援 ４月16日　新入生歓迎会・定期総会 ４月21日～27日　熊本地震募金を実施、82,154円を集め、熊本県に送付 ６月８日（水）　第3回体育大会　北海道立総合体育センター（北海きたえーる）メインアリーナ　参加学生310人　教職員30人
学内団体関連	７月５日　看護学科第２回ナーシングセレモニー ９月30（金）～10月１日（土）　第３回日医祭 つしま医療福祉グループから10万円の寄付をいただき、実行委員長の２人の学生が授与式に臨む。両日とも大変盛況で、特に吉本興業からのお笑い芸人のステージには300人あまりの聴衆が集まった。学生委員会からは「大学の歩み展」のパネル展示を実施 平成29年 １月22日（恵み野キャンパス）　会長選挙・臨時総会実施 第４代会長選抜、臨時総会にて承認 ５月末、９月末　学内団体設立申請とその審査、承認 ３月　各学内団体の活動報告書の回収 ・５月末、９月末　学内団体設置申請受付、審査、設置認可。６月末に継続、新規あわせて21団体が活動を開始。９月末の募集、認可に関しては新設２件となり、あわせて学内団体は23件となる ・学内団体備品の整備を実施する ・各学内団体の活動報告の確認・監査を実施する ・学内団体規定第２条２学内団体設立許可申請の提出期限を現行５月末→１月末に、現行９月末→７月末に変更する
学生の賞罰に関する事項	４月16日　平成28年度年度別学生顕彰授与式挙行。20名に顕彰状と副賞を授与する ・年間を通しての社会貢献枠での顕彰学生推薦に関する周知を行ったが、今年度も社会貢献枠での顕彰学生の推薦はなかった。平成29年度の顕彰学生に関する選抜を実施。30人が選ばれる

奨学金に関する事項	・年間を通しての各種奨学金の募集情報の提供と対象学生の選抜を実施 ・保護者会等で返済計画に配慮した貸与についての留意について説明する
国際交流、海外研修に関する事項	・JICA 北海道からの各種イベントの掲示、ボランティアサークルへの情報提供 ・ユニセフ協会の募金活動の実施、協会より感謝状を授与される

平成28年度　入学者選抜試験実施委員会活動報告書

平成28年度　事業計画	実施内容・結果
1．平成29年度入学試験の実施 ・リハビリテーション学科の定員充足のため、入学試験の形態を検討する。 ・合否判定基準を作成し、合否に対する透明性と客観性を高める。	1-1　AO入試の導入 ・リハビリテーション学科の定員充足のため、学生募集対策委員会の検討・要請を受け、リハビリテーション学科においてAO入試を導入した。 ・AO入試の導入に当たっては、リハビリテーション学科の委員を中心に、試験の態様、課題の設定等、企画し、円滑な試験進行のため、関係教職員全員でリハーサルを実施した 1-2　入試日程の決定 ・昨年度の検討の通り、推薦入試を11月第２土曜日の平成28年11月12日、一般入試前期を平成29年２月２日、一般入試後期を平成29年３月７日とした。また、AO入試の日程を他大学の入試日程を勘案し、平成28年９月４日および10月８日とした 1-3　合否判定基準の設定 ・推薦入試、一般入試、AO入試それぞれの合否判定基準を検討し決定した 1-4　入学試験の実施 ・予定通り、推薦入試、一般入試前期、一般入試後期、AO入試を実施した ・各入試において「実施要領」、「学科試験監督要領」「面接試験実施要領」、役割ごとの「作業要領」を作成し、説明会を開催し周知した。また、「試験実施本部員要領」を作成し、試験実施本部員の役割を明確にした ・全ての入試において、事故なく円滑に入試を実施することができた 1-5　平成30年度入試における大学入試センター試験利用入試の導入 ・学生募集対策委員会の検討・要請を受け、平成30年度入学者選抜試験において大学入試センター試験利用入試の導入を検討し決定した ・各学科において本学独自の学科試験等を課すか否か、および受験生に受験させる教科を検討し、その結果を受けて委員会において検討・決定した 1-6　平成30年度の入試日程の決定 ・平成29年度入試の出願状況、他大学の入試日程および大学入試センター試験利用入試の導入を鑑み、AO入試は１回とし平成29年９月９日、推薦入試は平成29年11月11日、一般入試前期は平成30年２月２日、一般入試後期は平成30年３月７日、大学入試センター試験利用入試（看護学科、個別面接試験）は平成30年２月10日に実施することを決定した
2．AO入試・推薦入試合格者に対する入学前学習課題の実施	2-1　入学前学習課題の企画 ・入学前学習課題の内容について各学科において検討し、学科の意見を取り入れ企画した ・学科ごとに指定図書熟読課題または図書推薦文競技、および基礎学力の強化を目的とした数学・物理・生物等の問題集を解くことを学修課題とした

	2-2　入学前学習課題の実施 ・AO入試及び推薦入試合格者に対し、推薦入試合格発表後の平成28年12月から平成29年３月にかけて実施した ＜次年度の課題＞ ○入試に関わる教職員がより効率的に連動し、円滑に入試業務を実施するために、業務を見直し「実施要領」等に反映させていく ○大学入試センター試験利用入試の導入に際し、合否判定基準を検討し決定する。また、大学入試センター試験の実施においては当番校と緊密な連携をとり、本学に振り当てられた役割について責任を持って遂行するよう準備する

平成28年度　自己点検・評価委員会　活動報告

平成28年度　運営計画	具体的な実施内容
1　大学認証評価機構「公益社団法人日本高等教育評価機構」に加盟する	
(1) 加盟の時期について	
平成28年度の早い時期に「公益社団法人日本高等教育評価機構」に加盟し、機構が開催する研修等があれば、積極的に委員を派遣する	○　平成28年度から入会した ○「公益社団法人日本高等教育評価機構」が主催する、平成28年度大学・短期大学評価セミナーに、八田委員、今井委員が参加した
(2)「公益社団法人日本高等教育評価機構」評価員候補者の推薦について	
平成27年度に機構から評価員候補者の依頼があったが、未加盟であったため辞退した。機構に加盟後、再度依頼があれば適任者を推薦する	○　乾委員長、黒澤委員の２人を推薦した。
2　平成27年度日本医療大学年報を作成する	
(1) 年報の作成について	
平成27年度自己点検評価委員会報告書として、平成28年度上半期中に年報を作成する。 年報の内容は、平成27年度に決定した目次に則り構成する 年報の記事は、平成27年度日本医療大学保健医療学部委員会活動報告等を基に掲載するが、不足分は別途資料提出を教員、関係部署、委員会等に依頼する	○　教員、関係部署、委員会等の協力を得て、平成26年度・27年度の内容を、創刊号2015年として平成28年度末に発行した
3　組織運営の見直しとして、PDCAサイクルの実施	
(1) 組織の見直しについて	
各委員会の運営について、活動報告を取り入れ、その運営状況をチェックする 日本医療大学の学則、諸規程、組織機構等を精査し、合理性について検討する 大学の組織の運営について機構の唱える評価基準を厳守できているか否か検討する	○　各委員会の活動報告を、日本医療大学年報としてまとめることに留まった ○　合理性についての検討は行わなかった ○「大学機関別認証評価平成27年度判断例」と照合し、改善を要する点を確認した 次年度への課題等 ○　年報を期日内に発行する ○　改善を要する点として確認した事項の改善を図る ○　平成31年度受審予定の、大学機関別認証評価の準備を進める

平成28年度　研究倫理委員会活動報告書

平成27年度　事業計画	実施内容・結果
①研究倫理審査活動	・通常審査：４件 ・迅速審査：16件
②北海道合同倫理研修会への参加	札幌医科大学「平成28年度札幌医科大学学術振興助成事業　北海道地区医学医療系大学倫理委員合同研修会」：平成28年６月30日開催札幌医科大学医学棟１階　南第１講義室 本学研究倫理委員８名出席（佐藤司会）　修了証発行
③研究データの保存に関するガイドラインの制定	日本医療大学における研究データの保存等に関するガイドライン（このガイドラインは、本学の研究者等が本学における研究活動に伴い作成・取得した研究データの保存期間及び管理方法等についての基準を定めるものである） 平成28年度第８回教授会（平成28年７月22日）にて制定、施行
④研究倫理・コンプライアンスに関する教員研修会（FD委員会との共催）	講師：札幌医科大学医学部医科知的財産管理学 　　石埜正穂教授 講師：リハビリテーション学科学科長 　　乾公美教授 平成28年８月31日開催　研究倫理講習会受講証明書発行 日本医療大学教員45/47人、認知症研究所４人、専門学校（リハビリテーション学科）２人、専門学校（診療放射線学科）５人、事務局５人）計61人
⑤研究倫理講習　受講名簿の作成	日本医療大学教員47人、認知症研究所４人、専門学校（リハビリテーション学科）２人、専門学校（診療放射線学科）５人、事務局５人)、研修会不参加の教員はGreen Bookによる学修（２人修了）計63人 平成28年10月作成
⑥厚生労働省　研究倫理審査委員会報告システムの情報公開	日本医療大学研究倫理委員会委員名簿、手順書（研究倫理委員会規程、研究倫理審査申請様式、研究倫理審査申請の手引き） 平成28年５月公表

今後の課題および引き継ぎ事項 ・厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest: COI）の管理に関する指針の作成 ・「厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest: COI）の管理に関するガイドライン」を作成し、本学教員に周知する ・「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」の改正にともなう研究倫理委員会としての見直しと対応 ・平成27年度個人情報保護法の改定に伴い、「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」が改正（平成29年５月30日施行）となる。改正指針およびガイダンスの内容を確認し、対応することが求められている

平成28年度　研究費審査委員会活動報告

平成28年度　事業計画	平成28年度　学術助成費及び教育向上研究費の予算執行について
実施内容と結果	・研究費審査員会は、学術助成費及び教育向上研究費の配分額を決定するため、３回の委員会を開催した ・各学科の設置経過の違いから、この研究費の運用については、様々な意見が出された。しかし、第２回教授会の決定に従い基準配当額に沿ってまず交付することとした
次年度への課題	・来年度以降の配分方法に関して今後継続して検討していくこととした

平成28年度　人権擁護委員会活動報告書

平成28年度　運営計画	具体的な実施内容
組織の整備と関連規程の改定の検討	・顧問弁護士の依頼等による委員会組織の整備 大学に顧問弁護士の委員就任の依頼を願い出るが、未決定 ・「人権擁護委員会規程」に関連する他の委員会の規程との齟齬の有無を調べ、規程の改正に関して話し合いを行い、修正案を提出した
キャンパス・ハラスメントが発生した場合の防止委員会から学長に提案される対応策の妥当性の審議と再調査の検討	・キャンパス・ハラスメントに関する相談が発生し、防止委員会から学長に対して対応策が提案された場合の、審議および再調査の話し合い実施の準備 ・相談が発生しなかったため審議および検討は行わなかった
人権侵害が発生した場合の調査委員会設置と解決	・人権侵害が発生した場合の調査委員会の設置 ・解決策の提言およびその解決策の実施への支援 人権侵害の案件が発生しなかったため解決策の提言、解決策の実施への支援は起こらなかった
人権侵害防止のための企画立案	・人権侵害に関する相談が発生した場合に備え、調査委員会設置の手順や必要な準備について検討すること 「成績評価に関する問い合わせ」システムを構築し、皆に周知した ハラスメント委員会での調査委員会との区別がつくよう本委員会で規定修正案を作成し、大学に提出した ・学生委員会やキャンパス・ハラスメント防止委員会等との連携による、人権侵害を防止する講演やプログラムを共催する ・平成28年４月からの「障害者差別解消法」の施行により、身体障害や発達障害等の診断書を持つ学生に対して、キャンパス内で平等に学べるための配慮が、本学にも努力義務として課せられることになったため、一年を通して本学における具体的な配慮のあり方を協議し、大学に提言する 今年度も診断書を持つ学生はいなかったため、合理的対応に関する取り組みについて検討を開始した継続審議課題として次年度委員会へ申し送る

平成28年度　図書・学術振興委員会活動報告書

平成28年度　事業計画	１．平成28年度図書購入 ２．平成28年度公開講座の実施 ３．紀要第３巻の発刊 ４．第３回保健医療学部研究発表会の開催 ５．恵み野キャンパス図書館の職員の雇用
実施内容と結果	1－1.平成28年度看護学科図書購入状況 和書（280冊）、視聴覚（16本）、和雑誌（53種）、洋雑誌（9種） 1－2.平成28年度リハビリテーション学科図書購入状況 和書（136冊）、洋書（2冊）、和雑誌（31種）、洋雑誌（17種） 1－3.平成28年度診療放射線学科図書購入状況 和書（115冊）、視聴覚（3本）、和雑誌（8種）、洋雑誌（5種） 2－1.平成28年度公開講座を実施 テーマ：「高血圧はどうして怖い」 講師：日本医療大学　総長　島本　和明 平成28年10月30日開催　札幌パークホテル 受講者：137人 3－1.紀要第３巻を発刊 総説（１篇）、原著論文（２篇）、研究報告（１篇） 資料（２篇）、短報（１篇） 平成28年３月31日発刊 4－1.第３回保健医療学部研究発表会を開催 平成28年３月30日開催 発表者：看護学科３人、リハビリテーション学科３人、診療放射線学科２人の計８人の教員が発表 5－1.恵み野キャンパス図書館の職員雇用 平成28年９月20日１人採用
次年度への課題等	蔵書点検 学術機関リポジトリへの登録準備

平成28年度　就職・進路対策委員会活動報告書

平成28年度　事業計画	１．看護学科は２年生のガイダンス、キャリア教育研修、国家試験模試、キャリアプラン講習会、３年生のガイドブック説明、ガイダンス、進路希望調査、国家試験模試を実施する ２．リハビリテーション学科はキャリア教育研修、国家試験模試を実施する ３．リハビリテーション学科と診療放射線学科は４学年分の年間スケジュールを作成する ４.「就職相談室の人員配置及び国家試験対策専従職員配置」に関する要望書を提出する
実施内容と結果	1-1　ガイダンス ・看護学科２年生に就職・国家試験対策ガイダンスを実施し、３年生に就職ガイドブックの説明、就職・国家試験対策ガイダンスを実施した 1-2　キャリア教育研修 ・看護学科２年生に「社会人教育（自己分析）」を実施した。３年生に「接遇・面接マナー研修」、「履歴書の書き方講座」を実施した。進路希望調査を２回実施した 1-3　国家試験模試 ・看護学科２年生、３年生に国家試験模試を２回実施した。結果の分析とフィードバックを実施した。 1-4　キャリアプラン講習会の実施 ・看護学科２年生に「専門職としての活動を知る」と題した講習会を実施した 2-1　キャリア教育研修 ・リハビリテーション学科１年生、２年生に「キャリア教育研修」および「コミュニケーションのしくみと作法」を実施した 2-2　国家試験模試 ・リハビリテーション学科２年生に学科内の国試対策委員会と連携して国家試験模試を実施した 3-1　年間スケジュール ・看護学科のスケジュールを参考にリハビリテーション学科と診療放射線学科の年間スケジュールを作成した ４　「就職相談室の人員配置および国家試験対策専従職員配置」の要望書を提出した ・３学科長の「キャリア教育支援センター設置と教員増員」の要望提出もあり、「キャリア学修支援センター」が設置された。それにともない当委員会は廃止となり、委員および活動はキャリア学修支援センターに引き継がれることになった。新たに看護部門の専門員１人が配置された
次年度への課題等	１．次年度は看護学科１期生が４年生になるので、国家試験対策などキャリア学修支援センターの成果が求められる ２．各学科の年次計画に基づきキャリア教育、国家試験模試等を実施することが必要である ３．学科共通の就職ガイドブックを作成することが必要である

平成28年度　FD委員会活動報告書

平成28年度　事業計画	FD委員会は教育課程・体制の開発向上および教員の教育方法の向上等のための業務を行うことを役割とするものである。具体的には次の５点である ①　学生による授業評価アンケートの改訂 ②　学生による授業評価アンケートおよびフィードバックの実施 ③　教育課程の検討 ④　教員研修会の実施 ⑤　授業方法の開発 以下、FD委員会の役割にそって、平成28年度実施内容と結果を報告する
実施内容と結果	①　学生による授業評価アンケートの改訂 ・診療放射線学科開設にともない、これまで看護学科・リハビリテーション学科で作成した授業評価アンケート（講義・演習用）と（実習用）の様式の見直しを行った ②　学生による授業評価アンケートおよびフィードバックの実施 ・授業評価に関しては、各科目の講義の最終回に実施した。実施方法は科目担当教員がアンケート用紙を配付し、学生が記入後、事務職員が回収にあたるか、または学生がボックスに投函した。集計結果は、各科目責任者に項目ごとの平均値・全平均値・自由記述部分を返却し、あわせて、全科目集計表を添付し、授業改善の参考としてもらうようはたらきかけた。また、全科目集計表・必修―選択科目集計表・基礎教育―専門基礎教育―専門教育科目等、グループごとの集計表とそのグラフを真栄キャンパス・恵み野キャンパス、それぞれに掲示し、学生が授業評価アンケートの結果を閲覧できるようにした ・各科目責任教員に授業評価アンケートの集計および自由記述結果を返却し、より良い授業構築へとつながった ・次年度から、各教員からはその内容を受け今後の教育にどう反映させるかを書面（電子データ）で提出してもらうことが話し合われた。さらに、提出されたものは学生にも公開し、各教員、学生間の双方の意見交流の機会とし、より良い授業構築へとつなげることが決定された ③　教育課程の検討 ・看護学科は２年間授業を行った中で変更や追加が望ましい部分等を加味し、2018年度以降の新カリキュラム再編へ話し合いが行われた。FD委員会ではカリキュラム検討会の推移を見守った ④　教員研修会の実施 ⑤　授業方法の開発 ・教員研修会に関しては、平成28年度は各教員の研究活動に関わる企画を据えた。研究活動はFD委員会の主目的である教育課程・体制の開発向上や教育方法の向上とも間接的につながるものであり、研究の充実は学生に提供する講義内容、教育方法の向上とも連動することから、シリーズ1として、研究倫理に関する学習会、シリーズ２としてアクティブ・ラーニングに関する学習会を実施した

	研究倫理については、近年、研究者に倫理意識の向上が求められており、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が出され、大学教員に対し研究倫理に関する講義の受講が義務付けられていることから、研究倫理委員会との合同企画としてシリーズ１を実施した ・シリーズ１：平成28年８月31日（水） 第１部　研究倫理教育　13：30～15：00 札幌医科大学　医学部知的財産管理学　石埜正穂教授 「責任ある研究活動への取り組み」－研究活動における不正行為について－ 第２部　コンプライアンス教育　15：10～16：10 本学リハビリテーション学科学科長　乾　公美教授 －本学における競争的資金等の適正な執行について－ ・シリーズ２：平成28年９月６日（水）14：00～16：00 北海道大学高等教育推進機構　高等教育研修センター 山本　堅一　特任准教授 「アクティブ・ラーニングについて」 参加者は公務で不在の教員を除き、２回とも全教員の参加があった。研修内容、時期、場所、所要時間について参加者にアンケートを実施した結果、有意義な研修であったという意見が多かった
次年度への課題等	①　教員研修会の実施 ・平成29年度FD委員会企画研修会は、研究倫理委員会企画研修会と運営主体を別とし、同日開催で日程調整を図ることとした。また、講演者については、北海道大学高等教育推進機構　特任准教授山本堅一氏に内諾を得ており、医療系学部に対応した内容も含め依頼することとした ②　学生による授業評価アンケートの検討 ・看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科の学年が進行する中で授業評価アンケート（講義/実験・演習用）と（実習用）の様式について、各学科で改善事項があれば検討を行う ③　学生による授業評価アンケートおよびフィードバックの実施 ・平成29年度（前期・後期）は、専任教員科目については学生へのフィードバックを実施することとした ・授業評価アンケート結果に対する科目責任者から学生へのフィードバック（100字から300字以内）について、統一のフォーマットにコメントを掲載し、学生ポータルサイトにPDFで掲載する ④　授業方法の開発 ・講演会の企画や研修会に参加し授業方法の開発や提言を行う

平成28年度　ハラスメント防止委員会活動報告書

平成28年度　事業計画	1　ハラスメント相談員を選出し、真栄キャンパスおよび恵み野キャンパスの学生に対して掲示による周知を行い、些細な事でも相談できる体制を整える 2　ハラスメント相談員が相談に必要な知識を身に付けるための研修会を開催する 3　ハラスメントの防止等に関する規程の見直し及び様式等の整備を行う
実施内容と結果	1　ハラスメントの防止等に関する規程に定められた５人の相談員を選任し、相談員の互選により主任相談員を選出した。相談員の氏名および連絡先を、真栄および恵みのキャンパスの学生掲示板に掲載し、相談体制を整えた 　ハラスメントに関する相談に応じ、相談者に助言した事案は２件あり、これらについて相談員から提出された２号報告書の内容検討を委員会で行った 2　ハラスメント相談員研修会 　平成28年８月31日開催　真栄キャンパス（参加教職員：56人） 「アドボケーターのための研修会から　二次被害を与えないために」 本学教員　林　美枝子　教授 　ハラスメント調査委員会が設置された場合には全教職員の中から委員が選任されるため、相談員以外の教職員にも参加を呼び掛けた 3　現行の規程において改正すべき箇所の議論を行い、改定に向けた文言の整理を行った。相談員連絡会議からの要望事項について検討を行い、規定の改定案に取り入れることとした。また、『キャンパスハンドブック』の文言の修正に関する要望についても検討を行い、2017年度版に反映させた
次年度への課題等	1　「ハラスメントの防止等に関する規程」についての改定案の作成 2　ハラスメントの防止に関する研修 3　相談員と学生相談室および保健室との連携・協力体制の構築 4　相談員の学外における研修会参加と必要経費の予算化

平成28年度　日本医療大学認知症研究所活動報告書

平成28年度　事業計画	１．研究事業 ２．普及事業
実施内容と結果	１．研究事業 1-1　ニッセイ財団研究助成研究助成の内容 　目的：認知症の家族介護のため主たる介護者が職を辞めざるをえない介護離職は社会的問題になっている。介護をしながらでも長く働き続けることができる職場環境を整備し、介護と職業の両立支援を行うための介護サービスの在り方を模索することが介護離職を防ぐ重要な課題である。小規模多機能型居宅介護事業が、就労中の介護者の離職防止に機能することが考えられるが、まとまって集計されたデータは見当たらない。 　本研究は、日本医療大学認知症研究所が先に行った研究結果に基づき、「介護者の健康状態の改善」「介護離職回避のニード研究」「介護職員のスキルアップ」「介護者のバックアップとして地域の認知症サポーターを増やす」の４つの課題を解決する方法を、小規模な介護事業による新たな展開により研究・実践し、認知症介護者を支える方略について具体的提言を目指す。 研究タイトル：「認知症介護者支援への小規模な介護事業の新たな展開に関する研究」 　研究助成額：380万円（２年間） 1-2　臨床研究 　日本医療大学認知症研究所は、株式会社アミノアップ化学と提携し、酵素処理アスパラガス抽出物（ETAS）の認知症に対する臨床効果の検証を実施している。 　軽度・中等度認知症患者20人（１日３カプセル、３ヵ月間服用）に対し、酵素処理アスパラガス抽出物（ETAS）カプセル（サプリメント）を摂取することで「脳機能改善」の臨床効果を検証している。酵素処理アスパラガス抽出物（ETAS）とはETASは体内に摂取することにより、体の細胞内の熱ショックタンパク質(HSP)を増加。HSPは細胞を保護･修復する働きをし、「抗ストレス」「快眠作用」「脳機能改善」などの効果が認められてきている。 ２．普及事業 　認知症サポーターの養成認知症サポーター養成講座をとおして、認知症の症状・診断・治療・予防・心構えなどについて説明し、認知症の方や家族が、地域での生活を安全に穏やかに営むために一人でも多くの方に認知症の事を知って頂き、サポーター（=応援者）となって頂ける活動を推進している。 実施状況 2-1　平成28年２月23日　認知症サポーター養成講座 　　対象：北海道美容業生活衛生協同組合　30人 　　場所：BEAUT20

	2-2　平成28年５月28日　生涯学習講座（認知症サポーター養成講座） 　対象：一般市民　59人 　場所：札幌市月寒公民館 2-3　平成28年７月27日　認知症サポーター養成講座 　対象：日本医療大学保健医療学部看護学科学生及び職員　12人 　場所：つしま記念ホール 2-4　平成28年10月14日　認知症サポーター養成講座 　対象：日本医療大学保健医療学部診療放射線学科学生及び職員　51人 　場所：診療放射線棟 2-5　平成29年２月７日、８日、９日　認知症サポーター養成講座 　対象：消防署員　２月７日32人、２月８日24人、２月９日22人 　場所：清田区消防署
次年度への課題等	１．研究事業 1-1　アスパラ抽出物（ETAS）の研究成果について報告 1-2　ニッセイ財団中間報告書作成 1-3　（株）クオリとの受託研究開始 ２．普及事業 2-1　看護学科１年80人、リハビリテーション学科１年80人、診療放射線学科１年50人の認知症サポーター養成講座実施予定 2-2　北海道警察学校初任科生約500人の認知症サポーター養成講座受入

編集後記

『日本医療大学年報』第２号をお届けします。諸般の事情で発刊が遅れましたこと、まずはお詫び申し上げます。

年報は、来し方を示す里程標であるとともに、行く末を示す磁針となるものと思います。本誌の作成が、本学の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化につながる取り組みの一つとして機能していくことを切に願います。

本誌の編集に際し、資料を寄せていただいた教員、各種委員会、事務局の皆様に感謝いたします。また、お忙しい中、幾度となく校正の労をとっていただいた自己点検・評価委員の皆様、ともに編集にあたっていただいた銭本隆行運営事業グループ長に感謝いたします。　（文責：山田敦士）

自己点検評価委員会

委員長：乾　公　美

委　員：佐　藤　秀　紀

委　員：滋　野　和　恵

委　員：西　山　　篤

委　員：八　田　達　夫

委　員：樋　口　健　太

委　員：藤　原　健　祐

委　員：門　間　正　子

委　員：山　田　敦　士

編集事務担当

運営事業グループ：銭　本　隆　行

日本医療大学年報　第２号

2016年

発行者　日本医療大学

〒004-0839　札幌市清田区真栄434-1

Tel（011）885-7711

印刷所　（社福）北海道リハビリー

〒061-1195　北広島市西の里507番地1

Tel（011）375-2116